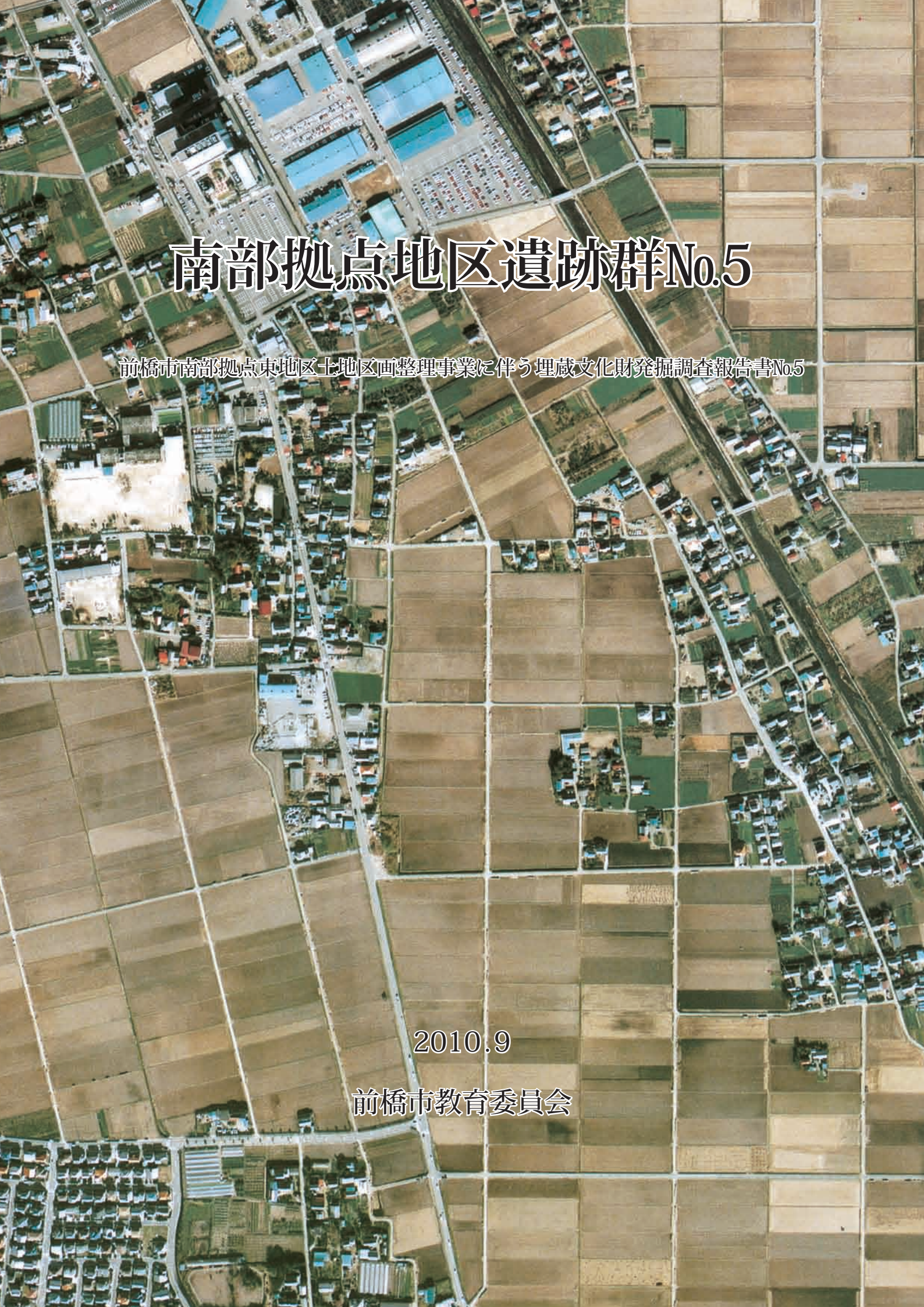


南部拠点地区遺跡群No.5

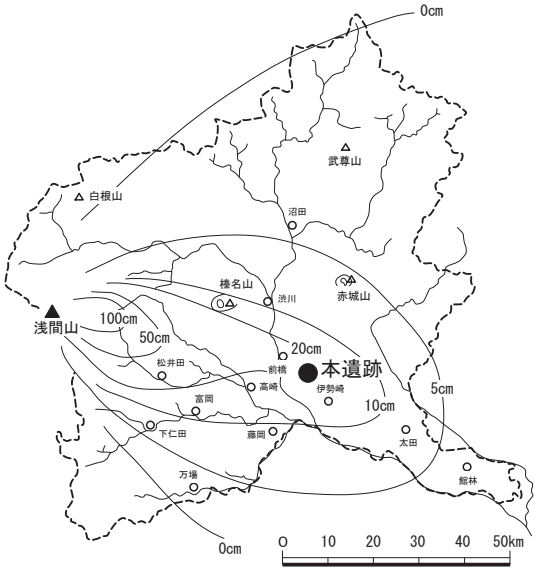
前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.5

2010.9

前橋市教育委員会

南部拠点地区遺跡群No.5

前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書No.5

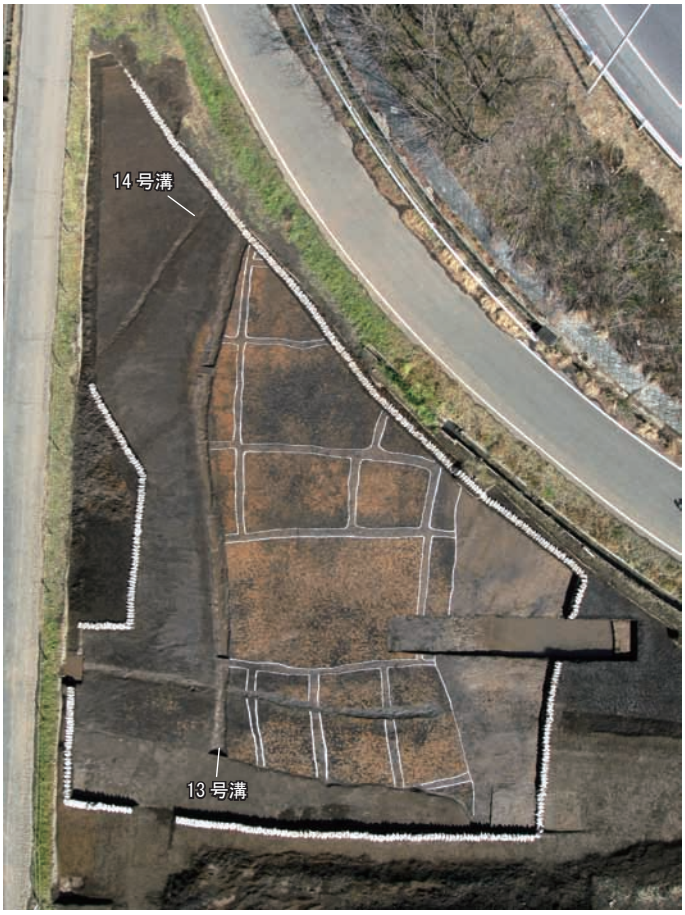


浅間B軽石降下の等厚線図（町田・新井1992による）

2010.9

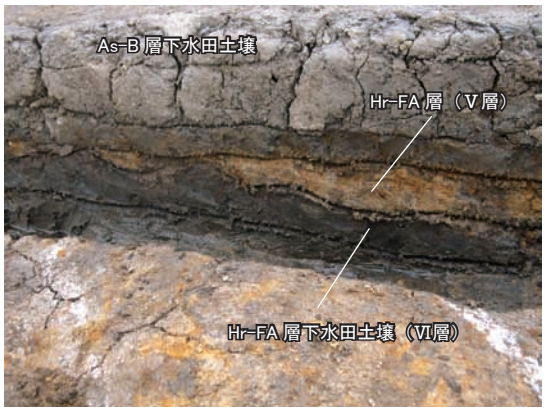
前橋市教育委員会

調査区（４区）から榛名山・浅間山を望む



Hr-FA 層下水田跡（２区）

Hr-FA 層下水田跡　畦畔近景（２区）



Hr-FA 層下水田跡　断ち割り（２区）

巻頭写真２

As-B 層下水田跡　１区 区画 28 の水田面

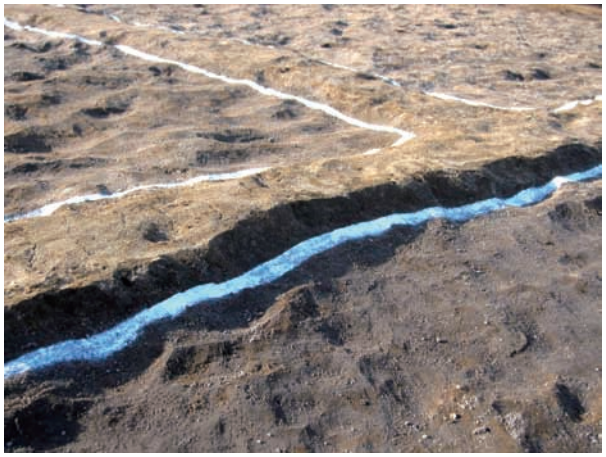
As-B 層下水田跡　２区 区画 32 の水田面

As-B 層下水田跡　３区 区画 46 の水田面

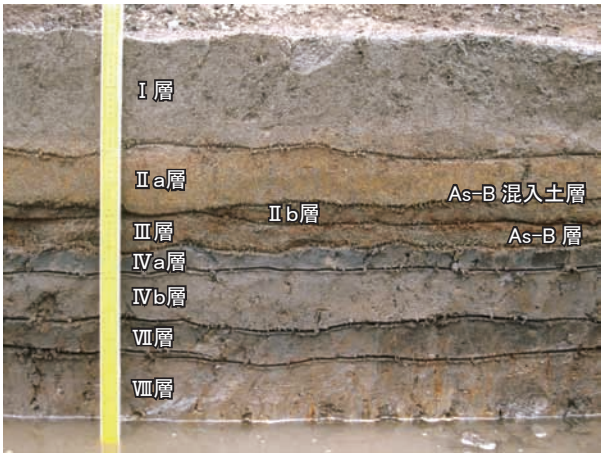
As-B 層下水田跡　４区 区画 79 の水田面

As-B 層下水田跡　１号足跡列（１区）

As-B 層下水田跡　畦畔断ち割り（３区）



As-B 層下水田跡　畦畔の盛り上がり（４区）



基本層序（１区）

序

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ずることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する南部拠点地区遺跡群№.５は市の南東部に位置し、前橋南インターチェンジ一帯の土地区画整理事業に伴う発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108 年）の浅間噴火に伴う軽石に覆われた水田跡が発見されました。この水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、前橋・高崎台地に広く展開する貴重な条里制遺構です。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 22 年９月

前橋市教育委員会
教育長　佐　藤　博　之

例　　言

１．本書は、前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う南部拠点地区遺跡群№.５の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

２．調査は、前橋市教育委員会（教育長　佐藤博之）が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、同研究所員の有山径世である。

３．発掘・整理調査期間は、平成 21 年 12 月 14 日～平成 22 年９月 30 日である。

４．本遺跡は群馬県前橋市下阿内町４番地ほかに所在し、遺跡のコード・面積は下記の通りである。

　遺跡コード：21G68　　面積：１面 12,900 ㎡、２面 2,235 ㎡、合計 15,135 ㎡

５．本書の編集実務は、有限会社毛野考古学研究所が行い、同研究所員の有山が担当した。

６．本文の執筆については、Ⅰを神宮　聡（前橋市教育委員会）、Ⅱ～Ⅷを有山が担当した。

７．調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

８．発掘調査・整理作業に携わった方々は下記の通りである。（順不同・敬称略）

［発掘調査］　井口まり子　今井豊和　碓井俊夫　木村英男　駒形邦子　斉藤邦子　斉藤繁樹　設楽武久
篠原　朗　清水宏通　志村久子　城田恵一　鈴木　浩　高井雄一　高木周平　高橋道敏
高橋百合子　富田益夫　中島久子　中島ミホ子　中野佐智子　野山弘志　春原正克
樋口久雄　福田鈴美　牧野完一　松田路子　松本嘉久治　溝口房子　村上信子　湯浅美和子

［整理作業］　小出琢磨　小野澤絹子　合田幸子　関小百里　瀬尾則子　武士久美子　永島美和子　真下弘美

９．発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（順不同・敬称略）

　前橋市南部拠点東地区土地区画整理組合　株式会社ベイシア　株式会社測研　山下工業株式会社　ＪＴ空撮
　坂口　一　吉田有里

凡　　例

１．挿図における座標値は世界測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用した。方位記号は座標北を示す。

２．等高線や遺構断面図における水準値は海抜標高を示す。単位はｍである。

３．本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、各挿図中にスケールを付した。

４．遺物観察表に示した計測値の（　）は復元推定値を表す。

５．グリッドは、原点（X=37,300･Y=-67,400）より西から東へＸ０、Ｘ１…、北から南へＹ０、Ｙ１…と付した。

６．本調査における遺構断面図および出土遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　2006）を使用した。

７．本書ではテフラの呼称として次の記号を用いた。

As-A：1783（天明３）年に噴出した浅間Ａ軽石。　As-B：1108（天仁元）年に噴出した浅間Ｂテフラ。
Hr-FA：６世紀初頭に噴出した榛名－二ツ岳渋川テフラ。　As-C：４世紀初頭に噴出した浅間Ｃ軽石。

８．水田の計測は畦畔の下端で行った。面積はプラニメーターで３回計測し、その平均値を採用した。

９．本書掲載の第１図は国土交通省国土地理院発行 1/200,000「長野」・「宇都宮」、第２図は同発行 1/25,000「前橋」・「高崎」、第３図は前橋市都市計画図 1/2,500 を一部改編して使用した。

10．表紙には『昭和 61 年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

目　　次

巻頭写真
序
例言　凡例
目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の位置と環境……1
　1　地理的環境……1
　2　歴史的環境……2
Ⅲ　調査の方法と経過……4
Ⅳ　遺跡の概要……5
　1　遺構・遺物の概要……5
　2　基本層序……5
Ⅴ　中近世以降の遺構と遺物……9
　1　中近世以降の溝……9
　2　中近世以降の土坑……16
Ⅵ　平安時代末期（As-B 層下面）の遺構と遺物 …18
　1　As-B 層下水田跡 ……18
　2　As-B 層下足跡列 ……19
　3　As-B 層下窪み列 ……21
Ⅶ　古墳時代から平安時代の遺構と遺物……35
　1　Hr-FA 層下水田跡 ……35
　2　古墳時代から平安時代の溝……35
Ⅷ　まとめ……41
写真図版
抄録　奥付

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置 ……1
第 2 図　周辺の遺跡 ……3
第 3 図　調査区の位置図 ……4
第 4 図　基本層序 ……5
第 5 図　全体図 ……6
第 6 図　第１面の全体図 ……7
第 7 図　第２面の全体図 ……8
第 8 図　中近世以降の溝（1）……11
第 9 図　中近世以降の溝（2）……12
第 10 図　中近世以降の出土遺物 ……13
第 11 図　中近世以降の溝（3）……14
第 12 図　中近世以降の溝（4）……15
第 13 図　中近世以降の土坑（1）……16
第 14 図　中近世以降の土坑（2）……17
第 15 図　１区 As-B 層下水田跡（1）……22
第 16 図　１区 As-B 層下水田跡（2）……23
第 17 図　１区 As-B 層下水田跡（3）……24
第 18 図　２区 As-B 層下水田跡 ……25
第 19 図　３区 As-B 層下水田跡（1）……26
第 20 図　３区 As-B 層下水田跡（2）……27
第 21 図　３区 As-B 層下水田跡（3）……28
第 22 図　３区 As-B 層下水田跡（4）……29
第 23 図　４区 As-B 層下水田跡（1）……30
第 24 図　４区 As-B 層下水田跡（2）……31
第 25 図　As-B 層下足跡列（1）・窪み列 ……33
第 26 図　As-B 層下足跡列（2）……34
第 27 図　２区 Hr-FA 層下水田跡・出土遺物……36
第 28 図　４区 Hr-FA 層下水田跡……37
第 29 図　古墳時代から平安時代の溝（1）……38
第 30 図　古墳時代から平安時代の溝（2）……39
第 31 図　古墳時代から平安時代の溝（3）……40
第 32 図　古墳時代から平安時代における周辺の水田関連遺跡……42
第 33 図　平安時代末期における周辺の水田関連遺跡……43
第 34 図　As-B 層下水田面の状態……44

表 目 次

第１表　中近世以降の出土遺物観察表……13
第２表　中近世以降の土坑計測表……16
第３表　As-B 層下水田跡区画計測表（1）……21
第４表　As-B 層下水田跡区画計測表（2）……24
第５表　As-B 層下水田跡区画計測表（3）……32
第６表　古墳時代の出土遺物観察表……36
第７表　Hr-FA 層下水田跡区画計測表 ……37

図版目次

巻頭写真１
　調査区（４区）から榛名山・浅間山を望む
　Hr-FA 層下水田跡（２区）
　Hr-FA 層下水田跡　畦畔近景（２区）
　Hr-FA 層下水田跡　断ち割り（２区）
巻頭写真２
　As-B 層下水田跡　１区 区画 28 の水田面
　As-B 層下水田跡　２区 区画 32 の水田面
　As-B 層下水田跡　３区 区画 46 の水田面
　As-B 層下水田跡　４区 区画 79 の水田面
　As-B 層下水田跡　１号足跡列（１区）
　As-B 層下水田跡　畦畔断ち割り（３区）
　As-B 層下水田跡　畦畔の盛り上がり（４区）
　基本層序（１区）
図版１
　１区第１面全景（上が北）
　１区 As-B 層下水田跡（南西から）
　１区 As-B 層下水田跡　水口６（西から）
　１区 As-B 層下水田跡　畦畔礫出土状況（北から）
　１区 As-B 層下水田跡　１号足跡列（北東から）
図版２
　２区第１面全景（上が北）
　２区 As-B 層下水田跡（東から）
　２区 As-B 層下水田跡　畦畔（北から）
　２区 As-B 層下水田跡　２号足跡列（東から）
　２区 As-B 層下水田跡　作業風景（西から）
図版３
　３区第１面全景（上が北）
　３区 As-B 層下水田跡（東から）
図版４
　３区 As-B 層下水田跡　１号大畦畔（北から）
　３区 As-B 層下水田跡　畦畔（北から）
　３区 As-B 層下水田跡　畦畔礫出土状況（北から）
　３区 As-B 層下水田跡　水口 11（北から）
　４区第１面全景（上が北）
図版５
　４区 As-B 層下水田跡（北東から）
　４区 As-B 層下水田跡　畦畔（東から）
　４区 As-B 層下水田跡　畦畔（南東から）
　４区 As-B 層下水田跡　畦畔断ち割り（北から）
　４区 As-B 層下水田跡　水口 13（南東から）
　４区 As-B 層下水田跡　14 号足跡列（南東から）
　４区 As-B 層下水田跡　足跡近景（北西から）
　４区 As-B 層下水田跡　作業風景（南西から）
図版６
　２区 Hr-FA 層下水田跡（南から）
　２区 Hr-FA 層下水田跡（南から）
　２区 Hr-FA 層下水田跡　畦畔（北から）
　２区 Hr-FA 層下水田跡　畦畔（南東から）
　２区 Hr-FA 層下水田跡　遺物出土状況（南から）
図版７
　13 号溝全景（南から）
　13 号溝断面（南西から）
　14 号溝全景（南から）
　14 号溝断面（北東から）
　４区 Hr-FA 層下水田跡（上が西）
図版８
　４区 Hr-FA 層下水田跡　断ち割り（南から）
　15 号溝断面（北から）
　16 号溝全景（北から）
　16 号溝断面（南から）
　２号溝全景（北から）
　３号溝全景（北から）
　３号溝断面（南から）
　４号溝全景（東から）
図版９
　５号溝全景（北から）
　５号溝断面（北から）
　６号溝全景（北から）
　７・８号溝全景（北から）
　９号溝断面（南から）
　10 号溝全景（西から）
　11 号溝全景（東から）
　12 号溝全景（南から）
図版 10
　１号土坑全景（北から）
　２号土坑全景（北から）
　３号土坑全景（南から）
　11 号土坑全景（南から）
　出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴い実施された。平成 21 年 10 月 6 日付けで前橋市南部拠点東地区土地区画整理組合 理事長 持田頼男（以下「組合」という）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。市教育委員会においては、現体制では直営による発掘調査が困難であるため、民間調査組織を導入し調査を実施したいとの回答をした。民間調査組織の採用については、市内の民間調査組織３者より見積書を徴収し組合で検討した結果、有限会社毛野考古学研究所 取締役 長井正欣（以下「毛野考古学研究所」という）に決定した。民間調査組織の決定を受け、平成 21 年 11 月 19 日付けで市教育委員会、組合及び毛野考古学研究所との間で埋蔵文化財の取扱いに関する協定書を締結し、その後、11 月 30 日付けで組合と毛野考古学研究所との間で発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群№.5」（遺跡コード:21G68）の「南部拠点地区」は区画整理事業名を採用し、数字の「№.5」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　地理的環境

本遺跡は、前橋市南東部に展開する前橋台地上の後背湿地に立地し、標高は約 76 ｍである。前橋台地は、利根川が赤城山・榛名山の間から関東平野に流出する部分に広がる緩傾斜の扇状地性台地である。浅間山噴火による山体崩壊（約２万年前）を原因とする「前橋泥流」が、利根川に沿って運ばれることで形成された。この泥流層は、全体的に灰色・黒色・赤色の角礫が混入し、黄褐色で締まりが強い特徴を有する。

前橋台地上には、河川・旧河川が北西－南東方向に流れ、各所に自然堤防や後背湿地が形成されている。本遺跡の近辺では、北西から南東側にかけて利根川、北東側に端気川が流下する。利根川は本遺跡周辺において前橋台地を貫流するが、前橋台地の北東側に位置する広瀬川低地帯から、天文年間（16 世紀）に洪水ないし人為的な改変により変流したものと想定されている。一方、端気川は利根川の支流に相当するが、かつては前橋台地北部の湿地帯に源をもつ自然流路であった。この水源は、古墳時代から水田開発に利用されてきたことが明らかにされている。

第１図　遺跡の位置

2 歴史的環境

以下では、本調査と関連する古墳時代から中近世の事例を中心に、周辺の成果を概観する。

古墳時代は数多くの遺跡が存在する。集落は微高地上に占地するものの、時期ごとの変遷が著しい。前期は西善尺司遺跡（２）・徳丸仲田遺跡（４）・公田池尻遺跡（13）・下滝梅崎遺跡（43）などで確認される。前期の集落は後期には水田化してしまうような比較的標高の低い土地に営まれることがあり、横手湯田遺跡（33）・横手早稲田遺跡（37）では周溝状の排水施設を伴う住居跡が構築されている。中期は横手湯田遺跡・横手早稲田遺跡、後期は川曲遺跡（９）・下佐鳥遺跡（10）・公田東遺跡（12）・公田池尻遺跡などで確認されている。

後背湿地では、火山灰や洪水堆積物を鍵層として、様々な時期の水田跡が調査されている。周辺では、４世紀初頭の As-C 層下水田跡、４世紀初頭以降の As-C 混入土層水田跡・As-C 混入土層上水田跡、６世紀初頭の Hr-FA 層下水田跡、６世紀中葉の Hr-FP 層下水田跡・Hr-FP 泥流層下水田跡などが報告されている[1)]。また、水田の開発に伴って水路や堰が整備されるようになり、多くの溝跡が調査されている。徳丸仲田遺跡では前期に開削された大溝が検出されており、下流の砂町遺跡（53）まで約２㎞にわたることが見込まれている。

これらの集落やその生産活動を牽引したであろう有力者層の墳墓として、広瀬川右岸の自然堤防上や井野川・烏川流域に多くの古墳が集中する。これらは前期から後期まで継続して構築され、前期の元島名将軍塚古墳・前橋八幡山古墳・前橋天神山古墳、後期の金冠塚古墳（Ｂ）・綿貫観音山古墳などは、その規模や出土遺物などが卓越することで著名である。なお、前期には微高地上の集落域に接して方形周溝墓が構築され、周辺では西善尺司遺跡・公田東遺跡・下滝梅崎遺跡などで見受けられる。

奈良・平安時代には、律令制の導入と共に前橋市元総社町付近で国府が造営され、国分僧寺・国分尼寺が建立される。集落は前時代に引き続き微高地上に占地し、西善鍛冶屋遺跡（１）・西善尺司遺跡・徳丸仲田遺跡・徳丸高堰遺跡（５・６）・公田東遺跡・公田池尻遺跡・西田遺跡（20）・西田Ⅱ遺跡（22）・西田Ⅵ遺跡（25）・鶴光路榎橋遺跡（26）・鶴光路榎橋Ⅱ遺跡（27）・西横手遺跡群（39）などで確認されている。砂町遺跡では７世紀後半に造られた官道「東山道駅路」に推定される道状遺構が見つかっており、近辺の一万田遺跡では大規模な掘立柱建物跡・柵列などが確認されている。

後背湿地では、平安時代末期の天仁元（1108）年に浅間山の噴火で埋没した As-B 層下水田跡がほとんどの遺跡で検出されている[2)]。西田遺跡では微高地に営まれていた集落の上にまで水田開発が及んだ様子が窺える。これらの水田跡は一町四方の方格地割を採用した、いわゆる「条里地割」に沿うものが多い。

中近世には、微高地上に排水施設などの機能を有する環濠遺跡群が多数占地する。周辺では、室町時代の城郭跡である力丸城（ａ）、室町・戦国時代の宿阿内城（ｂ）・新堀城（ｃ）が著名で、力丸城は那波郡を支配する那波氏一族の居城、宿阿内城は那波氏の属城に想定されている。また、多くの遺跡で当該期の館跡、掘立柱建物跡・井戸跡・墓などを調査している[3)]。方形に密集する西田遺跡の土壙墓群は特記されよう。

生産遺構として、利根川変流に伴う洪水などに起因する中世の As-B 混入土層水田跡、近世の As-A 層下水田跡が報告されている。これらの水田跡は前時期の条里地割を踏襲することが多い。水田跡の他に、洪水で埋没した畠や復旧溝（灰掻き孔）なども散見される[4)]。

註１）古墳時代の水田跡が検出された遺跡－ As-C 混入土層水田跡：４・５・12・13・18・20・40・41、As-C 混入土層上水田跡：32・39・41、Hr-FA 層下水田跡：２・４・12・14・20・31・33・34・37・38・39・40・41、Hr-FP 層下水田跡：33・37・39・40、Hr-FP 泥流層下水田跡：34・38・40・41。

２）奈良・平安時代の水田跡が検出された遺跡－２・４・５・７・11・12・13・14・15・16・17・18・20・21・22・23・24・25・26・28・29・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・47・49・50・52・53。

３）中近世の遺構が検出された遺跡－館跡など：１・２・３・４・５・６・12・13・15・18・20・23・26・31・33・39・40・41・42・43。火葬土坑：２・41・43。土坑墓：２・５・14・18・20・26・32・39。

４）中近世の水田跡が検出された遺跡－ As-B 混入土層水田跡など：12・13・14・23・33・34・35・37・38・40。As-A 層下水田跡など：12・41・42。復旧溝など：26・31・32・33・34・37・38・39・40・41・42・47・48・50。

１西善鍛冶屋遺跡　２西善尺司遺跡・西善尺司Ⅱ遺跡　３西善尺司Ⅲ遺跡　４徳丸仲田遺跡・徳丸仲田Ⅱ遺跡・徳丸仲田Ⅲ遺跡・徳丸仲田Ⅳ遺跡
５徳丸高堰遺跡・徳丸高堰Ⅱ遺跡　６徳丸高堰Ⅲ遺跡・徳丸高堰Ⅳ遺跡　７宮地中田遺跡　８東田遺跡　９川曲遺跡　10 下佐鳥遺跡
11 上佐鳥中原前遺跡・上佐鳥中原前Ⅱ遺跡　12 公田東遺跡　13 公田池尻遺跡　14 亀里平塚遺跡　15 亀里銭面遺跡・亀里銭面Ⅱ遺跡
16 亀里油面Ⅱ遺跡　17 鶴光路練引遺跡　18 村中遺跡　19 村中Ⅱ遺跡　20 西田遺跡　21 西田遺跡・西田Ⅳ遺跡　22 西田Ⅱ遺跡　23 西田Ⅲ遺跡
24 西田Ⅴ遺跡　25 西田Ⅵ遺跡　26 鶴光路榎橋遺跡　27 鶴光路榎橋Ⅱ遺跡　28 南部拠点地区遺跡群№.１　29 南部拠点地区遺跡群№.２
30 南部拠点地区遺跡群№.５　31 下阿内壱町畑遺跡　32 下阿内前田遺跡　33 横手湯田遺跡・横手湯田Ⅱ遺跡・横手湯田Ⅲ遺跡・横手湯田Ⅳ遺跡・
横手湯田Ⅴ遺跡・横手湯田Ⅵ遺跡　34 横手宮田遺跡　35 横手宮田Ⅱ遺跡　36 井戸南遺跡　37 横手早稲田遺跡　38 横手南川端遺跡
39 西横手遺跡群　40 宿横手三波川遺跡　41 上滝榎町北遺跡　42 上滝五反畑遺跡　43 下滝梅崎遺跡　44 滝川Ｂ遺跡　45 上滝社宮司遺跡
46 滝川Ｃ遺跡　47 天神前遺跡　48 天神前Ⅱ遺跡　49 中道西遺跡　50 一本木遺跡　51 田口下屋敷遺跡　52 金免遺跡　53 砂町遺跡
Ａ亀塚山古墳　Ｂ金冠塚古墳　Ｃ文殊山古墳　Ｄ阿弥陀山古墳　Ｅ下川渕３号古墳　Ｆ浅間神社古墳　ａ力丸城　ｂ宿阿内城　ｃ新堀城

第２図　周辺の遺跡

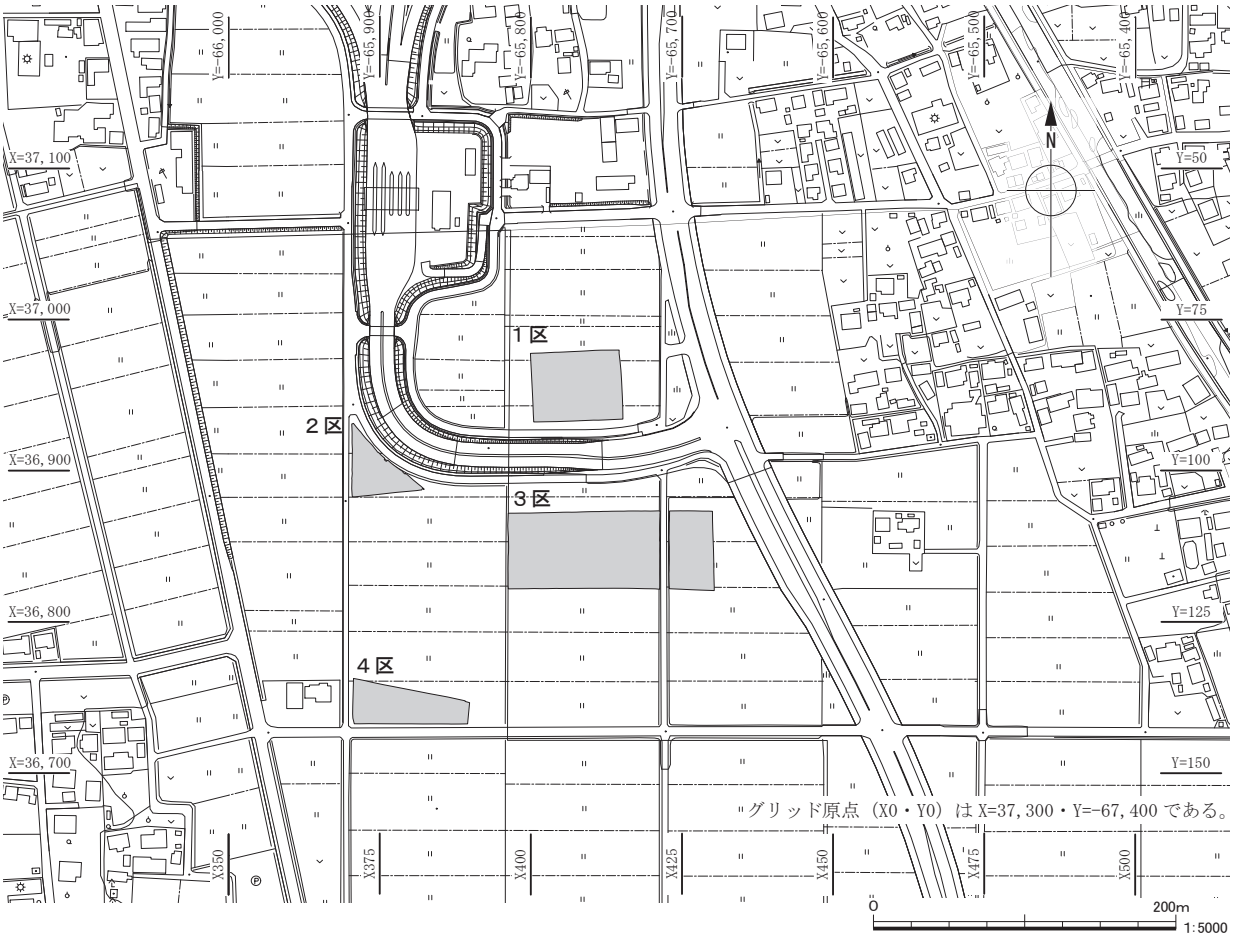
Ⅲ 調査の方法と経過

発掘調査は平成 21 年 12 月 14 日から平成 22 年３月 27 日にかけて実施した。調査区は４ヵ所に分かれ、北側の調査区から１～４区と呼称した（第３図）。また、前橋市教育委員会の試掘調査結果を受けて２面の遺構確認面が設定され、第１面が As-B 層下水田跡、第２面が As-C 混入土層水田跡の検出を主目的としている。第２面は３m幅の試掘坑による調査を基本とする。

発掘調査に際しては、調査範囲・廃土置場などを設定し、安全対策を講じた（12 月 14 日～ 12 月 22 日）。第１面の調査は、始めに As-B 一次堆積層（Ⅲ層）上面までをバックホーおよびダンプを使用して掘削した（12 月 16 日～１月 21 日）。その後、As-B 軽石の上位を鋤簾、水田上を移植ゴテで除去して、水田面を検出した（１月５日～２月 24 日）。なお、As-B 層下水田跡の調査と並行して中近世以降の遺構調査も実施している。第２面は、As-C 混入土層水田跡の検出を試み、上層の Hr-FA 混入土層をバックホーで除去した。その後、人力により遺構確認を行ったが、水田面や畦畔の検出には至らなかった（２月４日～３月 23 日）。２・４区では、Hr-FA が検出されたため、Hr-FA の堆積が途切れる所まで調査範囲を拡張した。その結果、Hr-FA 層下水田跡および溝が検出された。第２面の調査終了後、各調査区の埋め戻しを行い、発掘調査を終了した（３月 18 日～３月 27 日）。

遺構の名称は、遺構種類別に通し番号を付した。遺構の図化はトータルステーションを用いた。写真撮影は 35 ㎜白黒ネガ･35 ㎜カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを使用し、調査の進捗に合わせて随時実施した。ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は第１面・第２面の２度行った。

調査終了後、調査成果の整理作業、報告書作成を行った。



第３図　調査区の位置図

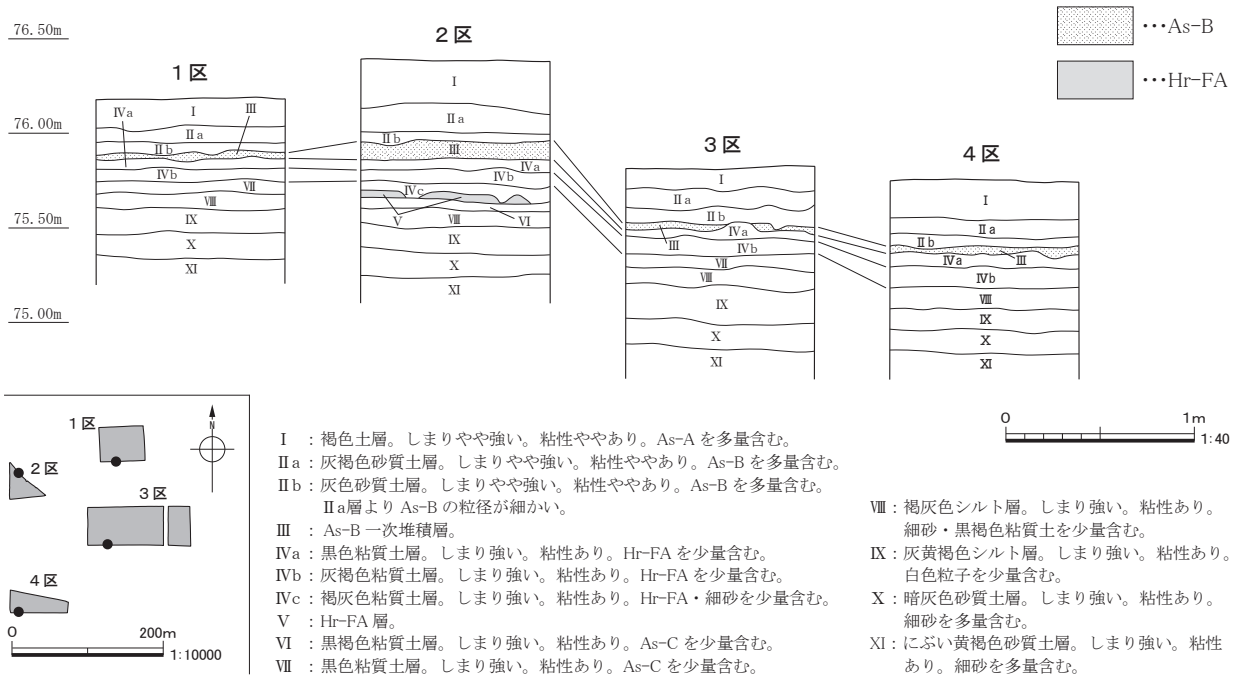
Ⅳ 遺跡の概要

１ 遺構・遺物の概要

本遺跡では、中近世以降、平安時代末期、古墳時代から平安時代の３期にわたる土地利用形態を追うことができた。中近世以降の遺構はAs-B層を攪拌するもので、As-B降下（1108年）以降を対象とする。当該期の遺構として溝12条、土坑18基が確認された。遺物は、中近世から近現代までの陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。近世の用水路と推測される３号溝からは、寛永通宝がまとまって出土している。平安時代末期の遺構はAs-B一次堆積層下で検出されたものを対象とする。当該期の遺構として調査区全域でAs-B層下水田跡が検出され、水田区画89区画、足跡列15列、窪み列１列が確認できた。遺物は出土しなかった。古墳時代から平安時代の遺構はAs-C層を攪拌し、As-B層下に埋没するものを対象とする。当該期の遺構としてHr-FA層下水田跡、溝４条が確認された。Hr-FA層下水田跡は２・４区で検出され、Hr-FA層が良好に残存する２区では水田区画を捉えることができた。遺物は、２区Hr-FA層下水田跡から土師器坏片が出土したほか、溝や試掘坑から土師器・須恵器細片が少量出土している。

２ 基本層序

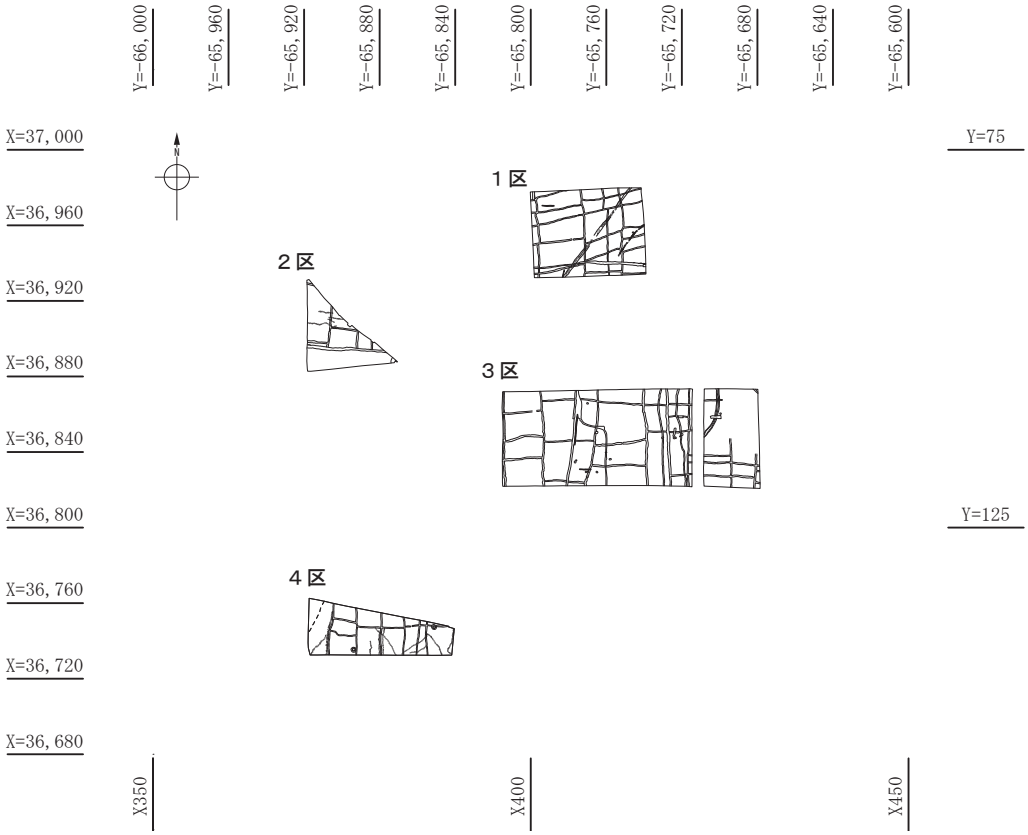
調査区は後背湿地に立地しており、北西から南東に緩やかに傾斜する。基本層序は以下のⅠ～XI層が認められた。Ⅰ層は表土層で、現代の水田耕作土である。Ⅱ層はAs-Bの混入土層である。Ⅲ層はAs-B層で、最下部に薄い灰青色火山灰や粗粒の白色軽石が見られることから、一次堆積層と判断した。残りの良い場所では７～10㎝の堆積を確認している。Ⅳ層は粘土質で、いわゆる「Hr-FA混入土層」である。３細分が可能で、Ⅳa層はAs-B層下水田耕作土、Ⅳb・c層は平安時代の洪水層起源と推測される耕作土に対比される。Ⅴ層は黄橙色のHr-FA層である。Ⅵ層はAs-Cの混入する黒褐色粘質土層で、Hr-FA層下水田耕作土に相当する。Ⅳc・Ⅴ・Ⅵ層はHr-FA層下水田跡の分布域（２区・４区東端）でのみ検出された。Ⅶ層はAs-Cの混入する黒色粘質土層で、As-C降下以降の耕作土に対比される。Ⅷ・Ⅸ層はシルト層、Ⅹ・XI層は砂質土層である。



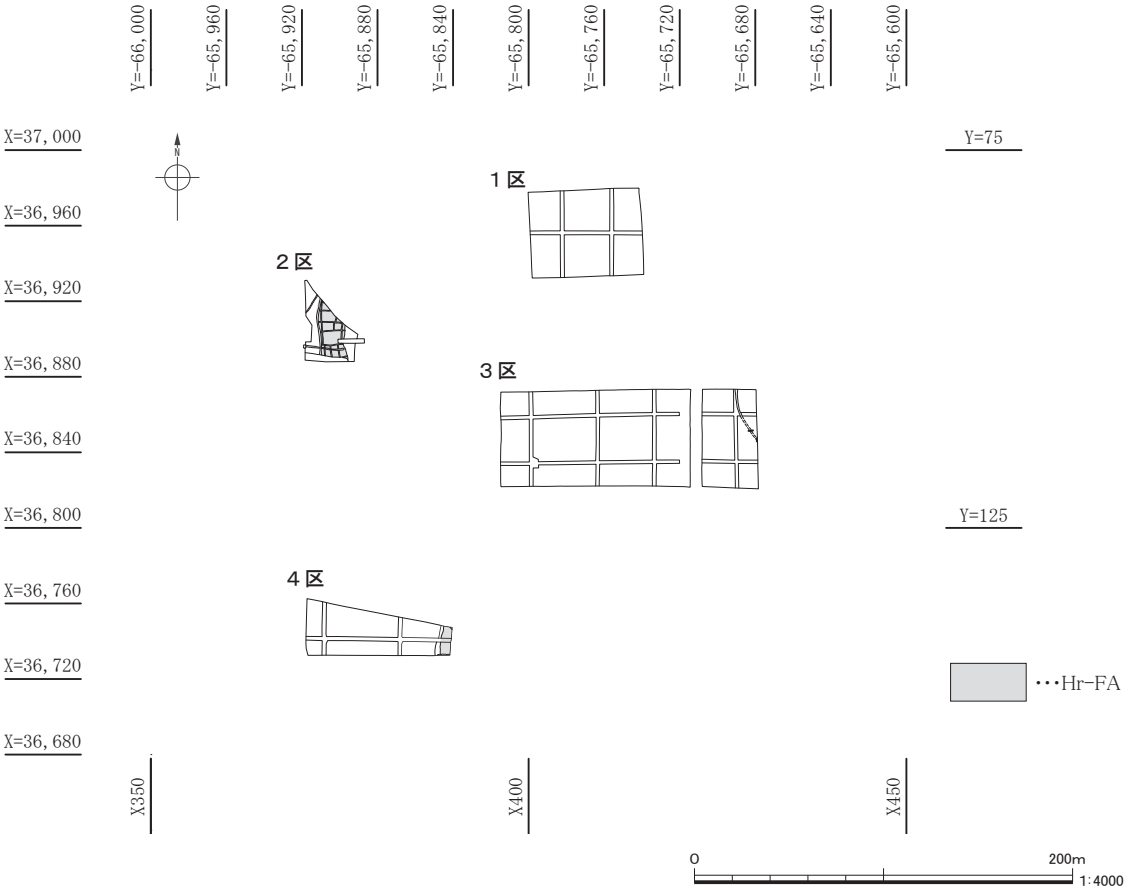
Ⅰ　：褐色土層。しまりやや強い。粘性ややあり。As-Aを多量含む。
Ⅱa：灰褐色砂質土層。しまりやや強い。粘性ややあり。As-Bを多量含む。
Ⅱb：灰色砂質土層。しまりやや強い。粘性ややあり。As-Bを多量含む。
　　Ⅱa層よりAs-Bの粒径が細かい。
Ⅲ　：As-B一次堆積層。
Ⅳa：黒色粘質土層。しまり強い。粘性あり。Hr-FAを少量含む。
Ⅳb：灰褐色粘質土層。しまり強い。粘性あり。Hr-FAを少量含む。
Ⅳc：褐灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。Hr-FA・細砂を少量含む。
Ⅴ　：Hr-FA層。
Ⅵ　：黒褐色粘質土層。しまり強い。粘性あり。As-Cを少量含む。
Ⅶ　：黒色粘質土層。しまり強い。粘性あり。As-Cを少量含む。
Ⅷ：褐灰色シルト層。しまり強い。粘性あり。
　　細砂・黒褐色粘質土を少量含む。
Ⅸ：灰黄褐色シルト層。しまり強い。粘性あり。
　　白色粒子を少量含む。
Ⅹ：暗灰色砂質土層。しまり強い。粘性あり。
　　細砂を多量含む。
XI：にぶい黄褐色砂質土層。しまり強い。粘性
　　あり。細砂を多量含む。

第４図　基本層序

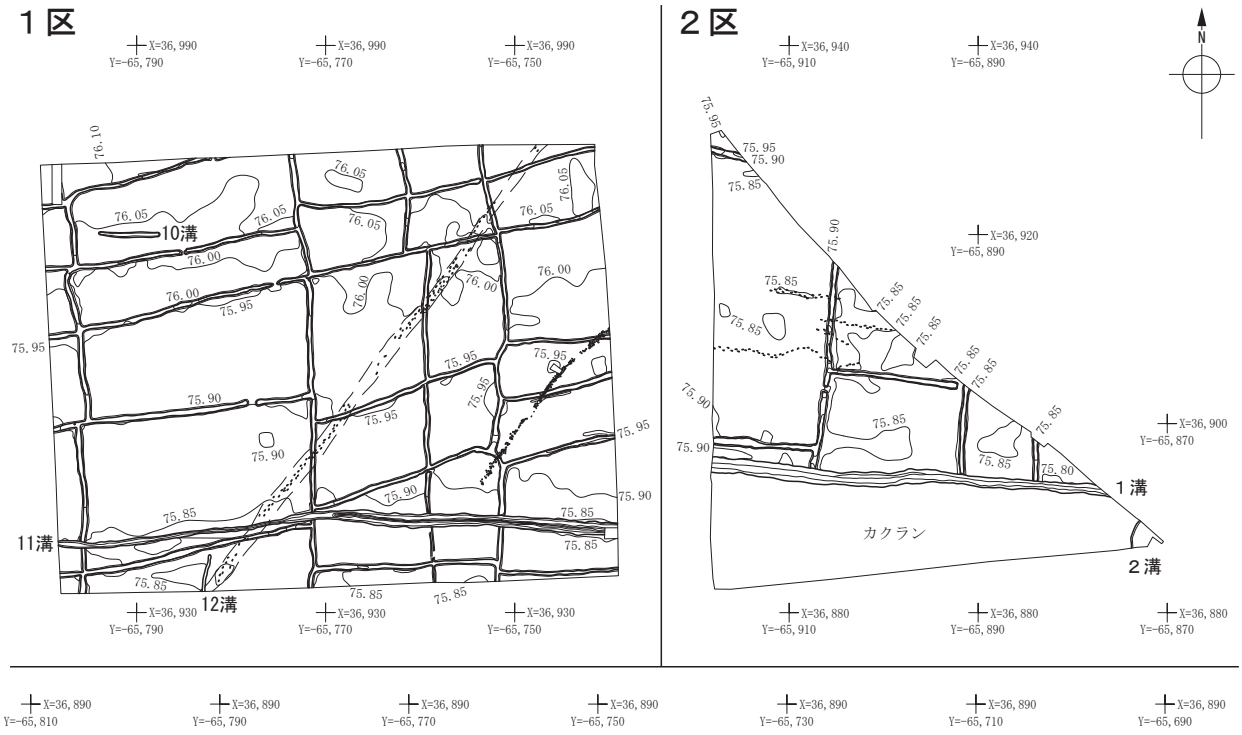
第１面　全体図

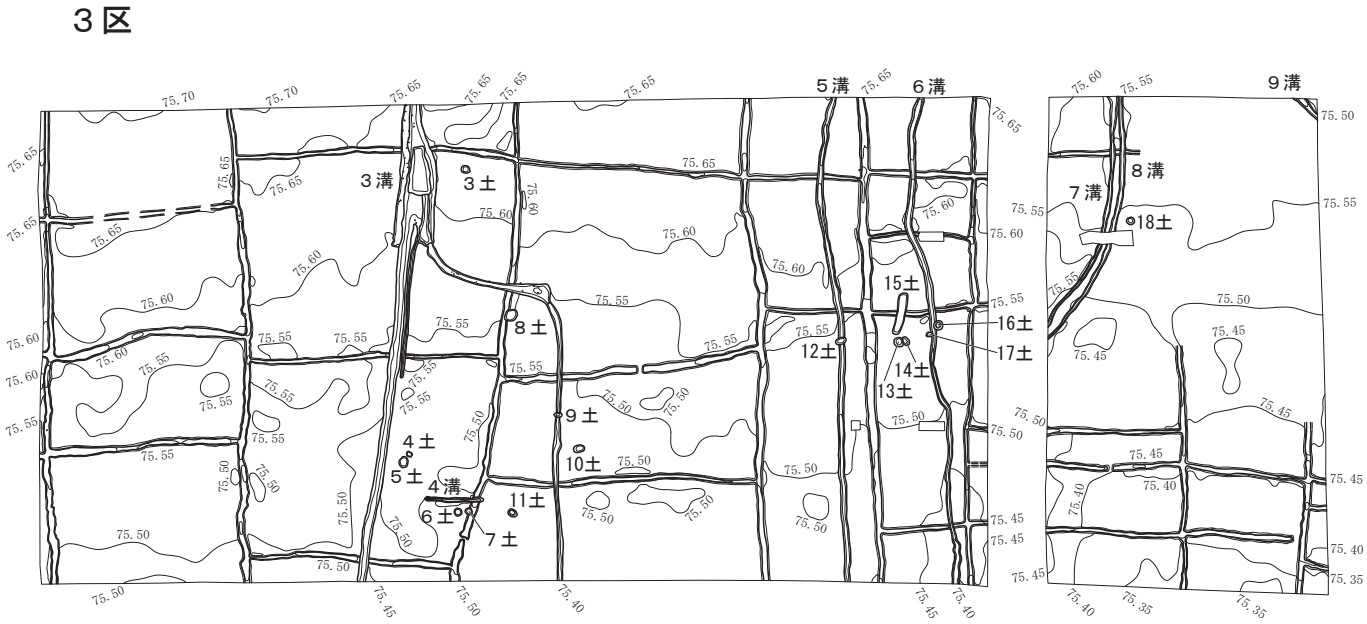


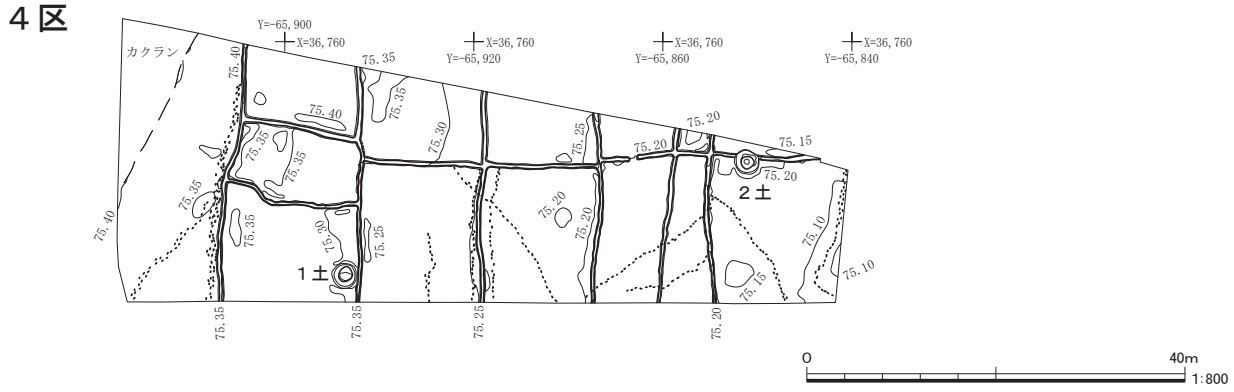
第２面　全体図



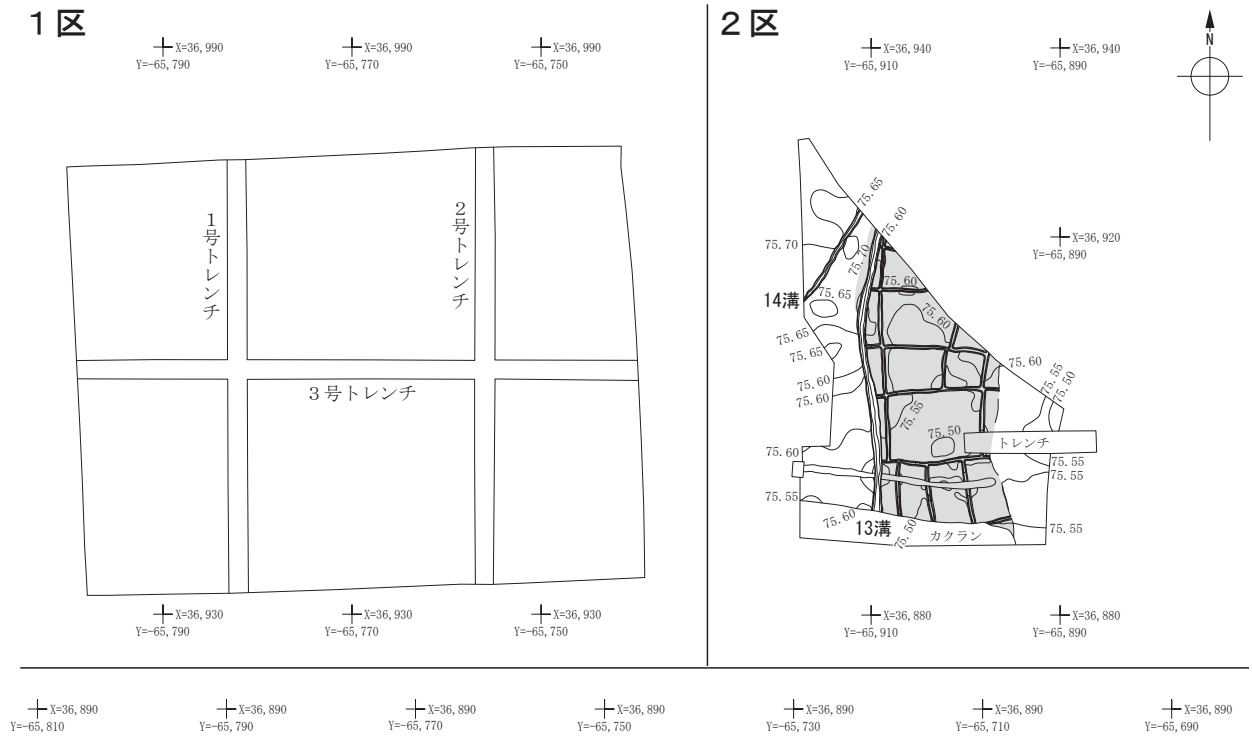
第５図　全体図

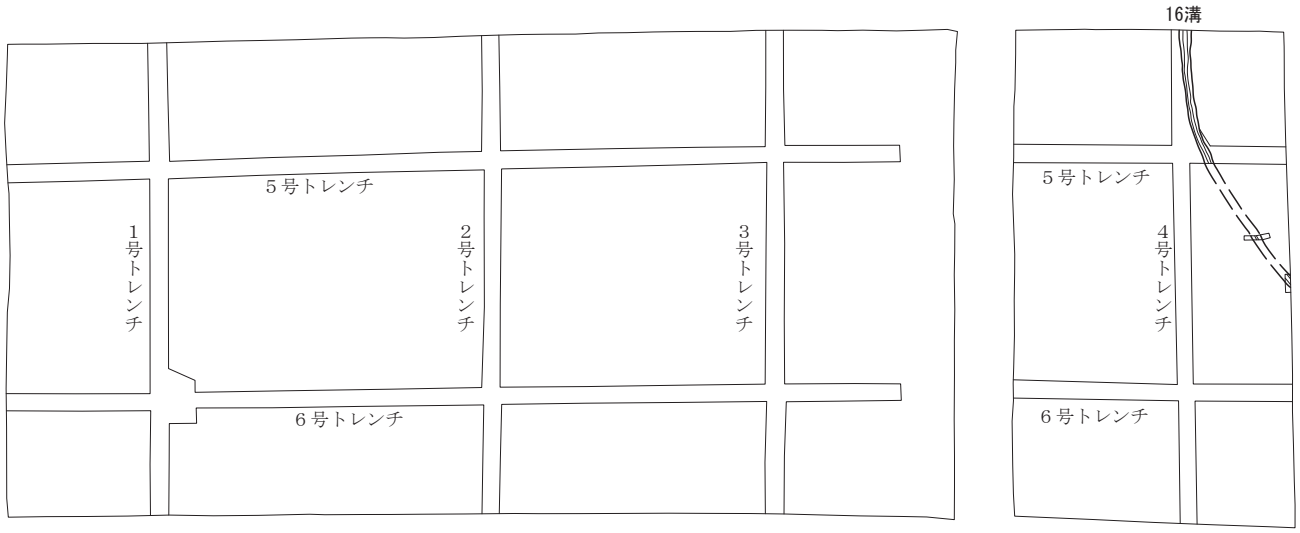

1区
2区
10溝
11溝
12溝
1溝
2溝
カクラン
N

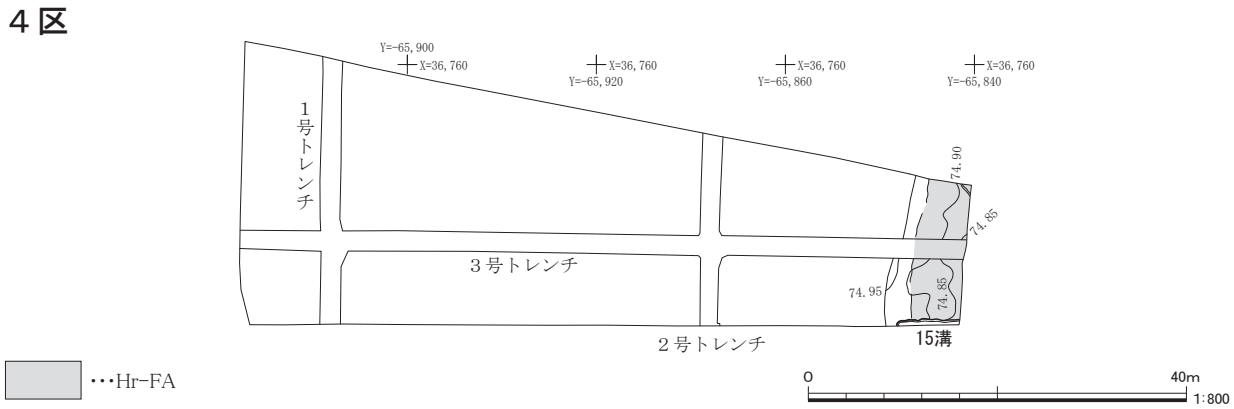

3区
3溝
3土
4溝
4土
5土
6土
7土
8土
9土
10土
11土
5溝
6溝
12土
13土
14土
15土
16土
17土
7溝
8溝
18土
9溝


4区
カクラン
1土
2土
0
40m
1:800

第６図　第１面の全体図


1区
2区
X=36,990 Y=-65,790
X=36,990 Y=-65,770
X=36,990 Y=-65,750
1号トレンチ
2号トレンチ
3号トレンチ
X=36,930 Y=-65,790
X=36,930 Y=-65,770
X=36,930 Y=-65,750
X=36,940 Y=-65,910
X=36,940 Y=-65,890
N
X=36,920 Y=-65,890
14溝
13溝
トレンチ
カクラン
X=36,880 Y=-65,910
X=36,880 Y=-65,890
X=36,890 Y=-65,810
X=36,890 Y=-65,790
X=36,890 Y=-65,770
X=36,890 Y=-65,750
X=36,890 Y=-65,730
X=36,890 Y=-65,710
X=36,890 Y=-65,690


3区
16溝
1号トレンチ
2号トレンチ
3号トレンチ
4号トレンチ
5号トレンチ
6号トレンチ


4区
Y=-65,900
X=36,760
X=36,760 Y=-65,920
X=36,760 Y=-65,860
X=36,760 Y=-65,840
1号トレンチ
3号トレンチ
2号トレンチ
15溝
74.90
74.85
74.95
74.85
・・・Hr-FA
0
40m
1:800

第７図　第２面の全体図

Ⅴ　中近世以降の遺構と遺物

１　中近世以降の溝

１号溝（遺構：第８図）

位置：２区南側に位置し、東・西側は調査区外にかかる。**形態**：東西方向へ直行し、底面は西側が低い。断面形は浅いＵ字状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－93°－Ｅ、残存長 41.6 ｍ、幅 0.82 ～ 1.77 ｍ、確認面からの深さ 21 ～ 39 ㎝。**埋没状態**：As-A・小礫を含む灰黄褐色砂質土が堆積する。上層からは丸材・角材が横倒しの状態で出土した。**遺物**：近世～近現代の陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。**時期**：埋没状態・出土遺物より、近現代に比定される。

２号溝（遺構：第 12 図、図版８）

位置：２区南東端に位置し、北・南・東側は調査区外にかかる。**形態**：部分的な検出のため不明である。底面は南側が若干低い。**計測値**：主軸方位Ｎ－20°－Ｅ、残存長 2.90 ｍ、残存幅 3.37 ｍ、確認面からの深さ７～８㎝。**埋没状態**：非常に多くの As-B を含む浅黄色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

３号溝（遺構：第９図、図版８／遺物：第 10 図、第１表、図版 10）

位置：３区中央より東側に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**重複**：９号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。**形態**:南北方向へ直行する。北側に溜井状の深い窪みがあり、その先から大きく２方向へ分流する（3a～3c)。3aは本体と走行方位を同じくし、そのまま南へ直進する。3bは東へ(Ｎ－73°－W)曲った後、再び南へ(Ｎ－１°－W)走行方位を変える。3cは3bへの分岐点から派生する。南へ直行するが、掘り込みが浅く途中で消失する。底面は全て南側が低い。断面形は概ね逆台形状を呈する。木杭痕が北側に多く残っている。角材と丸材が認められ、規模は幅９～ 15 ㎝、厚さ８～ 13 ㎝である。**計測値**：主軸方位Ｎ－８°－Ｅ。残存長 50.91 ｍ。幅は３号溝本体が 1.62 ～ 4.14 ｍ、3aが 0.80 ～ 1.20 ｍ、3bが 0.40 ～ 1.87 ｍ、3cが 0.25 ～ 0.45 ｍ。確認面からの深さは、本体が 39 ～ 41 ㎝、溜井状部分が 44 ～ 62 ㎝、3aが 21 ～ 30 ㎝、3bが６～ 14 ㎝、3cが４～ 11 ㎝。**埋没状態**:主に多量の砂を含む褐灰色砂質土が堆積する。断面観察により、一度埋没した後に掘り直されたことが看取される。**遺物**：中近世～近代の陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。また、寛永通宝が溜井状部分の下層からまとまって出土した。数枚が付着した状態で、鉄銭が混ざるため全体が錆に覆われていた。**時期**:埋没状態・出土遺物より、近世以降に比定される。

４号溝（遺構：第 12 図、図版８）

位置：３区南東側に位置する。**形態**：東西方向へ直行し、底面は西側が低い。断面形は箱状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－91°－Ｅ、長さ 6.24 ｍ、幅 0.40 ～ 0.54 ｍ、確認面からの深さ 10 ～ 45 ㎝。**埋没状態**：多量の As-B を含む暗褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

５号溝（遺構：第 11 図、図版９）

位置:３区中央よりやや東側に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**重複**:12 号土坑と重複し、本溝が古い。**形態**:南北方向へほぼ直行し、底面は南側が低い。断面形は皿状ないし浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－２°－W、残存長 51.42 ｍ、幅 0.50 ～ 0.89 ｍ、確認面からの深さ１～５㎝。**埋没状態**：非常に多くの As-B を含む灰褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

６号溝（遺構：第 11 図、図版９）

位置：３区中央よりやや東側に位置し、北・南側は調査区外にかかる。**重複**：16・17 号土坑と重複し、本溝が古い。**形態**：南北方向へ蛇行して走行し、底面は南側が低い。断面形は皿状ないし浅い逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－４°－Ｗ、残存長 51.72 ｍ、幅 0.31 ～ 0.91 ｍ、確認面からの深さ１～６㎝。**埋没状態**：非常に多くの As-B を含む灰褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。**備考**：水路に想定される。As-B 層下水田跡１号大畦畔の東脇に掘り込まれ、主軸方位が近似することから、前時代の As-B 層下水田跡の地割を踏襲しているものと推測される。西脇に掘り込まれる５号溝も同様であろう。

７号溝（遺構：第 11 図、図版９）

位置：３区東側に位置し、北・南西側は調査区外にかかる。８号溝と並走する。**形態**：南北方向へ走行し、南側で南西へ緩やかに曲がる。底面は南側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値**：主軸方位はＮ－３°－Ｅへ走行後、Ｎ－39°－Ｅへ変わる。残存長 25.69 ｍ、幅 0.22 ～ 1.03 ｍ、確認面からの深さ５～８㎝。**埋没状態**：多量の As-B を含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

８号溝（遺構：第 11 図、図版９）

位置：３区東側に位置し、北・南西側は調査区外にかかる。７号溝と並走する。**形態**：南北方向へ走行し、南側で南西へ緩やかに曲がる。底面は南側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値**：主軸方位はＮ－３°－Ｅへ走行後、Ｎ－39°－Ｅへ変わる。残存長 27.60 ｍ、幅 0.21 ～ 0.64 ｍ、確認面からの深さ４～７㎝。**埋没状態**：多量の As-B を含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

９号溝（遺構：第 12 図、図版９）

位置：３区北東角に位置し、北・東側は調査区外にかかる。**形態**：北西－南東方向へ直行し、底面は南東側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－44°－Ｗ、残存長 3.46 ｍ、幅 0.52 ～ 0.86 ｍ、確認面からの深さ５～ 11 ㎝。**埋没状態**：多量の As-B を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

10 号溝（遺構：第 12 図、図版９）

位置：１区北西端に位置する。**形態**：東西方向へ直行し、底面は西側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－90°－Ｅ、長さ 6.50 ｍ、幅 0.39 ～ 0.57 ｍ、確認面からの深さ４～ 11 ㎝。**埋没状態**：多量の As-B・白色粒と少量の小礫を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。

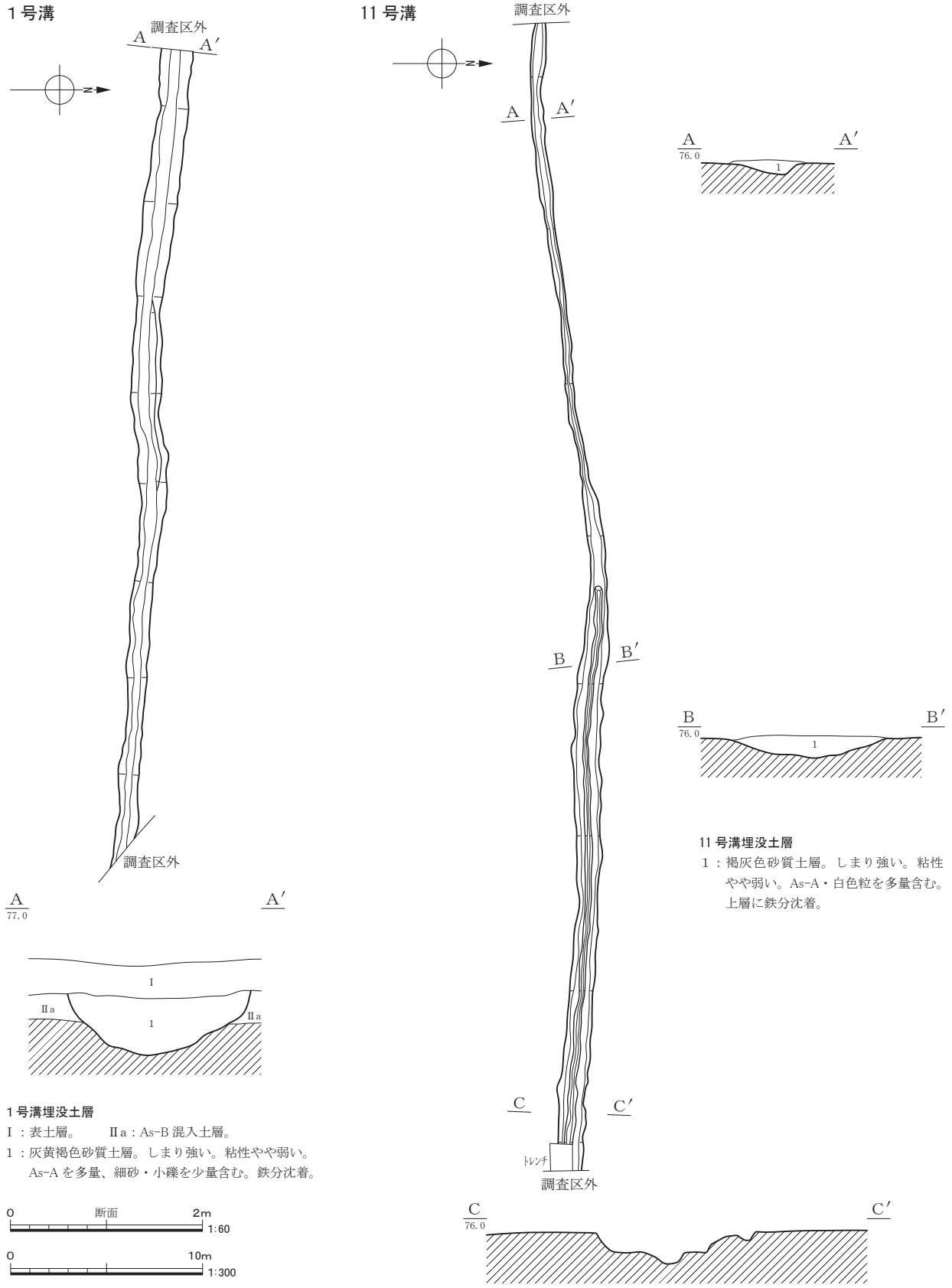
11 号溝（遺構：第８図、図版９）

位置：１区南側に位置し、東・西側は調査区外にかかる。**形態**：東西方向へほぼ直行し、底面は東側が低い。断面形は皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－87°－Ｅ、残存長 59.45 ｍ、幅 0.32 ～ 1.56 ｍ、確認面からの深さ６～ 33 ㎝。**埋没状態**：多量の As-A を含む褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：近世～近現代の陶磁器・在地系土器・ガラス瓶などが出土した。**時期**：埋没状態・出土遺物より、近現代に比定される。

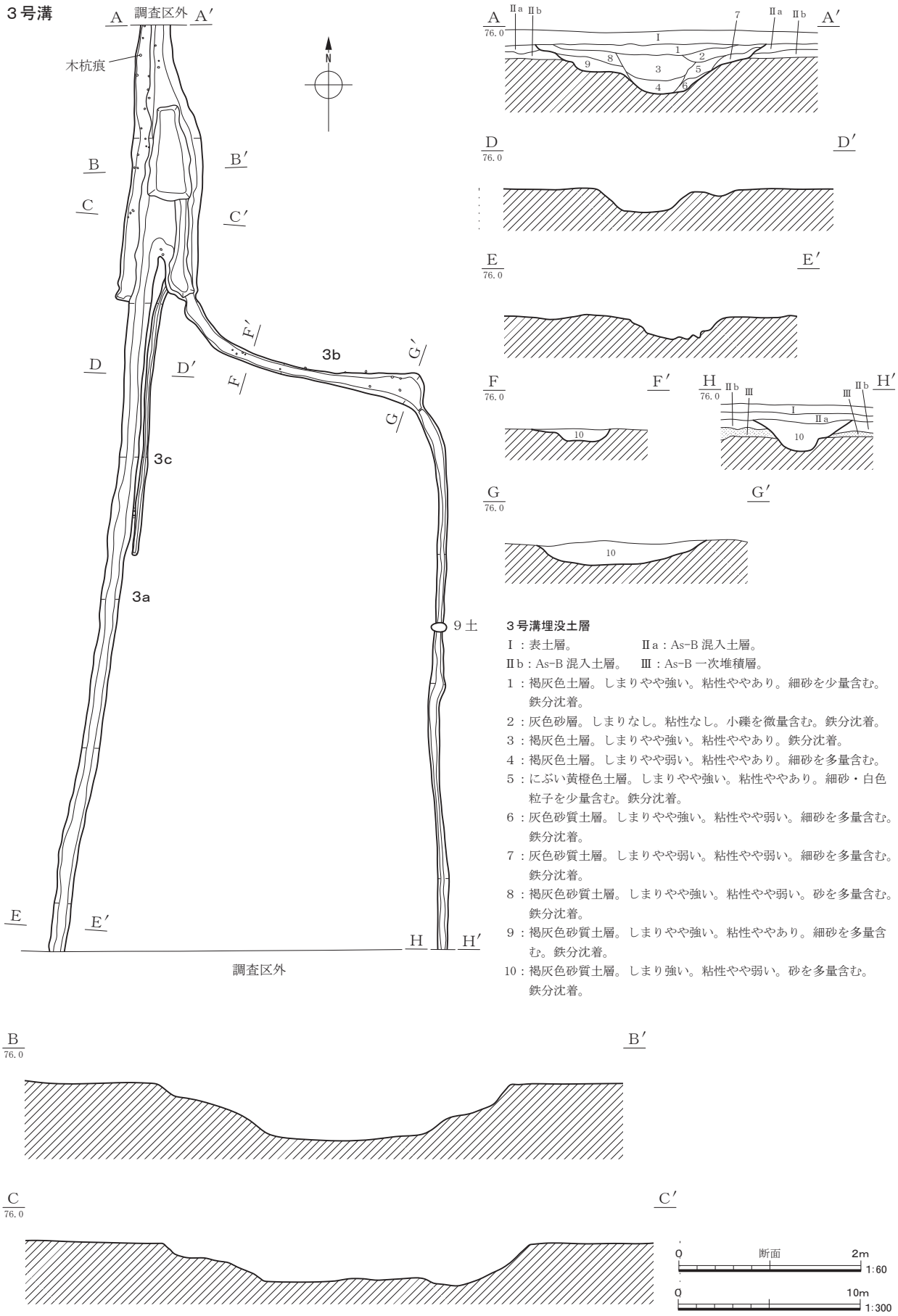
12 号溝（遺構：第 12 図、図版９）

位置：１区南端に位置し、南側は調査区外にかかる。**形態**：南北方向へほぼ直行し、底面は南側が若干低い。断

面形は逆台形状を呈する。**計測値**：主軸方位N－11°－E、残存長3.95 m、幅0.28～0.33 m、確認面からの深さ6㎝。**埋没状態**：多量のAs-Bと少量の粘質土ブロックを含む灰色砂質土が堆積する。**遺物**：土師器片が1点出土した。**時期**：埋没状態より、中近世以降に比定される。



第８図　中近世以降の溝（１）

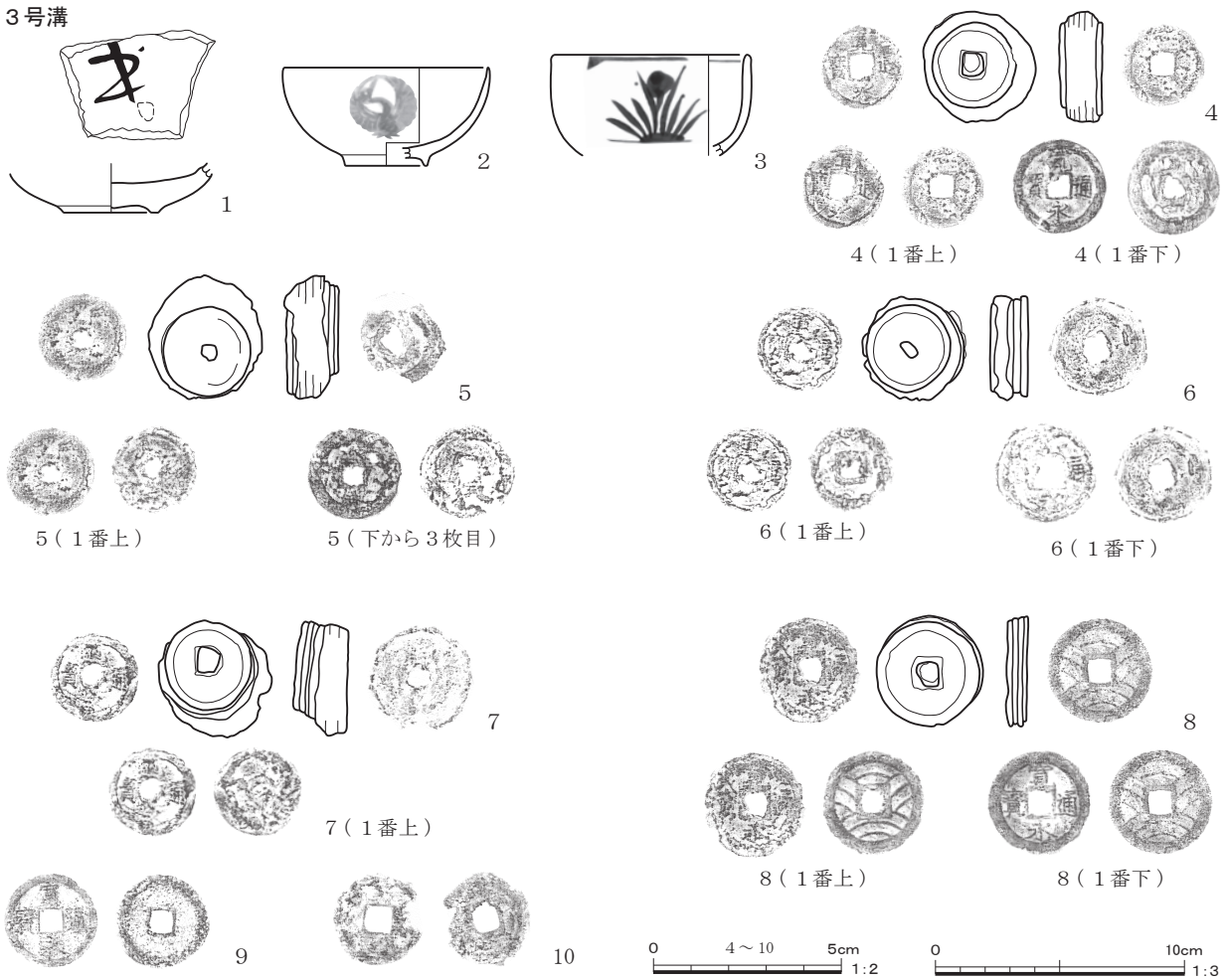


3号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。　Ⅱa：As-B 混入土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。　Ⅲ：As-B 一次堆積層。

1：褐灰色土層。しまりやや強い。粘性ややあり。細砂を少量含む。鉄分沈着。
2：灰色砂層。しまりなし。粘性なし。小礫を微量含む。鉄分沈着。
3：褐灰色土層。しまりやや強い。粘性ややあり。鉄分沈着。
4：褐灰色土層。しまりやや弱い。粘性ややあり。細砂を多量含む。
5：にぶい黄橙色土層。しまりやや強い。粘性ややあり。細砂・白色粒子を少量含む。鉄分沈着。
6：灰色砂質土層。しまりやや強い。粘性やや弱い。細砂を多量含む。鉄分沈着。
7：灰色砂質土層。しまりやや弱い。粘性やや弱い。細砂を多量含む。鉄分沈着。
8：褐灰色砂質土層。しまりやや強い。粘性やや弱い。砂を多量含む。鉄分沈着。
9：褐灰色砂質土層。しまりやや強い。粘性ややあり。細砂を多量含む。鉄分沈着。
10：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。砂を多量含む。鉄分沈着。

第９図　中近世以降の溝（２）

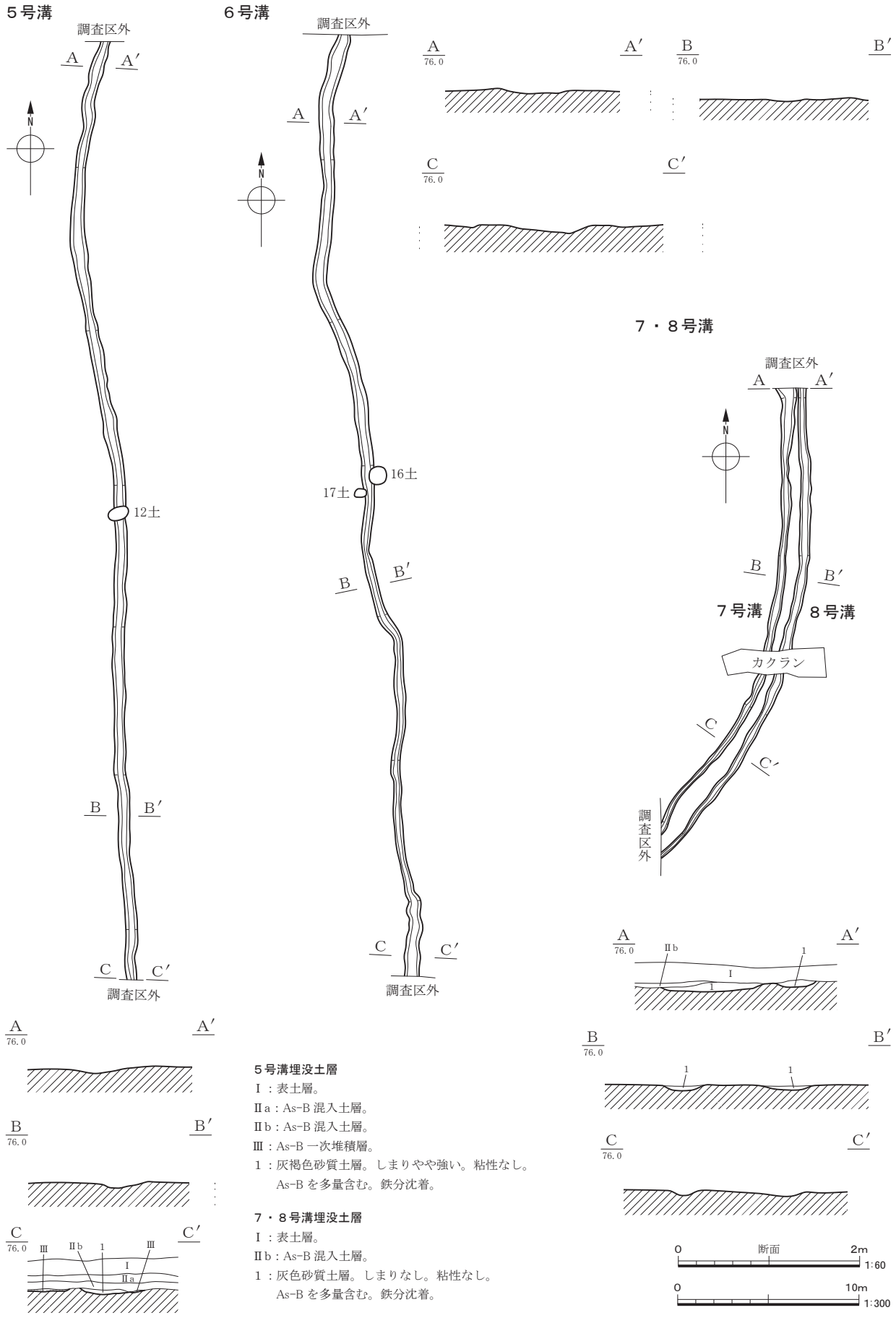


第 10 図　中近世以降の出土遺物

第１表　中近世以降の出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量（cm）	特徴	①胎土　②色調	備考
1	３号溝	陶器 皿	口径：― 底径：(3.7) 器高：残 2.0	ロクロ成形。外面無釉。内面施釉、見込み鉄絵、トチン痕あり。	①暗赤褐色粒 ②釉薬：にぶい黄橙 胎土：灰黄褐	底部片。肥前。唐津。17 世紀。
2	３号溝	磁器 碗	口径：(8.2) 底径：(3.2) 器高：3.9	ロクロ成形。染付。外面鳥文。	①緻密 ②釉薬：灰白 胎土：白	1/4 残存。肥前。18 世紀前半。
3	３号溝	磁器 碗	口径：(8.0) 底径：― 器高：残 4.0	ロクロ成形。染付。外面草花文。内面圏線１条。	①緻密 ②釉薬：灰白 胎土：白	口縁～体部 1/3 残存。19 世紀。

No.	遺構名	器種	法量（cm・g）、特徴	備考
4	３号溝	寛永通宝	７枚癒着、厚さ 1.15、重さ 18.43。銅銭、鉄銭混入。 １番上：長さ 2.2、幅 2.2、孔 0.6、厚さ 0.1、重さ 1.68。新寛永。	溜井状部分出土。
5	３号溝	寛永通宝	８枚癒着、厚さ 1.4、重さ 21.63。銅銭、鉄銭混入。 １番上：長さ 2.4、幅 2.4、孔 0.5、厚さ 0.15、重さ 3.20。	溜井状部分出土。
6	３号溝	寛永通宝	５枚癒着、厚さ 1.0、重さ 16.16。銅銭、鉄銭混入。 １番上：長さ 2.3、幅 2.3、孔 0.5、厚さ 0.15、重さ 4.07。新寛永。	溜井状部分出土。
7	３号溝	寛永通宝	６枚癒着、厚さ 1.4、重さ 18.17。銅銭、鉄銭混入。 １番上：長さ 2.4、幅 2.3、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 3.65。新寛永。	溜井状部分出土。
8	３号溝	寛永通宝	４枚癒着、厚さ 0.5、重さ 17.70。全て銅銭。 １番上：長さ 2.3、幅 2.3、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 4.56。新寛永。背文十一波。	溜井状部分出土。
9	３号溝	寛永通宝	銅銭。長さ 2.5、幅 2.5、孔 0.6、厚さ 0.15、重さ 3.60。新寛永。	溜井状部分出土。
10	３号溝	寛永通宝	銅銭。長さ 2.5、幅 2.4、孔 0.7、厚さ 0.15、重さ 2.50。	一部欠失。3b号溝出土。



5号溝埋没土層

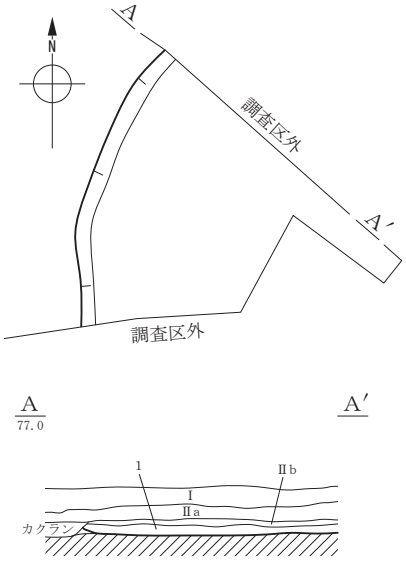
Ⅰ：表土層。
Ⅱa：As-B 混入土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
1：灰褐色砂質土層。しまりやや強い。粘性なし。
　As-B を多量含む。鉄分沈着。

7・8号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
1：灰色砂質土層。しまりなし。粘性なし。
　As-B を多量含む。鉄分沈着。

第 11 図　中近世以降の溝（3）

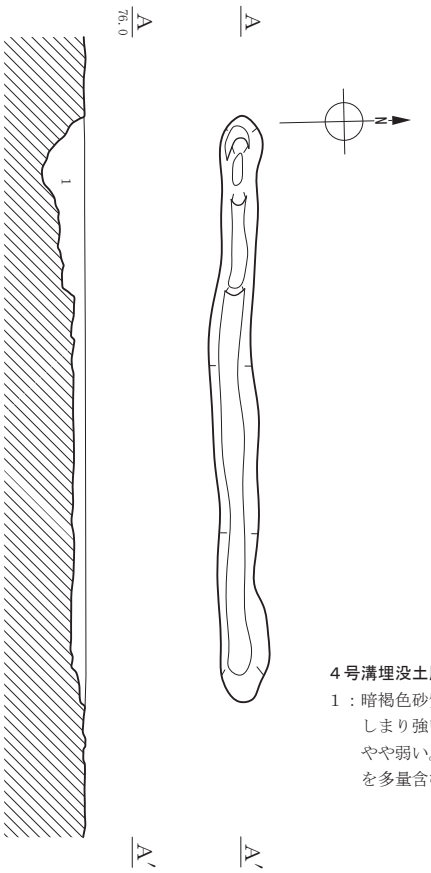
２号溝



２号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱa：As-B 混入土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
１：浅黄色砂質土層。しまりなし。粘性なし。As-B を非常に多く含む。

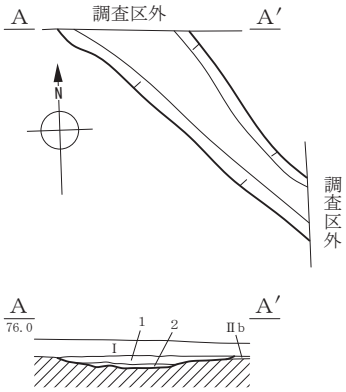
４号溝



４号溝埋没土層

１：暗褐色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。As-B を多量含む。

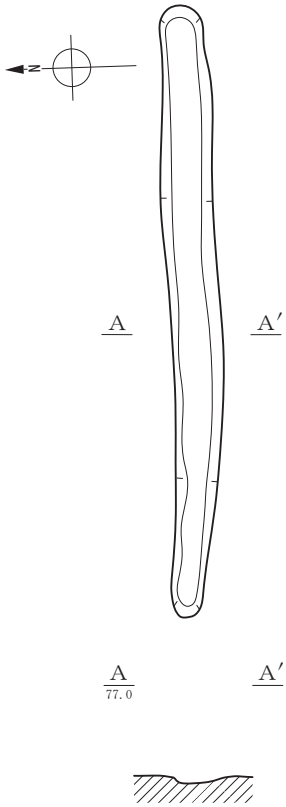
９号溝



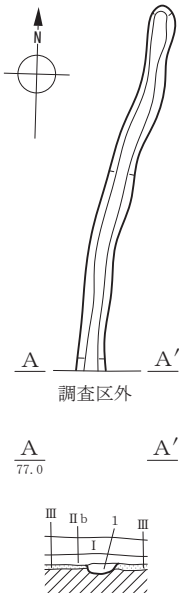
９号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
１：褐灰色砂質土層。しまりなし。粘性なし。As-B を多量含む。鉄分沈着。
２：褐灰色砂質土層。しまりなし。粘性なし。As-B を多量含む。１層より粒が粗い。鉄分沈着。

10 号溝



12 号溝



12 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
１：灰色砂質土層。しまりやや弱い。粘性なし。As-B を多量、暗灰色粘質土ブロックを少量含む。

0　2m
1:80

第 12 図　中近世以降の溝（４）

2　中近世以降の土坑（遺構：第 13・14 図、第２表、図版 10）

計 18 基が検出された。１・２号土坑は４区に位置し、形態・規模・埋没状態ともに酷似する。埋没土は粘質土ブロックを含む灰黄褐色砂質土で、底部には緑色の色素が沈着する。穴の周囲はドーナッツ状に隆起し、２号土坑の下層からは金属片が出土している。周辺遺跡の事例から、焼夷弾が落下した痕跡と推定される[1)]。３～18 号土坑は３区に位置する。埋没土は As-B を含む褐灰色砂質土が主体である。断面形は浅い逆台形状を呈し、底面に凹凸があるものが多い。遺物は、13 号土坑から近世の磁器・在地系土器の小片が出土したのみである。

註１）南部拠点地区遺跡群№.4（前橋市教育委員会 2010）で、１・２号土坑と同形態の土坑からパイプ状の金属片が出土している。ゴムが焼けた様な異臭と湧水にオイル分が浮く状況から、第２次世界大戦の焼夷弾爆裂坑と判断されている。なお、南部拠点地区遺跡群№.1（前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009）の中で、同じく１・２号土坑と同形態の土坑状遺構を平安時代末期の井戸跡（５区１号井戸）と報告した。しかし、今回の事例から同様に焼夷弾爆裂坑と判断される。記して誤りを訂正したい。

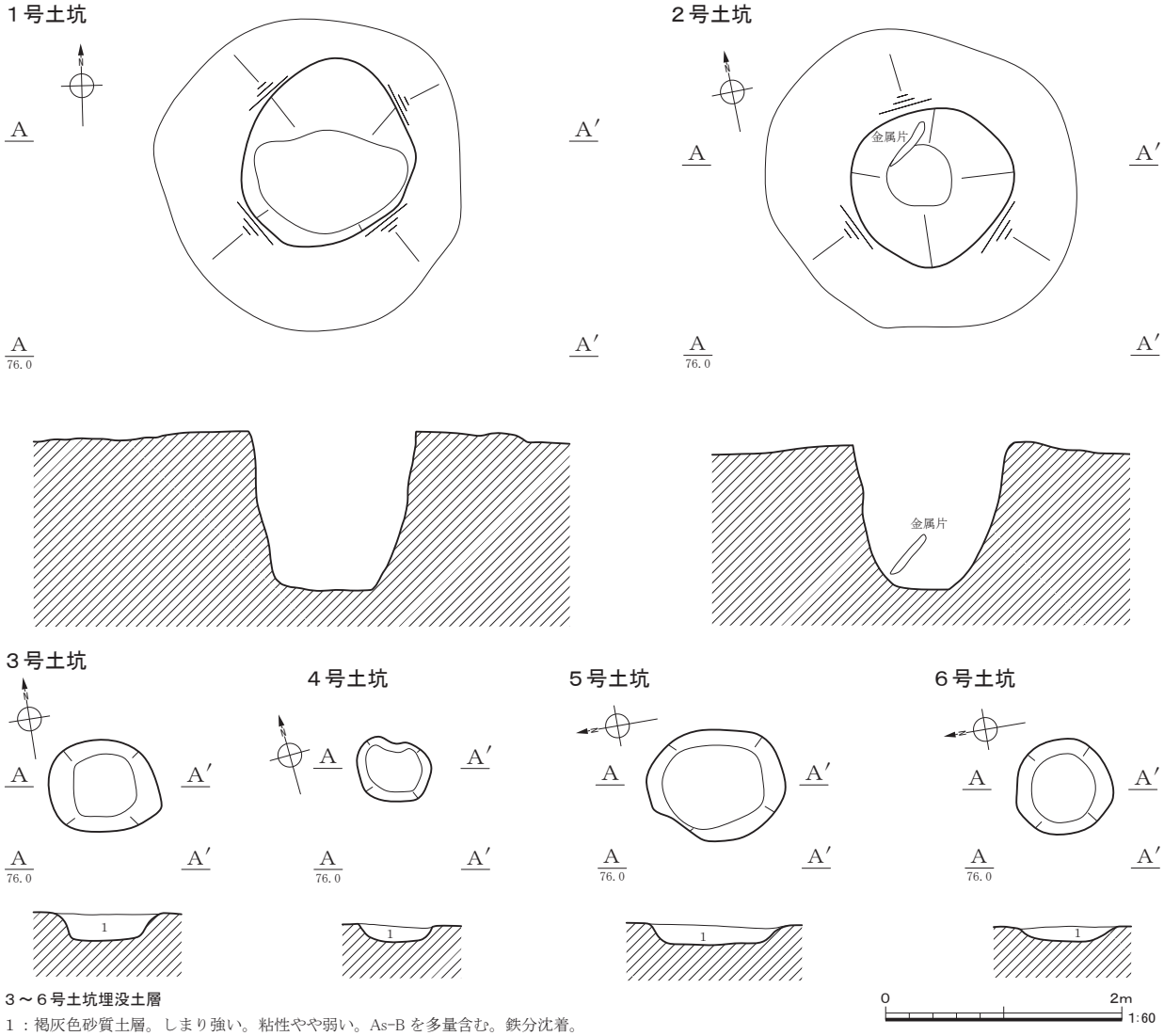
第２表　中近世以降の土坑計測表

単位：cm

遺構名	平面形	長径・短径・深さ
１号土坑	不整円形	160・142・135
２号土坑	円形	138・132・125
３号土坑	楕円形	93・78・25
４号土坑	不整楕円形	62・50・13
５号土坑	楕円形	117・94・18
６号土坑	円形	82・80・12

遺構名	平面形	長径・短径・深さ
７号土坑	円形	75・72・23
８号土坑	隅丸方形	125・120・22
９号土坑	楕円形	83・50・22
10 号土坑	楕円形	118・76・25
11 号土坑	楕円形	101・76・68
12 号土坑	楕円形	115・72・20

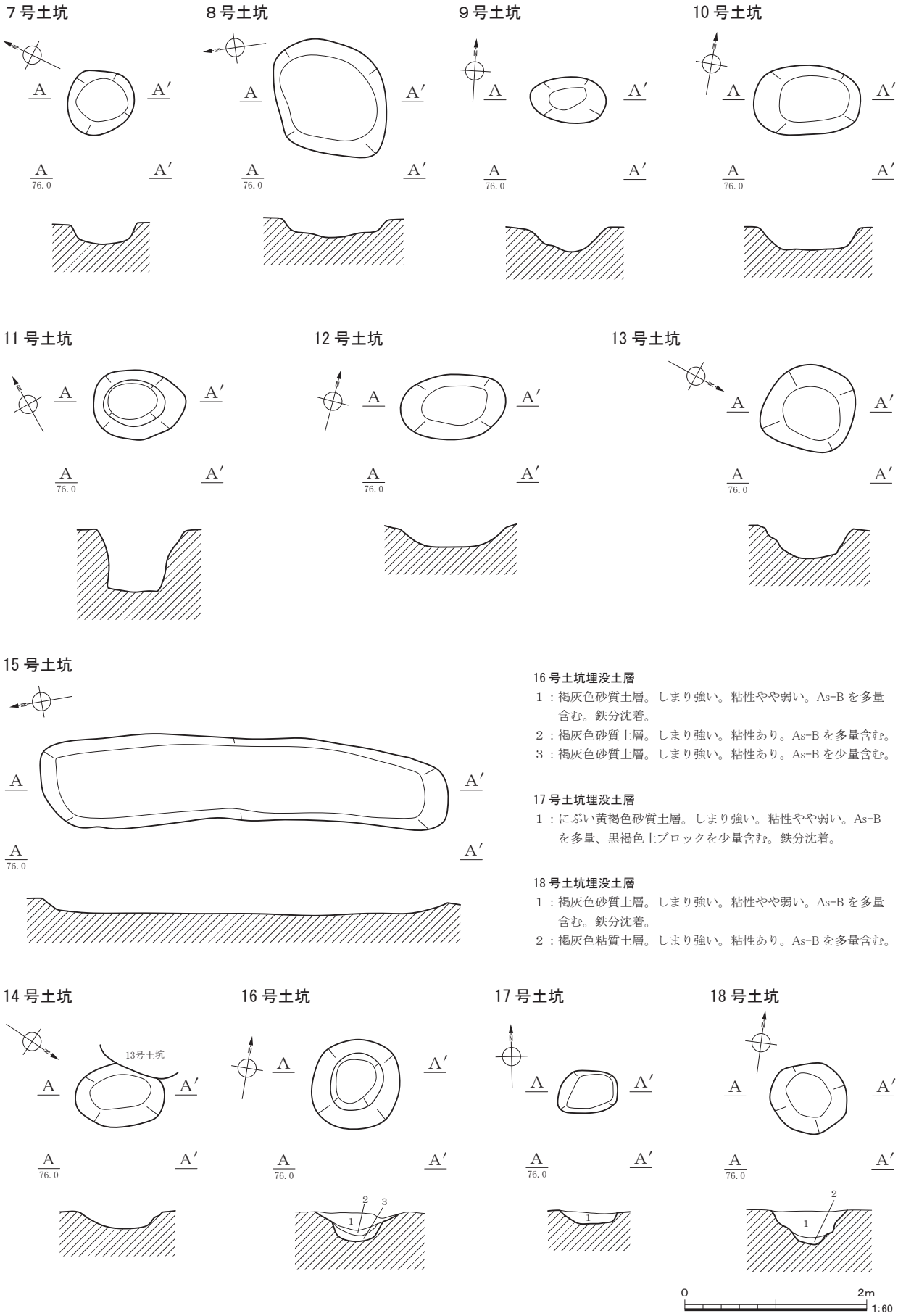
遺構名	平面形	長径・短径・深さ
13 号土坑	隅丸方形	97・93・36
14 号土坑	楕円形	98・70・22
15 号土坑	長楕円形	445・102・16
16 号土坑	円形	99・97・32
17 号土坑	楕円形	65・46・15
18 号土坑	円形	84・78・36



３～６号土坑埋没土層

１：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。As-B を多量含む。鉄分沈着。

第 13 図　中近世以降の土坑（１）



16号土坑埋没土層

1：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。As-B を多量含む。鉄分沈着。
2：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性あり。As-B を多量含む。
3：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性あり。As-B を少量含む。

17号土坑埋没土層

1：にぶい黄褐色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。As-B を多量、黒褐色土ブロックを少量含む。鉄分沈着。

18号土坑埋没土層

1：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性やや弱い。As-B を多量含む。鉄分沈着。
2：褐灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。As-B を多量含む。

第14図　中近世以降の土坑（２）

Ⅵ 平安時代末期（As-B 層下面）の遺構と遺物

１ As-B 層下水田跡

調査区全域に As-B 一次堆積層が良好に残存しており、これを取り除くと水田跡が検出された。水田面は概ね北西から南東へと緩やかに傾斜する。標高は１区で 76.10 m、２区で 75.93 m、３区で 75.65 m、４区で 75.36 mを測る。水田面は北から南、さらに西から東へと低くなるが、１区のみ逆で東から西へと低くなる。畦畔は比較的明瞭に確認できた。３区では一町方格地割に伴う坪境に、幅広の南北畦畔が検出された（１号大畦畔）。畦畔上には石が埋め込まれている箇所が見られ、大畦畔および小畦畔の交点付近に位置するものが多いことから、区画の境を示す標石の可能性が考えられる。水口は部分的にしか検出されなかった。

区画は南北・東西へ走行する畦畔により長方形を志向しているが、中には東西畦畔が蛇行し変形区画となるもの（区画 23・79 など）、平行四辺形（区画 16 など）や台形（区画 17 など）を呈するものも散見される。面積は、最小で 40.9 ㎡、最大で 582.1 ㎡を確認している。水田耕作土は Hr-FA の混入する黒色粘質土で、粘性は非常に強い。各区画内における水田面の比高は０～８㎝を測る。平均は 1.8 ㎝で、湛水深は比較的水平に保たれていたと推測される。水田面の状態は区画により違いが看取された。１・２・４区では足跡列および窪み列が検出された。特に１区の１号足跡列は、調査区を北東端から南西端へと直線的に歩行し、さらに調査区外へと続いていく。なお、後世の水田耕作に起因する As-B を二次的に包含する小規模な窪みも多数検出されている。

１区水田跡（遺構：第 15 ～ 17 図、第３・４表、図版１）

重複：10 ～ 12 号溝と重複し、本水田跡が古い。**残存状態**：調査区北端（区画１・７・13・19・25・26）および南東側（区画 17・18・23・24・30・31）は、後世の耕作により水田面が削平されていた。その他は良好で、５～７㎝ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形**：北から南へ、さらに東から西へ緩傾斜する。水田面の最高位は区画７で 76.10 m、最低位は区画６で 75.84 mである。**区画**：31 区画が確認され、全容が把握できたのは 11 区画である。面積は、最小が 40.9 ㎡、最大が 338.7 ㎡である。**畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔が 29 ～ 97 ㎝、東西畦畔が 38 ～ 99 ㎝である。畦畔の高まりは、調査区西側が良く残っており、南北畦畔が３～６㎝、東西畦畔が５～７㎝を測る。調査区東側はやや低くなり、南北畦畔が１～４㎝、東西畦畔が１～５㎝である。また、水田面が低い方の畦畔脇に沿って、溝状の浅い窪みが検出される部分があり、畝立ての痕跡と見られる。**置き石**：畦畔の交点付近に埋められた石を３ヵ所で検出した。全て安山岩である。各石の法量は計測表に記してある。**水口**：６ヵ所確認された。水口１～５は東西畦畔、水口６は南北畦畔に設置される。幅 10 ～ 69 ㎝。**水田面の状態**：凹凸が確認されるものの浅く、全体的になだらかである。１号足跡列が畦畔の上を踏み越えて北東－南西方向へ直線的に歩行する。また、1 号足跡列の南東約 15 mの位置に１号窪み列がほぼ並行して検出されている。**遺物**：出土しなかった。

２区水田跡（遺構：第 18 図、第４表、図版２）

重複：1 号溝と重複し、本水田跡が古い。**残存状態**：全体的に良好であるが、1 号溝の南側は撹乱で壊されていた。北側では６～８㎝ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形**：概ね北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は区画 32 で 75.95 m、最低位は区画 38 で 75.80 mである。**区画**：７区画が確認されたが、全容が把握できる区画はない。なお、区画 33 は２区画以上になる可能性がある。**畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔が 58 ～ 99 ㎝、東西畦畔が 53 ～ 104 ㎝である。畦畔の上を As-B 一次堆積層が覆っていたため、畦畔の高まりは As-B 降下時に近い状態と推測される。南北畦畔が３～６㎝、東西畦畔が２～９㎝を測る。**水口**：２ヵ所で確認された。水口７は幅 30 ㎝で南北畦畔の北端、水口８は幅 56 ㎝で東西畦畔の東端に設けられる。**水田面**

の状態：区画 32 ～ 34 は凹凸が深く、高低差は３～５㎝を測る。特に区画 32 が顕著で、深い所では６㎝の高低差が認められる。これに対して、区画 35 ～ 38 は凹凸が浅くなる。また、畦畔の上を東西方向へ歩行する足跡列が４列認められた（２～５号足跡列）。**遺物**：出土しなかった。

３区水田跡（遺構：第 19 ～ 22 図、第４・５表、図版３・４）

重複：３～ 9 号溝、３～ 18 号土坑と重複し、本水田跡が古い。**残存状態**：調査区の中央より北側は、後世の耕作により水田面が削平されていた。南側の残存状態は良好で、５～７㎝ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形**：北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は区画 43 で 75.68 m、最低位は区画 75 で 75.32 mである。**区画**：37 区画が確認され、全容が把握できるのは 13 区画である。面積は、最小が 62.4 ㎡、最大が 582.1 ㎡である。**畦畔**：一町方格地割の坪境に１条の南北畦畔が検出され、１号大畦畔と呼称した。方位はＮ－２°－Ｗを指す。大畦畔の幅は 68 ～ 145 ㎝、高まりは１～５㎝である。小畦畔の幅は南北畦畔が 39 ～ 132 ㎝、東西畦畔が 38 ～ 120 ㎝である。小畦畔の高まりは、南北畦畔は調査区南西側（区画 45・46・49・50・53）で残りの良い箇所があり、高い所で５～７㎝を測る。しかし、その他は１～５㎝と低く、水田面の高さと大差ないものも見られる。東西畦畔は１～５㎝と低めだが、区画 70・75 のみ７～９㎝と高い。３区の畦畔は、全体的に幅が広く崩れた印象を受ける。**置き石**：畦畔の上・脇に埋められた石を５ヵ所検出した。全て安山岩である。Ｓ４・５は南北畦畔、Ｓ６・７は１号大畦畔、Ｓ８は東西畦畔に位置する。Ｓ５・７は畦畔の交点付近に埋められている。各石の法量は計測表に記してある。**水口**：４ヵ所で確認された。水口９が南北畦畔、水口 10 ～ 12 が東西畦畔に設けられる。幅 16 ～ 56 ㎝。**水田面の状態**：西側の区画 41・42・44 ～ 46・48 ～ 50 は凹凸が深く、高低差は３～５㎝を測る。その東側の区画 52 ～ 54・56・57・59 ～ 62・66 ～ 68・69 ～ 75 では、凹凸が浅くなる。**遺物**：出土しなかった。

４区水田跡（遺構：第 23・24 図、第５表、図版４・５）

重複：１・２号土坑と重複し、本水田跡が古い。**残存状態**：全体的に良好であるが、調査区西端の区画 76、北端の区画 77・80・82・84 は、後世の耕作により水田面が削平されていた。南側の残存状態は良好で、７～ 10 ㎝ほどの As-B 一次堆積層が確認された。**地形**：概ね北から南へ、さらに西から東へと緩傾斜する。水田面の最高位は区画 76 で 75.40 m、最低位は区画 89 で 75.10 mである。**区画**：14 区画が確認された。全容が把握できるのは１区画のみで、面積は 90.2 ㎡である。なお、区画 76 は２区画以上の区画があると推測される。**畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔が 35 ～ 80 ㎝、東西畦畔が 40 ～ 80 ㎝である。畦畔の高まりは非常に良く残っている。特に調査区南側の南北畦畔は高く、６～ 10 ㎝である。ただし、区画 87 の西側のみ１～２㎝と低い。東西畦畔は３～８㎝である。**水口**：１ヵ所で確認された。水口 13 で東西畦畔の中央付近に設けられる。幅 74 ㎝。**水田面の状態**：区画 77 ～ 80・84・86・88 は高低差２～３㎝の凹凸が認められる。対して、区画 76・81・83・85・87・89 はなだらかで、凹凸はほとんど見られない。また、区画 79 の北西角や区画 81 の南側では、不整形な小窪みや土塊が多く見られた。足跡列が９列認められた（６～ 15 号足跡列）。南北畦畔の脇を歩行するもの、区画の中央を南北方向に歩行するもの、区画内を斜めに横切るものがある。**遺物**：出土しなかった。

２　As-B 層下足跡列

１号足跡列（遺構：第 15 ～ 17・25 図、図版１）

位置：１区中央に位置する。北・南側は調査区外にかかる。**残存状況**：明瞭な足跡は少なく、大半が幅広の窪みとして捉えられる。また、足跡の東脇には所々で円形ないし不整形の小窪みが確認される。牛馬の足跡の可能性

を考えたが、蹄などの痕跡は確認でなかった。**走行方位**：N－38°－E。畦畔の上を踏み越えて、北東→南西方向へ直線的に歩行する。**計測値**：残存長 58.95 m、列幅 80 ～ 162 ㎝。足跡の長さは 19 ～ 30 ㎝で、24 ～ 26 ㎝が多い。深さ１～６㎝。小窪みの長径は７～ 21 ㎝で、10 ～ 14 ㎝が多い。深さ３～５㎝。

２号足跡列（遺構：第 18・25 図、図版２）

位置：２区中央北寄りに位置する。**走行方位**：N－98°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を東→西方向へ歩行する。**計測値**：残存長 7.50 m。足跡の長さ 21 ～ 28 ㎝、深さ２～５㎝。

３号足跡列（遺構：第 18・25 図）

位置：２区中央北寄りに位置する。東側は調査区外にかかる。**走行方位**：N－98°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を西→東方向へ歩行する。**計測値**：残存長 7.66 m。足跡の長さ 20 ～ 23 ㎝、深さ２～５㎝。

４号足跡列（遺構：第 18・25 図）

位置：２区中央北寄りに位置する。**走行方位**：N－114°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を西→東方向へ歩行する。**計測値**：残存長 3.72 m。足跡の長さ 25 ～ 29 ㎝、深さ１～４㎝。

５号足跡列（遺構：第 18・25 図）

位置：２区中央に位置する。西側は調査区外にかかる。**走行方位**：N－96°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 33・35 を西→東方向へ歩行する。**計測値**：残存長 15.50 m。足跡の長さ 20 ～ 25 ㎝、深さ１～５㎝。

６号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区西側に位置する。南側は調査区外にかかる。**走行方位**：N－39°－E。区画 76 を南西→北東方向へ歩行し、７号足跡列と合流する。**計測値**：残存長 13.02 m。足跡の長さは 18 ～ 25 ㎝で、22 ～ 24 ㎝が多い。深さ２～６㎝。

７号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区西側に位置する。南側は調査区外にかかる。**残存状況**：北側は後世の耕作により残存していなかった。**走行方位**：N－７°－E。区画 76 の南北畦畔沿いに南→北方向へ歩行する。**計測値**：残存長 23.31 m、列幅 50 ～ 110 ㎝。足跡の長さは 21 ～ 30 ㎝で、22 ～ 24 ㎝が多い。深さ３～４㎝。

８号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。**走行方位**：N－１°－W。区画 81 の中央を北→南方向へ歩行する。**計測値**：残存長 7.40 m。足跡の長さは 20 ～ 26 ㎝で、22 ～ 25 ㎝が多い。深さ３～５㎝。

９号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。**残存状況**：北側は後世の耕作により残存していなかった。**走行方位**：N－３°－E。区画 81 の南北畦畔沿いに北→南方向へ歩行する。**計測値**：残存長 14.21 m。足跡の長さは 20 ～ 30 ㎝で、22 ～ 23 ㎝が多い。深さ４～６㎝。

10 号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。**残存状況**：北側は後世の耕作により残存していなかった。**走行方位**：N－３°－E。区画 83 の南北畦畔沿いに南→北方向へ歩行する。**計測値**：残存長 14.30 m。足跡の長さは 17 ～ 24 ㎝で、21 ～ 23 ㎝が多い。深さ３～７㎝。

11 号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区中央に位置する。南側は調査区外にかかる。**残存状況**：北側は後世の耕作により残存していなかった。**走行方位**：N－37°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 81・83 を北西→南東方向へ歩行する。**計測値**：残存長 18.20 m。足跡の長さは 21 ～ 30 ㎝で、21 ～ 24 ㎝が多い。深さ６～７㎝。

12 号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区東側に位置する。**走行方位**：N－67°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 85・87 を南西→北東方向へ歩行する。**計測値**：残存長 9.40 m。足跡の長さは 18 ～ 28 ㎝で、22 ～ 24 ㎝が多い。深さ３～５㎝。

13 号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区東側に位置する。南側は調査区外にかかる。**走行方位**：N－55°－E。畦畔の上を踏み越えて、区画 83・85・87・89 を北東→南西方向へ歩行する。**計測値**：残存長 18.90 m。足跡の長さは 16 ～ 25 ㎝で、19 ～ 22 ㎝が多い。深さ２～５㎝。

14 号足跡列（遺構：第 23・26 図、図版５）

位置：４区東側に位置する。南側は調査区外にかかる。**走行方位**：N－32°－W。区画 89 を南東→北西方向へ歩行する。**計測値**：残存長 13.70 m。足跡の長さは 18 ～ 25 ㎝で、20 ～ 23 ㎝が多い。深さ３～６㎝。

15 号足跡列（遺構：第 23・26 図）

位置：４区東端に位置する。北・東側は調査区外にかかる。**走行方位**：区画 89 を南東→北西方向（N－55°－W）へ歩行した後、北上する（N－15°－E）。**計測値**：残存長 13.50 m。足跡の長さは 18 ～ 30 ㎝で、22 ～ 28 ㎝が多い。深さ３～６㎝。

３　As-B 層下窪み列

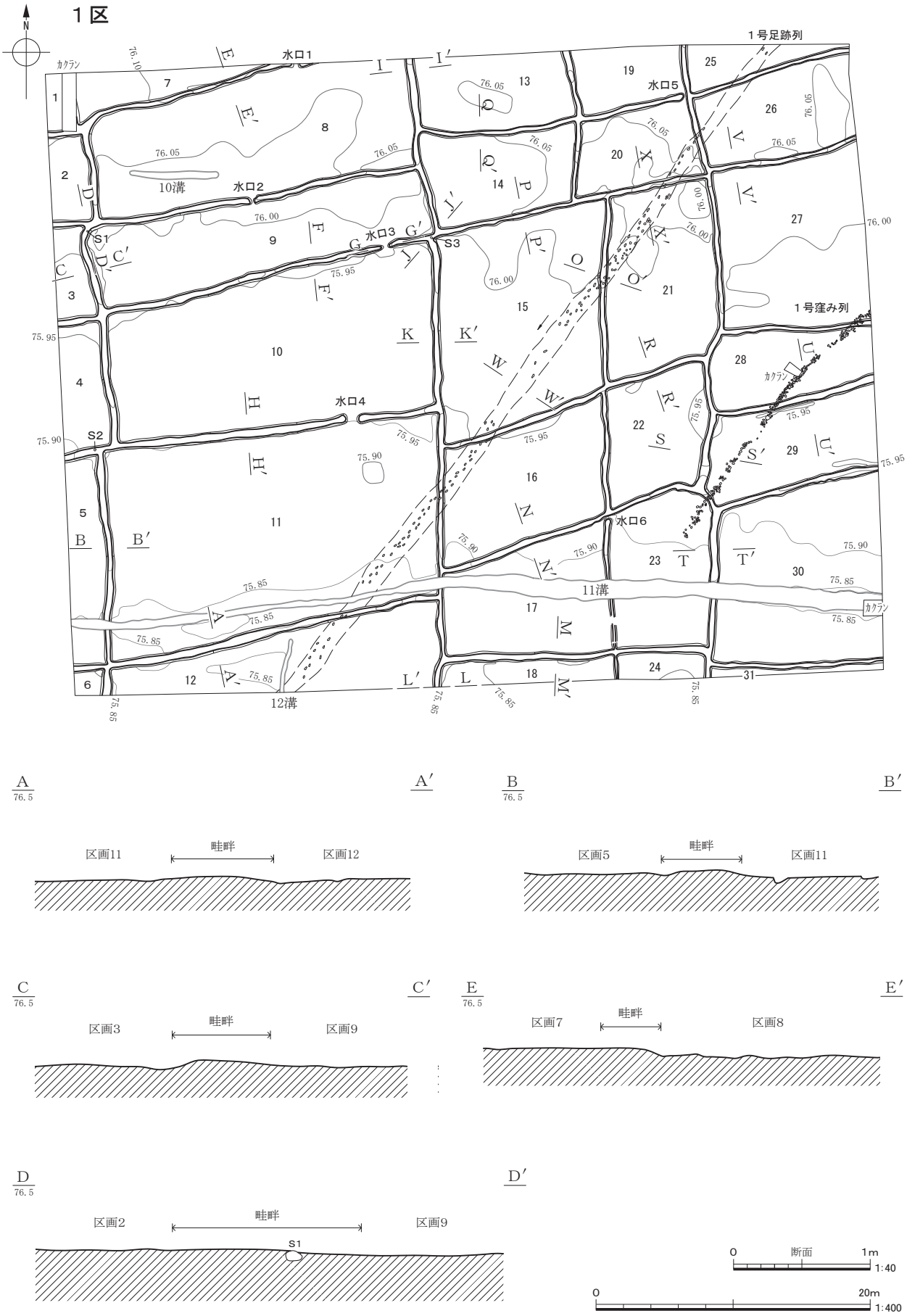
１号窪み列（遺構：第 15 ～ 17・25 図）

位置：１区東側、１号足跡列の南東約 15 m の位置にほぼ並行して検出される。東側は調査区外にかかる。**走行方位**：概ねN－40°－Eを指す。畦畔の上を壊して、北東－南西方向へ走行する。**形態**：平面形は円形ないし不整形を呈する。**計測値**：残存長 21.60 m、列幅 25 ～ 70 ㎝。小窪みは、長径５～ 25 ㎝、短径４～ 12 ㎝、深さ２～３㎝のものが多い。

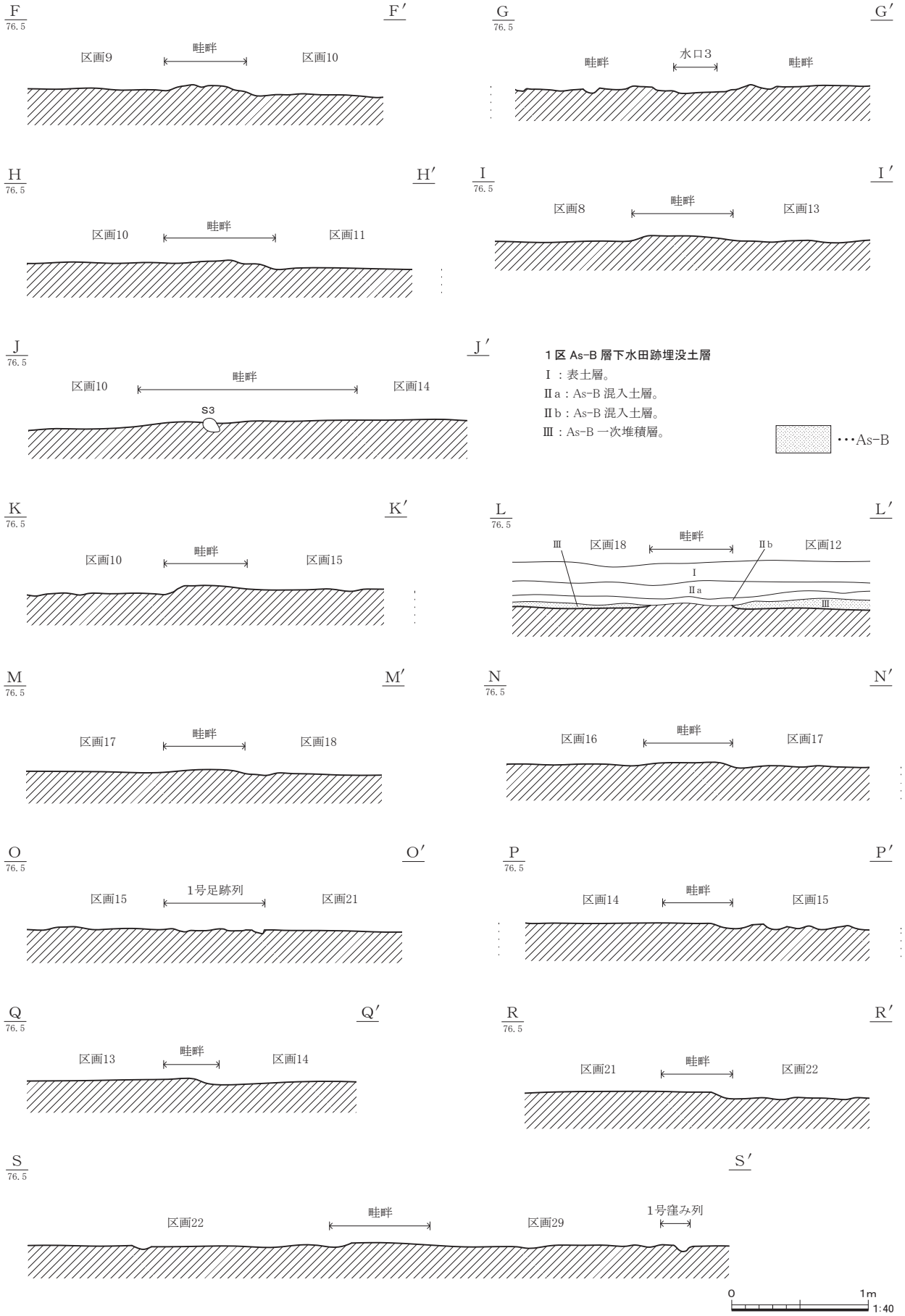
第３表　As-B 層下水田跡区画計測表（１）

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

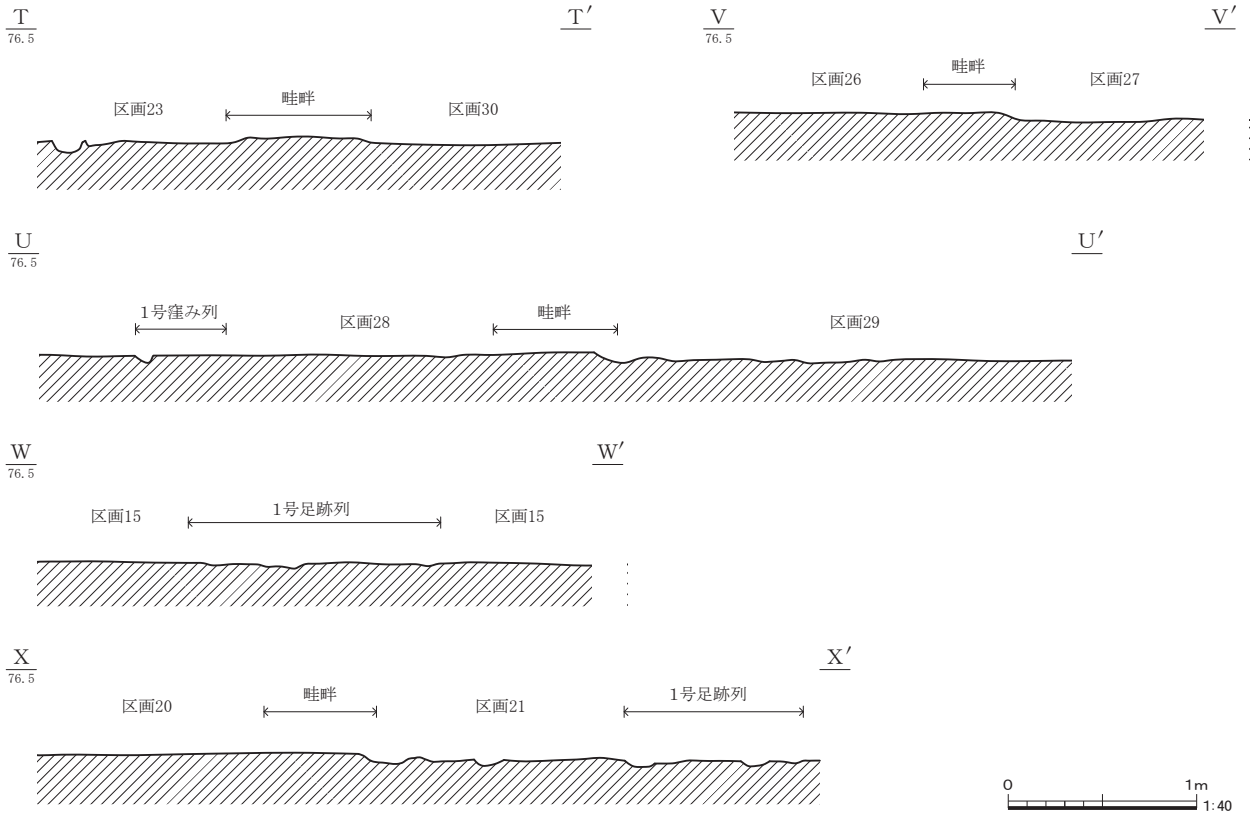
調査区	区画№	面積（㎡）	南北軸（m）	東西軸（m）	田面中央標高（m）	田面比高（㎝）	南北畦畔高（㎝）	南北畦畔幅（㎝）	東西畦畔高（㎝）	東西畦畔幅（㎝）	備考
１区	1	—	—	—	76.08	0	—	—	—	—	
	2	—	5.97	—	76.03	2	—	—	3 ～ 4	58 ～ 61	
	3	—	6.56	—	75.99	1	—	—	1 ～ 2	48 ～ 68	
	4	—	9.12	—	75.93	3	—	—	1 ～ 2	53 ～ 72	
	5	—	14.72	—	75.89	2	—	—	2 ～ 3	53 ～ 78	
	6	—	—	—	75.86	0	—	—	1	51 ～ 70	
	7	—	—	—	76.12	1	—	—	—	—	
	8	—	8.51	23.30	76.06	2	2 ～ 4	58 ～ 73	2 ～ 7	40 ～ 60	水口１（幅 32 ㎝）
	9	124.5	5.39	24.70	76.00	1	3 ～ 5	53 ～ 84	3 ～ 5	47 ～ 72	水口２（幅 13 ㎝）、畦畔交点にS1（長さ 15 ㎝、幅 11 ㎝）
	10	246.2	11.20	23.70	75.92	2	4 ～ 5	64 ～ 79	4 ～ 7	48 ～ 84	水口３（幅 30 ㎝）
	11	338.7	13.62	23.90	75.86	4	4 ～ 5	57 ～ 97	3 ～ 6	54 ～ 90	水口４（幅 69 ㎝）、畦畔交点にS2（長さ 17 ㎝、幅 15 ㎝）
	12	—	—	24.21	75.85	0	1 ～ 2	62 ～ 83	2 ～ 5	51 ～ 99	
	13	—	—	11.05	76.04	1	2 ～ 4	60 ～ 82	—	—	
	14	61.2	5.81	10.52	76.04	1	2 ～ 3	47 ～ 67	2 ～ 3	39 ～ 53	
	15	162.2	14.11	11.80	75.97	2	3 ～ 5	58 ～ 78	2 ～ 3	40 ～ 63	畦畔交点にS3（長さ 19 ㎝、幅 13 ㎝）
	16	94.8	7.70	12.15	75.92	0	4 ～ 6	47 ～ 65	3 ～ 4	47 ～ 68	
	17	89.0	12.05	8.12	75.88	2	4	42 ～ 72	3 ～ 5	41 ～ 70	
	18	—	—	12.70	75.85	0	4	58 ～ 67	3 ～ 4	46 ～ 82	
	19	—	—	7.75	76.08	1	1 ～ 2	43 ～ 72	—	—	
	20	40.9	5.30	8.62	76.04	0	2	43 ～ 55	1 ～ 3	39 ～ 61	水口５（幅 10 ㎝）



第 15 図　1 区 As-B 層下水田跡（1）



第 16 図　1 区 As-B 層下水田跡（2）



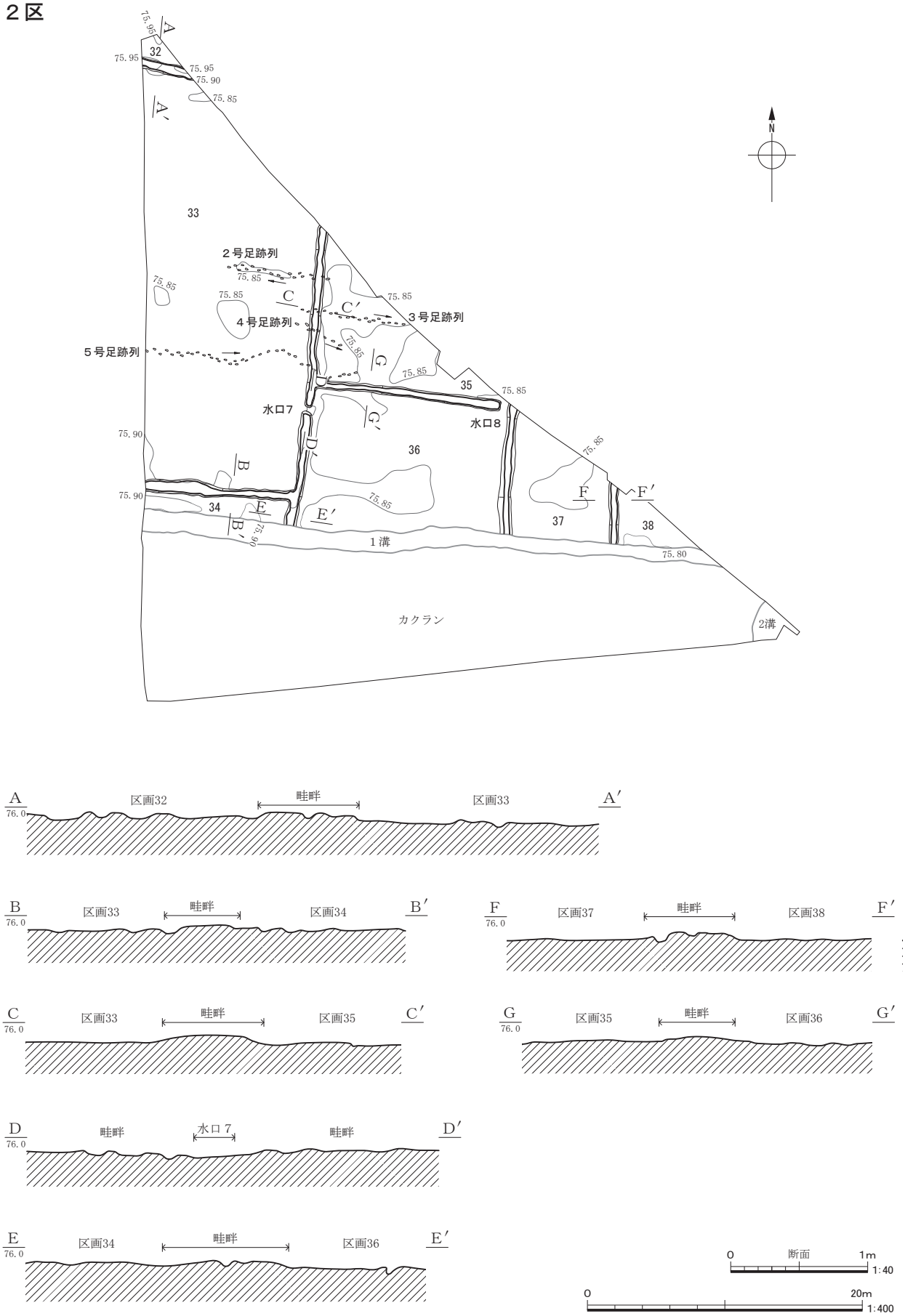
第 17 図　1 区 As-B 層下水田跡（3）

第 4 表　As-B 層下水田跡区画計測表（2）

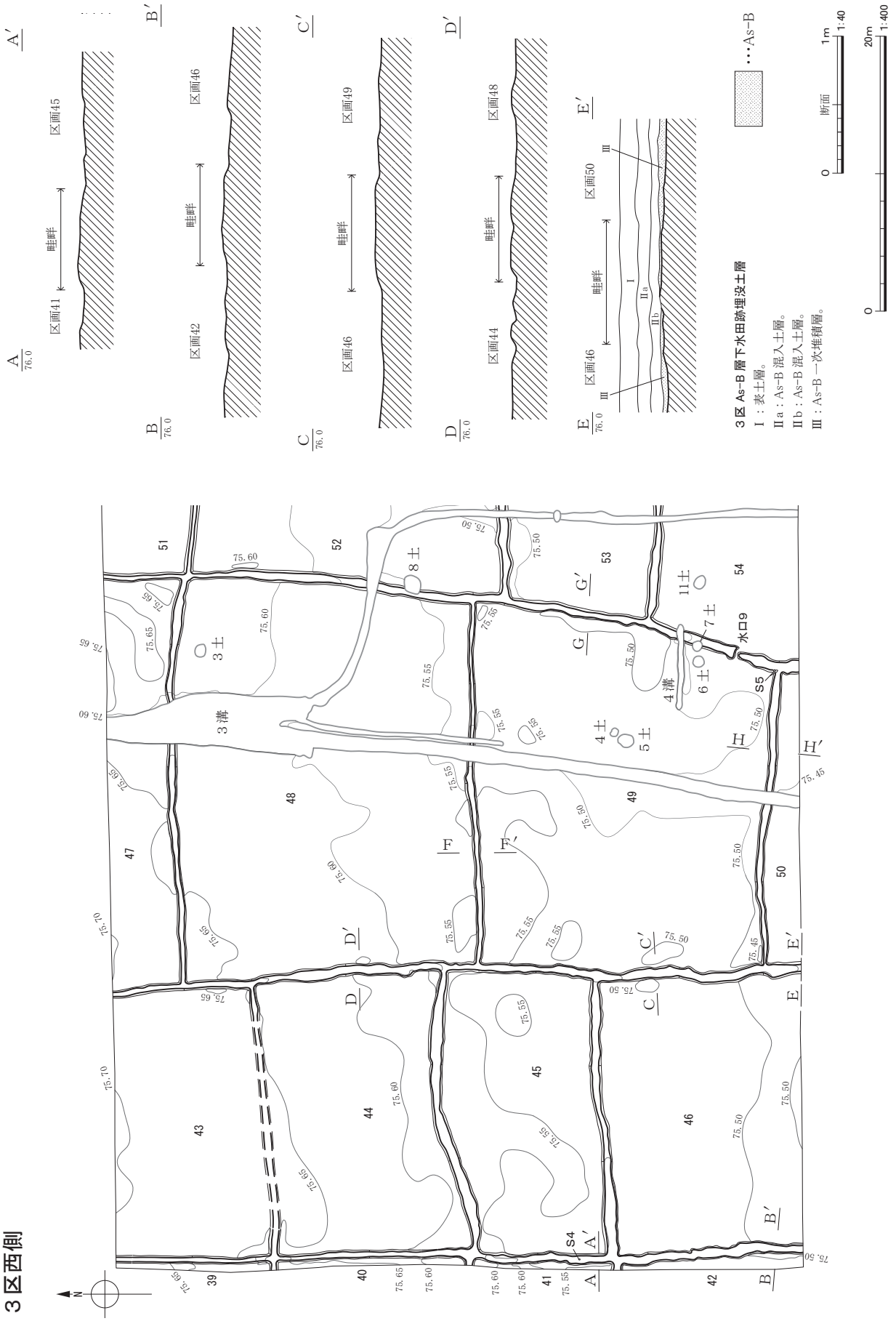
面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画 No.	面積（㎡）	南北軸（m）	東西軸（m）	田面中央標高（m）	田面比高（cm）	南北畦畔高（cm）	南北畦畔幅（cm）	東西畦畔高（cm）	東西畦畔幅（cm）	備考
1 区	21	97.2	12.58	8.10	75.99	1	1 ～ 2	46 ～ 70	2 ～ 4	46 ～ 65	
	22	56.8	7.90	7.23	75.94	1	1 ～ 2	35 ～ 69	3 ～ 4	51 ～ 63	
	23	74.7	11.01	7.20	75.89	3	0 ～ 1	39 ～ 52	3 ～ 4	43 ～ 68	水口 6（幅 13 cm）
	24	—	—	6.20	75.86	0	0 ～ 1	29 ～ 38	1 ～ 2	52 ～ 80	
	25	—	—	—	76.06	0	1 ～ 2	50 ～ 61	—	—	
	26	—	6.35	—	76.06	2	1 ～ 2	49 ～ 63	0 ～ 1	39 ～ 59	
	27	—	12.35	—	76.01	2	2 ～ 3	55 ～ 65	1 ～ 5	41 ～ 60	
	28	—	5.29	—	75.95	0	2 ～ 3	51 ～ 63	0 ～ 3	38 ～ 65	
	29	—	5.38	—	75.93	1	2 ～ 3	58 ～ 97	2 ～ 5	50 ～ 80	
	30	—	13.018	—	75.88	2	2 ～ 4	55 ～ 78	3 ～ 4	46 ～ 86	
	31	—	—	—	75.86	0	2 ～ 3	55 ～ 59	1 ～ 2	42 ～ 60	
2 区	32	—	—	—	75.93	3	—	—	—	—	
	33	—	—	—	75.85	2	—	—	8 ～ 9	69 ～ 83	2 ～ 5 号足跡列、2 区画以上の可能性
	34	—	—	—	75.88	2	—	—	2 ～ 5	54 ～ 104	
	35	—	—	—	75.86	1	5 ～ 6	65 ～ 86	—	—	2 ～ 5 号足跡列
	36	—	—	14.15	75.82	2	5 ～ 6	58 ～ 95	3 ～ 5	53 ～ 86	水口 7（幅 30 cm）、水口 8（幅 56 cm）
	37	—	—	7.15	75.85	2	3 ～ 5	67 ～ 99	—	—	
	38	—	—	—	75.82	2	3 ～ 6	61 ～ 71	—	—	
3 区	39	—	—	—	75.65	2	—	—	—	—	
	40	—	13.60	—	75.64	1	—	—	1	63	
	41	—	10.00	—	75.55	1	—	—	2	70	
	42	—	—	—	75.51	1	—	—	4	81	

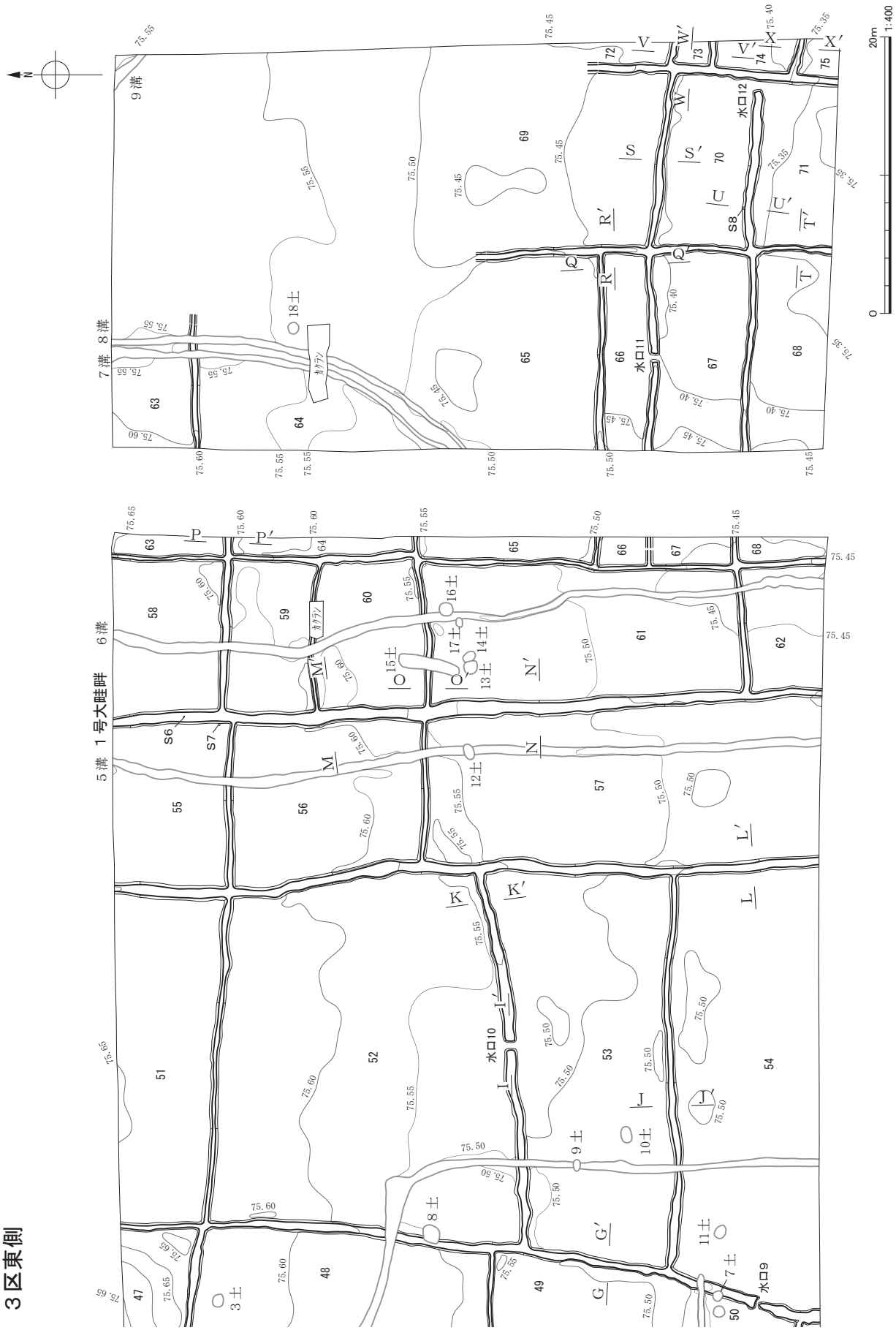
２区



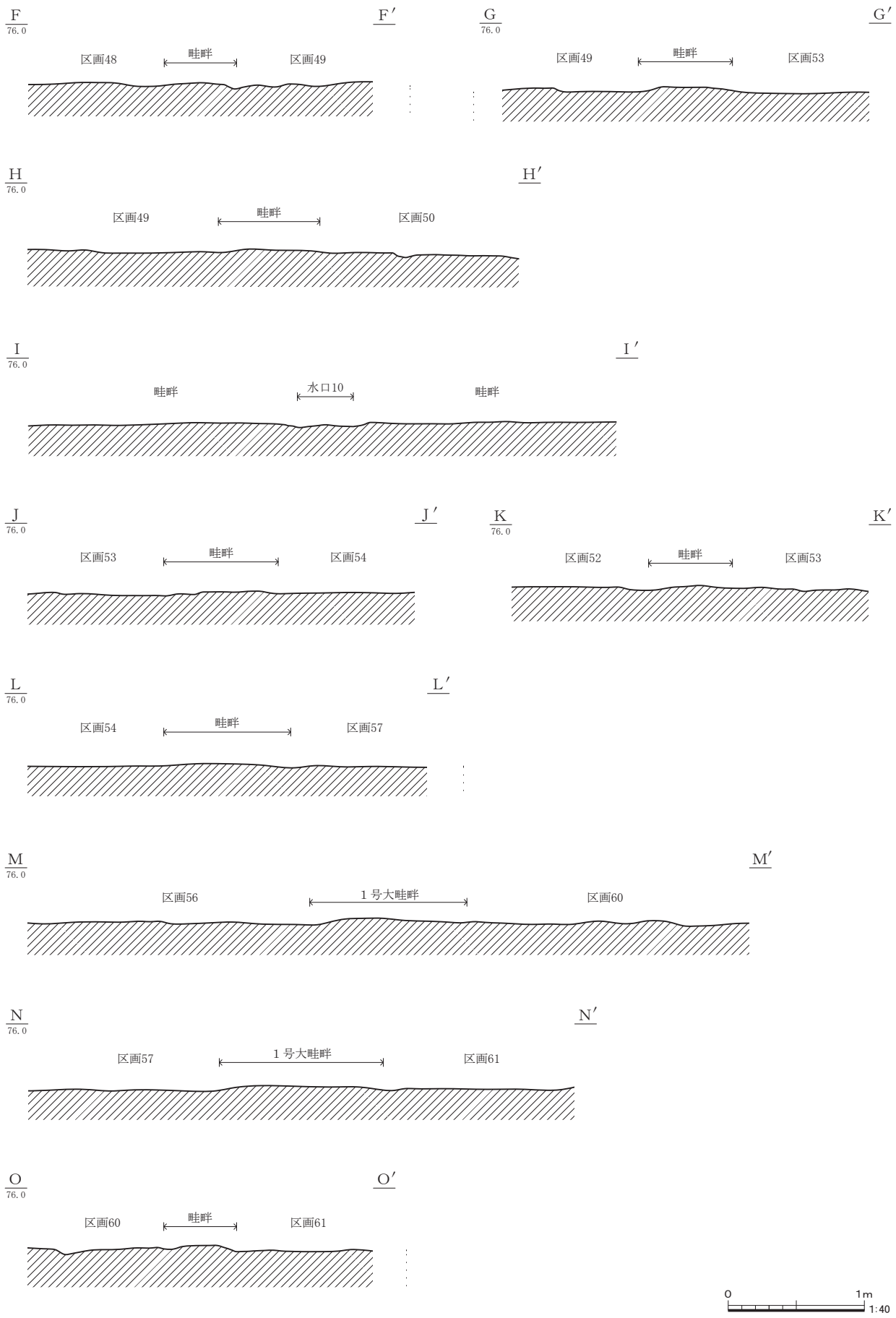
第 18 図　２区 As-B 層下水田跡



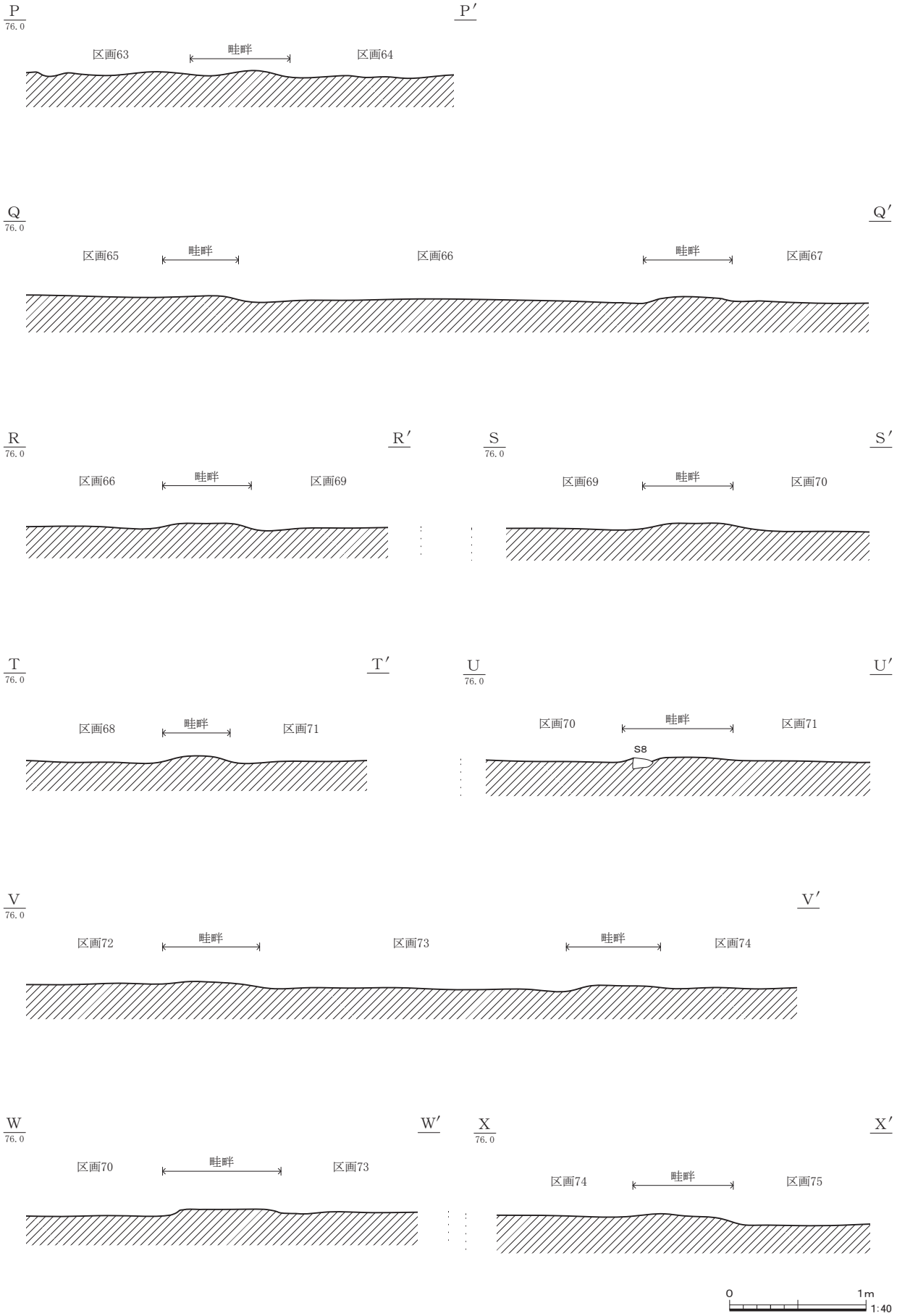
第 19 図　3 区 As-B 層下水田跡（1）



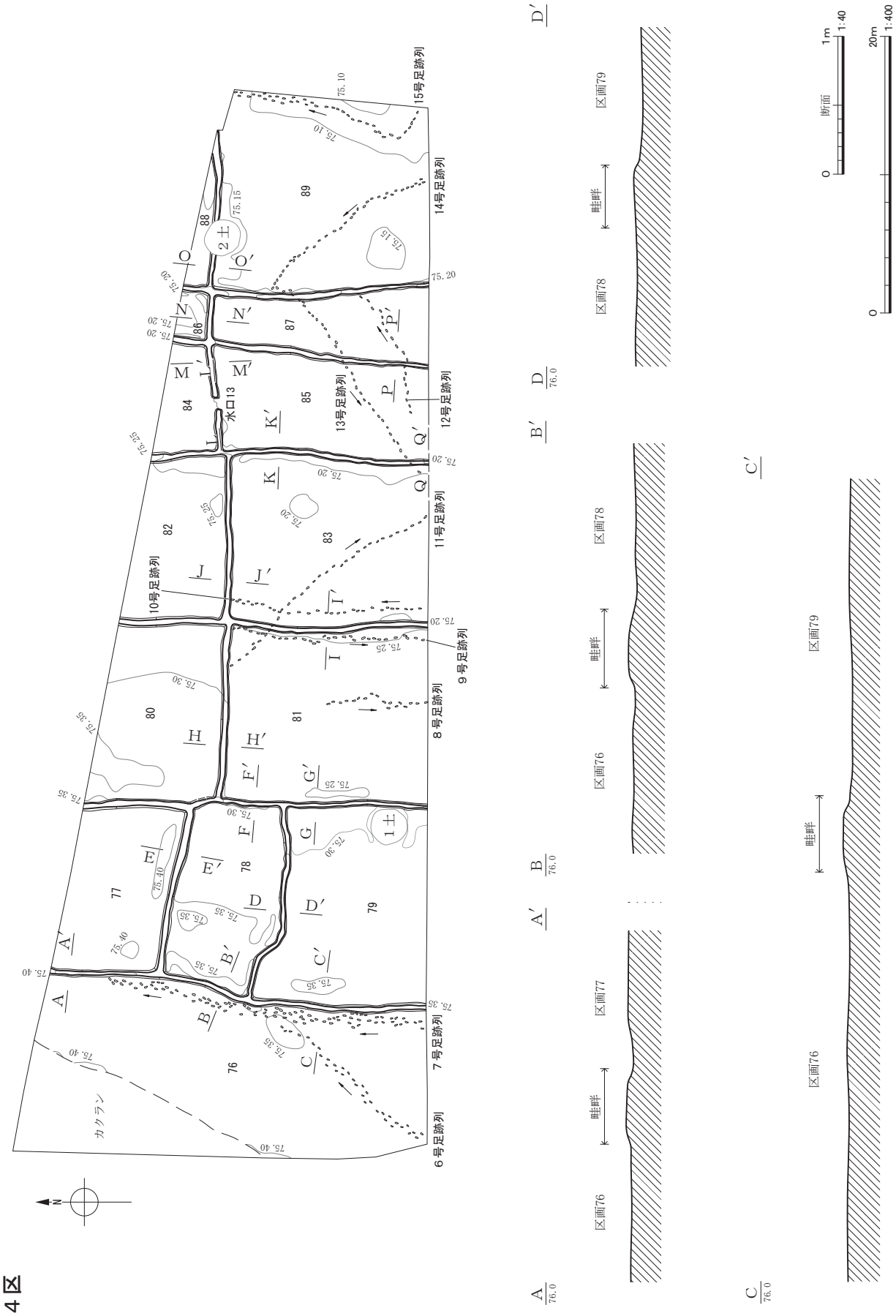
第20図　3区 As-B 層下水田跡（2）



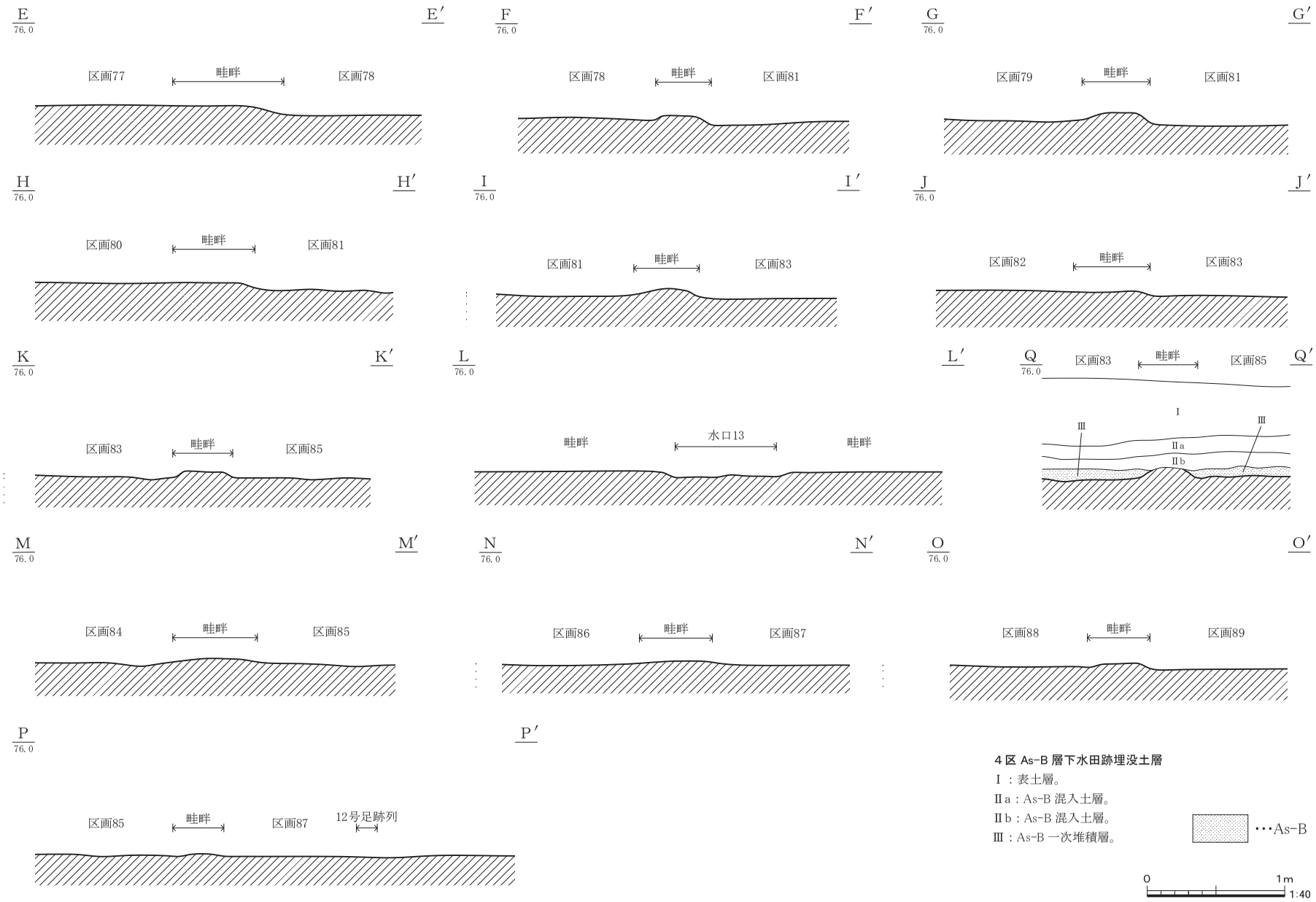
第21図　3区 As-B 層下水田跡（3）



第 22 図　３区 As-B 層下水田跡（４）



第 23 図　4 区 As-B 層下水田跡（1）

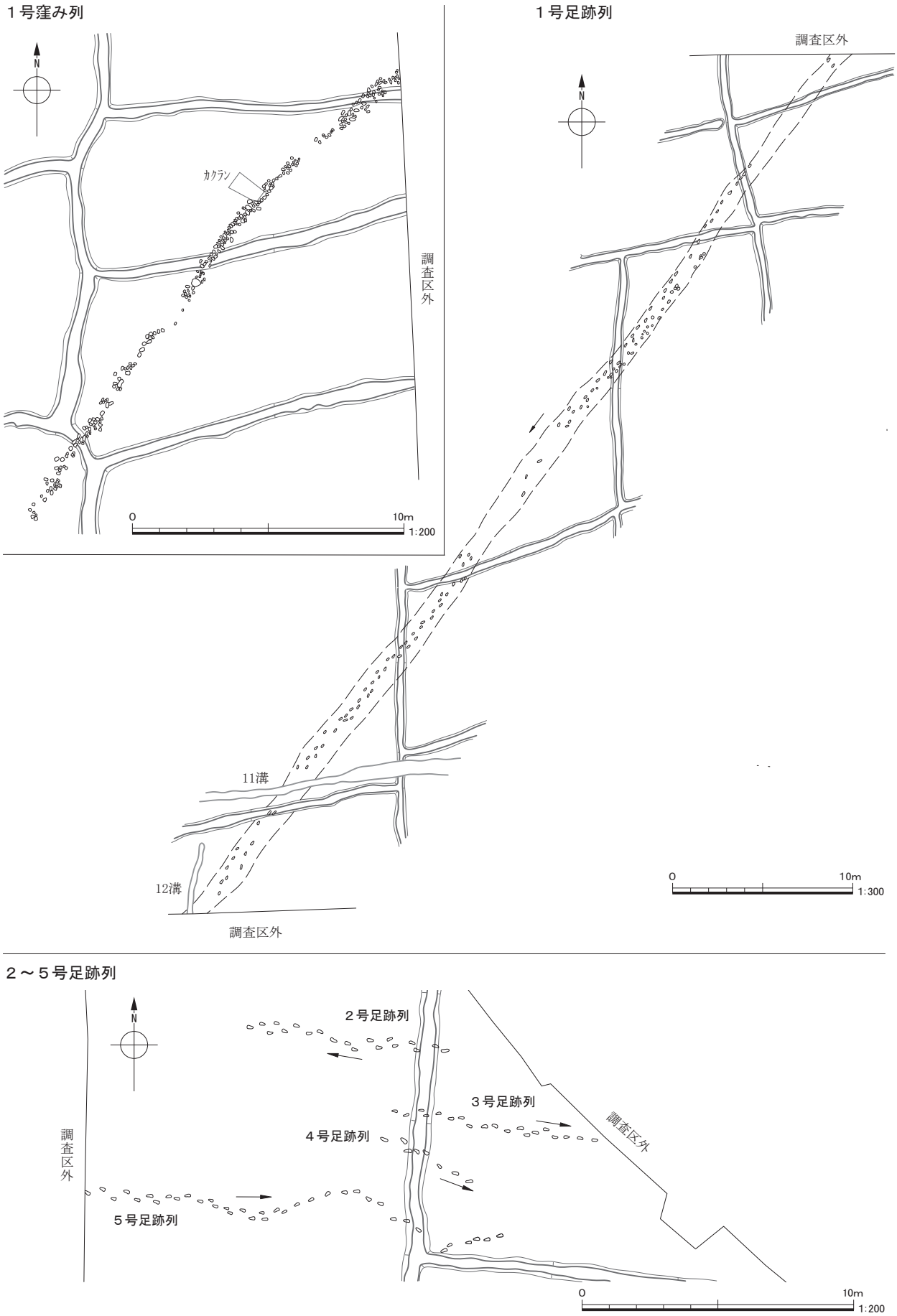


第24図　4区 As-B 層下水田跡（2）

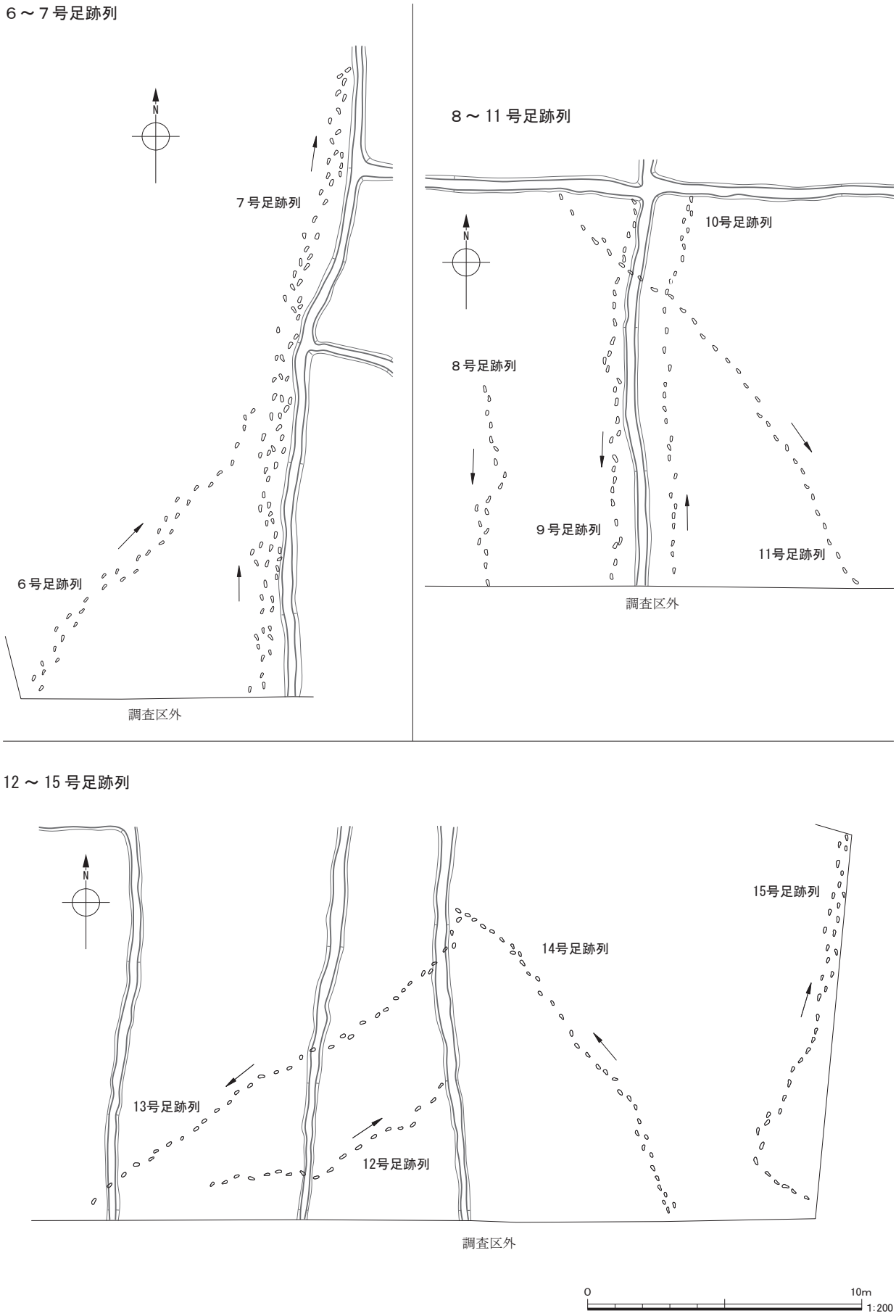
第５表　As-B 層下水田跡区画計測表（３）

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画No.	面積（㎡）	南北軸（ｍ）	東西軸（ｍ）	田面中央標高（ｍ）	田面比高（cm）	南北畦畔高（cm）	南北畦畔幅（cm）	東西畦畔高（cm）	東西畦畔幅（cm）	備考
３区	43	—	—	19.36	75.65	2	2～3	48～60	—	—	
	44	249.5	(11.92)	20.00	75.62	5	0～2	55～76	0～1	48～70	
	45	206.6	10.89	20.45	75.54	3	3～6	64～88	1～2	70～117	南北畦畔にS4（長さ 14 cm、幅 7 cm）
	46	—	—	19.17	75.52	2	1～7	65～116	2～4	66～120	
	47	—	—	29.50	75.65	1	0～2	51～65	—	—	
	48	582.1	21.20	28.00	75.60	8	0～5	59～100	1～3	50～92	
	49	511.9	21.30	25.45	75.50	5	2～6	40～100	1～2	42～80	
	50	—	—	21.03	75.45	1	4～6	88～119	2～3	38～88	
	51	—	—	23.70	75.63	1	0～2	51～61	—	—	
	52	507.6	20.58	24.80	75.58	8	2～4	52～102	1～2	50～80	
	53	300.9	10.66	27.45	75.50	2	5～6	59～87	2～4	60～120	水口 10（幅 42 cm）
	54	—	—	32.00	75.48	2	1～2	70～115	2～4	52～100	水口９（幅 16 cm）、南北畦畔にS5(長さ 19 cm、幅 13 cm)
	55	—	—	11.65	75.63	1	1～2	80～119	—	—	
	56	145.1	13.60	10.68	75.61	3	3～4	72～132	1～3	49～80	
	57	—	—	11.25	75.52	6	2～3	71～120	1～2	42～62	２区画以上の可能性
	58	—	—	10.72	75.62	2	0～1	76～110	—	—	１号大畦畔、大畦畔にS6(長さ 12 cm、幅５cm)・S7(長さ 16 cm、幅 13 cm)
	59	62.4	5.62	10.71	75.60	0	0～1	99～132	1～2	60～97	１号大畦畔
	60	77.2	7.89	10.22	75.58	2	3～4	91～125	3～4	42～50	１号大畦畔
	61	205.1	22.21	9.79	75.52	5	1～2	91～145	4～5	50～75	１号大畦畔
	62	—	—	8.82	75.45	1	2～5	68～80	0～1	51～80	１号大畦畔
	63	—	—	—	75.60	2	0～1	45～59	—	—	
	64	—	12.91	—	75.55	2	3～4	50～90	1～5	41～71	
	65	—	12.71	21.78	75.53	5	2～3	39～79	—	51～65	
	66	63.7	3.14	22.32	75.45	0	1～2	58～60	2～4	45～86	
	67	138.8	6.22	22.58	75.40	1	1～2	57～59	0～4	50～85	水口 11（幅 31 cm）
	68	—	—	22.31	75.36	3	1～3	59～72	3～4	51～80	
	69	—	—	12.40	75.44	2	2～4	62～90	—	—	
	70	71.4	5.95	12.19	75.38	3	3～5	52～79	3～7	51～90	
	71	—	—	11.66	75.34	2	3～5	42～72	3～5	70～100	水口 12（幅 56 cm）、東西畦畔にS8(長さ 18 cm、幅 15 cm)
	72	—	—	—	75.42	0	0～1	70～89	—	—	
	73	—	2.25	—	75.40	0	2～3	82～90	3～5	70～71	
	74	—	5.60	—	75.40	1	3～4	69～90	3～4	60～70	
	75	—	—	—	75.34	0	1～2	70～79	6～9	62～82	
４区	76	—	—	—	75.36	1	—	—	—	—	６・７号足跡列
	77	—	—	11.75	75.38	0	2～6	43～59	—	—	
	78	90.2	7.64	12.86	75.33	0	5～6	42～66	6～8	50～80	
	79	—	—	14.47	75.32	1	5～7	49～70	5～7	40～60	
	80	—	—	12.40	75.32	2	3～6	59～76	—	—	
	81	—	—	12.29	75.27	2	7～10	40～57	4～6	50～71	８・９・11 号足跡列
	82	—	—	11.19	75.28	1	1～2	60～70	—	—	
	83	—	—	11.99	75.21	2	6～8	43～60	4～6	42～55	10・11・13 号足跡列
	84	—	—	7.79	75.20	1	3～4	48～80	—	—	
	85	—	—	6.48	75.18	0	5～9	41～54	3～4	50～61	水口 13（幅 74 cm）、12・13 号足跡列
	86	—	—	3.20	75.20	1	2～3	61～70	—	—	
	87	—	—	4.11	75.16	2	2～3	38～71	3～4	51～61	12・13 号足跡列
	88	—	—	—	75.16	1	4～5	48～52	—	—	
	89	—	—	—	75.13	5	5～7	35～76	3～5	40～71	13・14・15 号足跡列



第 25 図　As-B 層下足跡列（１）・窪み列



第26図　As-B層下足跡列（2）

Ⅶ 古墳時代から平安時代の遺構と遺物

１ Hr-FA 層下水田跡

２・４区でHr-FA（６世紀初頭降下）の堆積が確認された。２区はHr-FA層が比較的良好に残存しており、厚さ２～７㎝の黄橙色火山灰に覆われた水田区画が検出された。Hr-FAが検出されたのは13号溝の東側、幅11.48～14.00ｍの範囲だが、13号溝西側の14号溝との間にもHr-FAを包含する小窪みが散見され、本来はこの範囲にも水田耕作が及んでいたと推測される。水田耕作土はAs-C混入の黒褐色粘質土で、粘性は非常に強い。４区は調査区東端で、幅4.48～5.40ｍの範囲にHr-FAを包含する小窪み群が検出され、水田の痕跡と想定した。

２区 Hr-FA 層下水田跡（遺構：第27図、第７表、図版６／遺物：第27図、第６表、図版10）

位置：２区中央に位置し、南側は撹乱に壊される。北側は調査区外にかかる。**重複**：１・13号溝と重複し、本水田跡が古い。**地形**：概ね北西から南東へ緩傾斜する。水田面の最高位は区画１で75.66ｍ、最低位は区画18で75.51ｍである。**区画**：19区画が確認されたが、全容が把握できるのは３区画のみである。面積は最小で14.2㎡、最大で67.0㎡である。平面形は方形ないし長方形を呈する。**畦畔**：南北畦畔の走行方位は区画12～14を境に異なり、北側は東傾し（Ｎ－１～15°－Ｅ）、南側は西傾する（Ｎ－２～９°－Ｗ）。東西畦畔はＮ－75～102°－Ｅを指す。幅は27～62㎝である。畦畔の高まりは０～５㎝で、区画15～18で良好に残っている。**水口**：確認できなかった。**水田面の状態**：Hr-FAを包含する楕円形の小窪みが無数に認められる。**遺物**：区画18の東西畦畔の南脇水田面から、同一個体の土師器坏片が２点出土した（１）。**時期**：埋没状態・出土遺物より、古墳時代後期に比定される。

４区 Hr-FA 層下水田跡（遺構：第28図、図版７・８）

位置：４区東端に位置し、北・南・東側は調査区外にかかる。**重複**：15号溝と重複し、本水田跡が古い。**地形**：概ね北西から南東へ緩傾斜する。最高位は74.93ｍ、最低位は74.84ｍである。**区画・畦畔**：認められなかった。**水田面の状態**：水田面は残存しない。Hr-FAを包含する楕円形の小窪みが群在する。北東角にわずかな段差が認められる。**遺物**：出土しなかった。**時期**：埋没状態より、古墳時代後期に比定される。

２ 古墳時代から平安時代の溝

13号溝（遺構：第29図、図版７）

位置：２区西側に位置する。北側は調査区外にかかり、南側は撹乱に壊される。**重複**：２区Hr-FA層下水田跡と重複し、本溝が新しい。**形態**：南北方向へやや蛇行して走行し、底面は南側が低い。断面形は皿状ないし逆台形状を呈し、上方は外側へ開く。**計測値**：主軸方位Ｎ－１°－Ｅ、残存長29.62ｍ、幅0.66～1.13ｍ、確認面からの深さ18～22㎝。**埋没状態**：主に褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：土師器片が３点出土した。**時期**：Hr-FA層（Ｖ層）を掘り込み、Hr-FA混入土層（Ⅳc層）に覆われることから、古墳時代後期～平安時代に比定される。

14号溝（遺構：第29図、図版７）

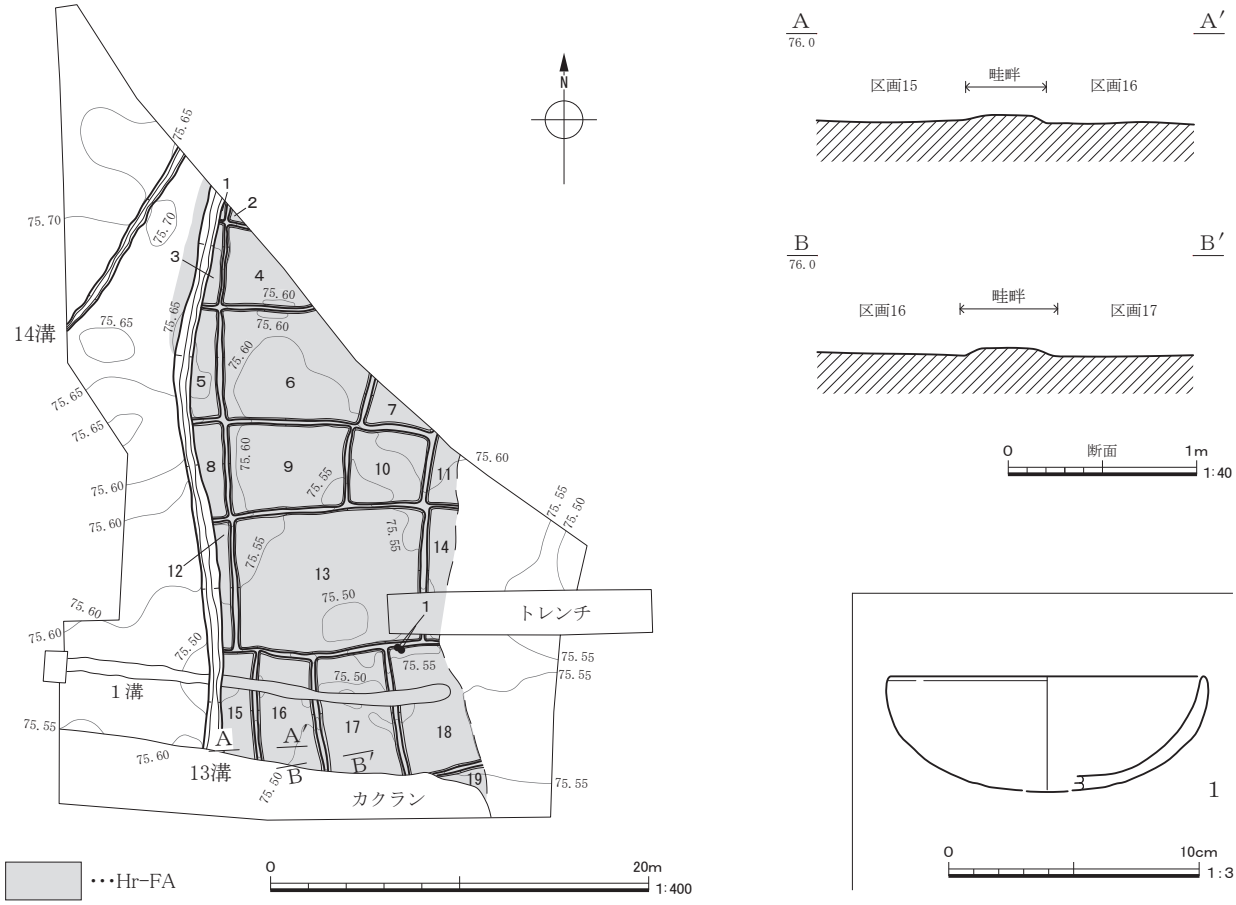
位置：２区西端に位置し、北東・南西側は調査区外にかかる。**形態**：北東－南西方向へほぼ直行し、底面は南西側が若干低い。断面形は皿状を呈する。**計測値**：主軸方位Ｎ－33°－Ｅ、残存長11.70ｍ、幅0.29～0.53ｍ、確認面からの深さ５～６㎝。**埋没状態**：灰黄褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：上面がHr-FA主体の層（Ｖ′層）で覆われることから、古墳時代後期以前に比定される。

15 号溝（遺構：第 30 図、図版８）

位置: ４区南端に位置する。東･南側は調査区外にかかる。**重複**: ４区 Hr-FA 層下水田跡と重複し、本溝が新しい。**形態**：東西方向へ走行し、断面形は不明である。**計測値**：主軸方位Ｎ－88°－Ｅ、残存長 6.70 ｍ、残存幅 0.50 ～ 0.71 ｍ、確認面からの深さ５～６㎝。**埋没状態**：褐灰色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：Hr-FA 混入の黒色粘質土層の上から掘り込み、Hr-FA 混入土層（Ⅳc 層）に覆われることから、古墳時代後期～平安時代に比定される。

16 号溝（遺構：第 31 図、図版８）

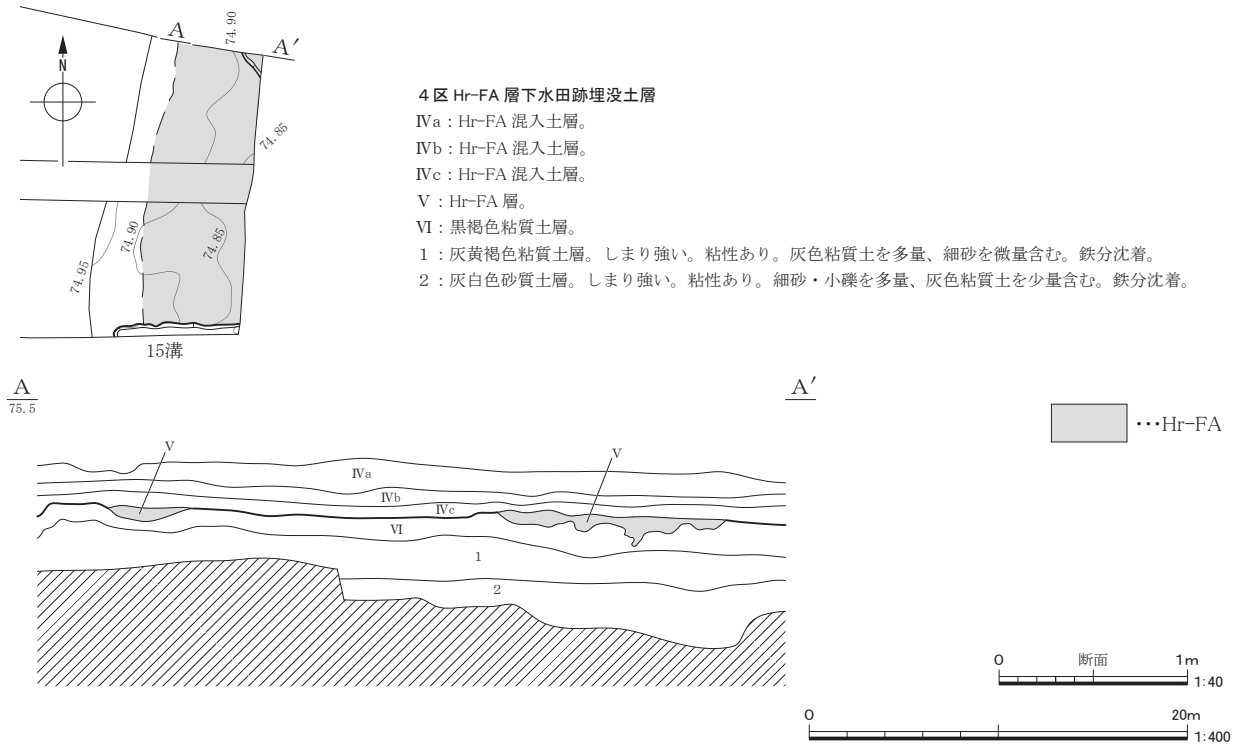
位置：３区東端に位置し、北・南東側は調査区外にかかる。**形態**：南北方向へ走行し、南側で南東に方向を変える。底面は南東側が若干低い。断面形はＵ字状を呈し、上方は外側へ広がる。**計測値**：主軸方位Ｎ－７°－ＷおよびＮ－33°－Ｗ、残存長 30.22 ｍ、幅 0.70 ～ 1.26 ｍ、確認面からの深さ 26 ～ 36㎝。**埋没状態**：上～中層に細砂を含む黒褐色粘質土、下層に砂を非常に多く含む黒褐色砂質土が堆積する。**遺物**：出土しなかった。**時期**：As-C 混入土層（Ⅶ層）に覆われることから、古墳時代前期ないしそれ以前に遡る可能性がある。



第 27 図　２区 Hr-FA 層下水田跡・出土遺物

第６表　古墳時代の出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量（㎝）	特徴	①胎土　②色調	備考
1	２区 Hr-FA 層 下水田跡	土師器 坏	口径：(12.4) 底径：― 器高：残 4.5	外面：口縁部ヨコナデ、体部摩耗。 内面：磨耗。	①チャート・白色粒・暗赤褐色粒 ②内外：橙	口縁～体部1/3残存。



４区 Hr-FA 層下水田跡埋没土層

Ⅳa：Hr-FA 混入土層。
Ⅳb：Hr-FA 混入土層。
Ⅳc：Hr-FA 混入土層。
Ⅴ：Hr-FA 層。
Ⅵ：黒褐色粘質土層。
１：灰黄褐色粘質土層。しまり強い。粘性あり。灰色粘質土を多量、細砂を微量含む。鉄分沈着。
２：灰白色砂質土層。しまり強い。粘性あり。細砂・小礫を多量、灰色粘質土を少量含む。鉄分沈着。

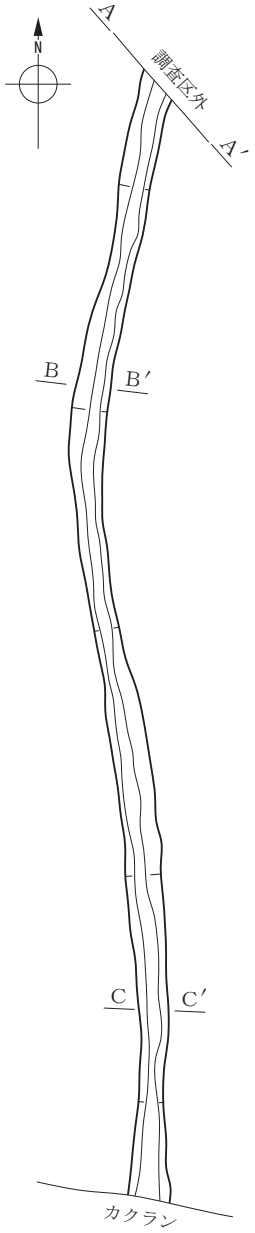
第 28 図　４区 Hr-FA 層下水田跡

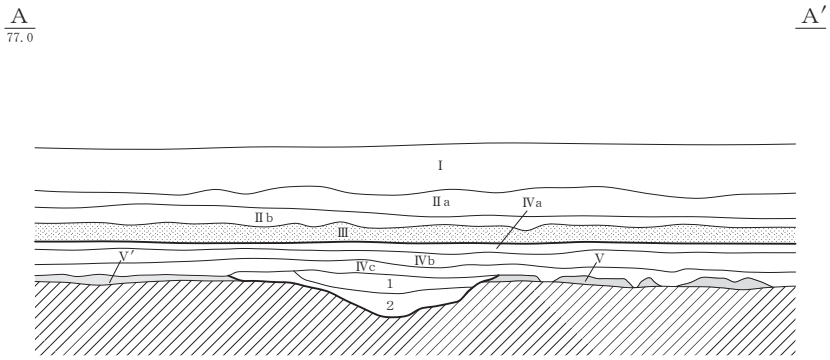
第７表　Hr-FA 層下水田跡区画計測表

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す。

調査区	区画 No.	面積（㎡）	南北軸（ｍ）	東西軸（ｍ）	田面中央標高（ｍ）	田面比高（cm）	南北畦畔高（cm）	南北畦畔幅（cm）	東西畦畔高（cm）	東西畦畔幅（cm）	備考
２区	1	—	—	—	75.66	0	—	—	—	—	
	2	—	—	—	75.64	0	2	33 ～ 49	—	—	
	3	—	4.22	—	75.64	1	—	—	2	27 ～ 29	
	4	—	4.00	—	75.62	2	1	32 ～ 39	3	35 ～ 36	
	5	—	5.72	—	75.65	1	—	—	3	35 ～ 39	
	6	—	5.59	7.62	75.60	0	1	39 ～ 54	2	38 ～ 45	
	7	—	—	—	75.62	0	0	45 ～ 51	—	—	
	8	—	4.90	—	75.61	0	—	—	0	42 ～ 45	
	9	26.3	4.30	5.94	75.57	2	1	40 ～ 42	2	39 ～ 41	
	10	14.2	3.73	3.83	75.58	5	1	32 ～ 48	1	49 ～ 55	
	11	—	—	—	75.59	0	1	43 ～ 50	—	—	
	12	—	6.55	—	75.56	2	—	—	2	34 ～ 39	
	13	67.0	7.32	9.42	75.52	3	1	37 ～ 54	2	38 ～ 50	
	14	—	6.89	—	75.56	3	1	31 ～ 58	0	31 ～ 33	
	15	—	—	—	75.51	0	—	—	2	31 ～ 33	
	16	—	—	2.70	75.52	1	5	32 ～ 52	2	40 ～ 49	
	17	—	—	3.65	75.49	1	5	40 ～ 62	2	40 ～ 47	
	18	—	6.64	—	75.51	4	3	37 ～ 52	1	32 ～ 45	
	19	—	—	—	75.55	0	—	—	1	34 ～ 49	

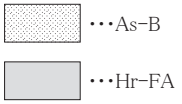
13 号溝



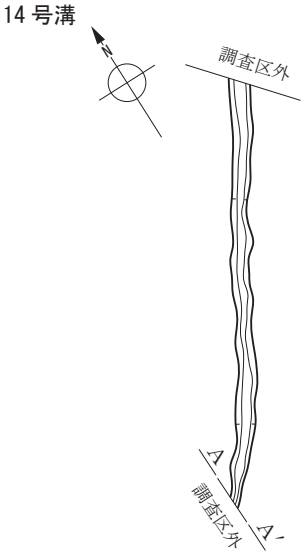


13 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱa：As-B 混入土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅳa：Hr-FA 混入土層。
Ⅳb：Hr-FA 混入土層。
Ⅳc：Hr-FA 混入土層。
Ⅴ：Hr-FA 一次堆積層。
Ⅴ′：Hr-FA 主体。灰色粘質土が多量混入する。
１：褐灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。細砂を少量含む。鉄分沈着。
２：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性あり。細砂を多量含む。鉄分沈着。
３：灰褐色砂質土層。しまりやや強い。粘性ややあり。砂を多量含む。鉄分沈着。

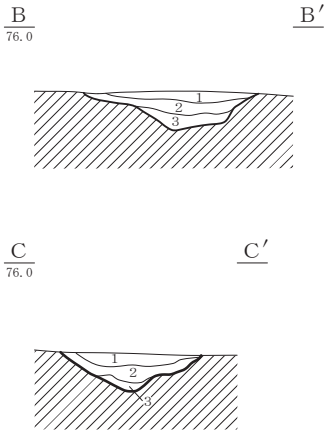


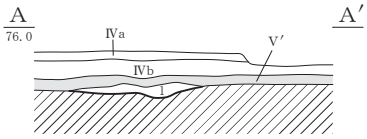
14 号溝

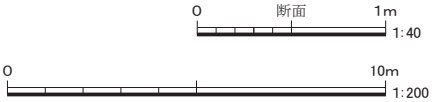


14 号溝埋没土層

Ⅳa：Hr-FA 混入土層。
Ⅳb：Hr-FA 混入土層。
Ⅴ′：Hr-FA 主体。灰色粘質土が多量混入する。
１：灰黄褐色砂質土層。しまりなし。粘性なし。細砂を非常に多く、灰色粘質土ブロックを少量含む。

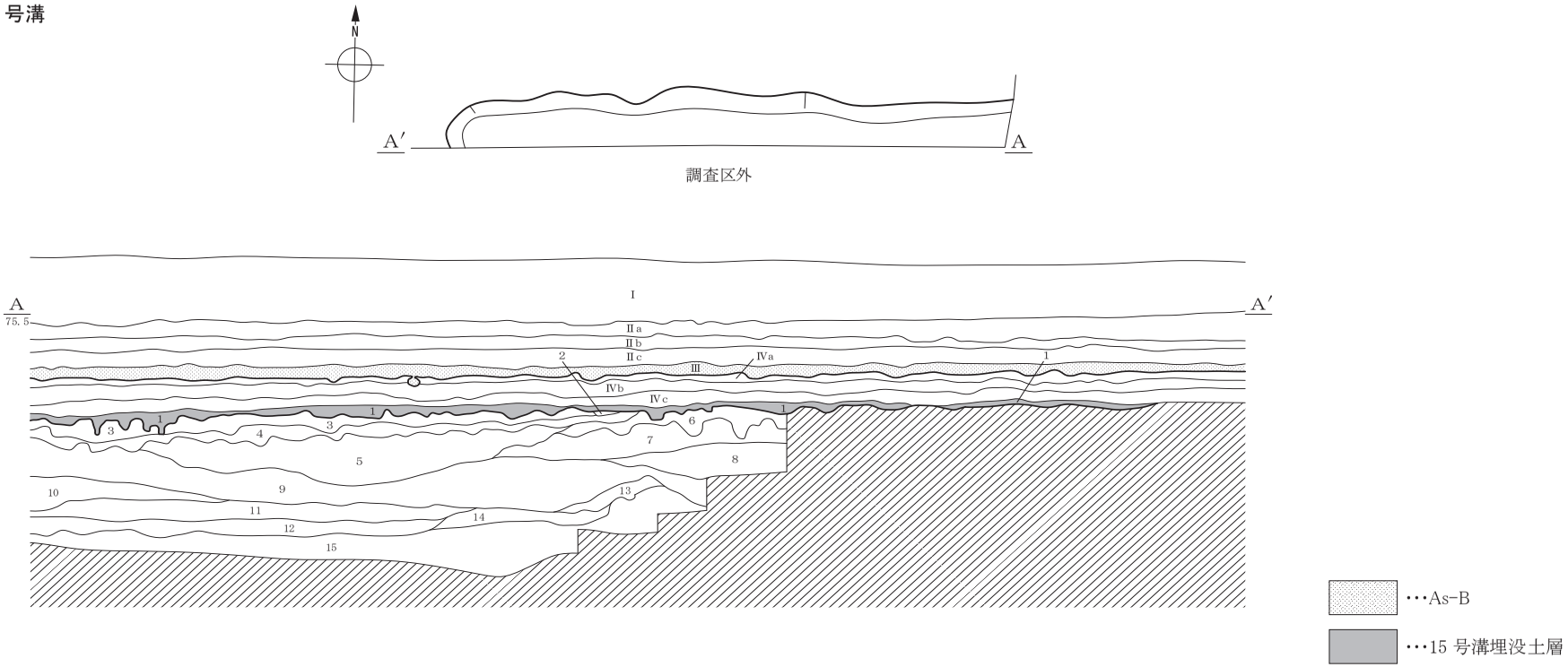






第 29 図　古墳時代から平安時代の溝（１）

15 号溝



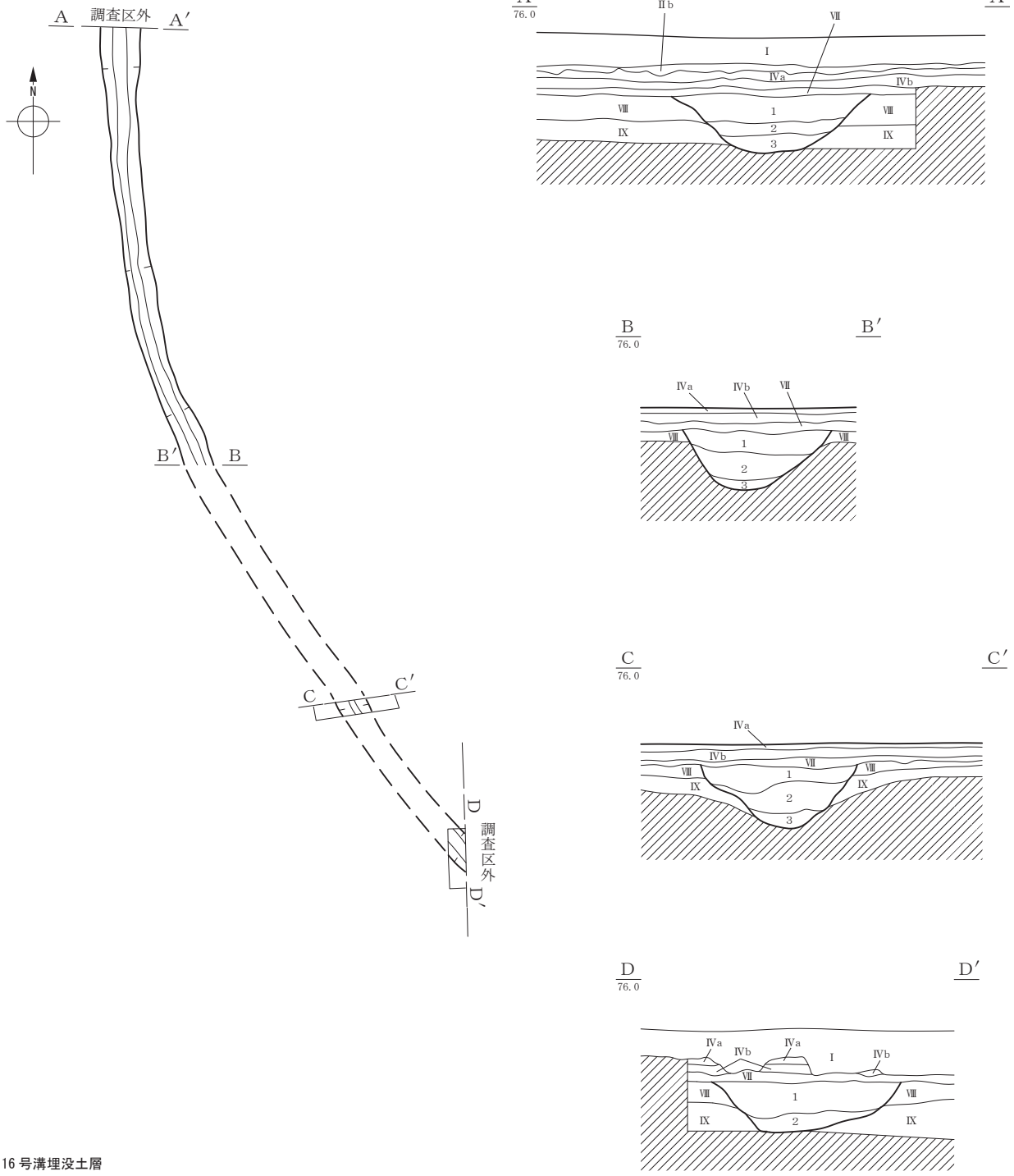
第 30 図　古墳時代から平安時代の溝（２）

15 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱa：As-B 混入土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
Ⅱc：As-B 混入土層。鉄分凝集層。
Ⅲ：As-B 一次堆積層。
Ⅳa：Hr-FA 混入土層。
Ⅳb：Hr-FA 混入土層。
Ⅳc：Hr-FA 混入土層。
１：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性あり。細砂を多量含む。鉄分沈着。15 号溝埋没土層。
２：黒色粘質土層。しまり強い。粘性あり。Hr-FA を多量、As-C を少量含む。鉄分沈着。
３：灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。上面に Hr-FA が部分的に見える。
４：灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。白色粒・細砂を多量含む。
５：暗灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。鉄分沈着。
６：灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。白色粒・灰黄褐色粘質土を少量含む。鉄分沈着。
７：灰白色粘質土層。しまり強い。粘性あり。黄橙色礫・灰色粘質土を少量含む。鉄分沈着。
８：灰白色粘質土層。しまり強い。粘性あり。７層より礫が多い。鉄分沈着。
９：黒色粘質土層。しまり強い。粘性あり。鉄分沈着。
10：褐灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。細砂を多量、灰色粘質土を少量含む。鉄分沈着。
11：褐灰色砂質土層。しまり強い。粘性あり。細砂を非常に多く、白色粒・灰色粘質土を少量含む。
12：褐灰色砂質土層。しまりやや強い。粘性やや弱い。粗砂を非常に多く、黒褐色粘質土を少量含む。
13：灰色粘質土層。しまりやや強い。粘性ややあり。細砂を多量含む。
14：褐灰色砂質土層。しまりやや強い。粘性やや弱い。粗砂を非常に多く、黄橙色礫を少量含む。
15：灰白色砂礫層。しまり強い。粘性ややあり。

0　断面　1m　1:40
0　2m　1:80

16 号溝



16 号溝埋没土層

Ⅰ：表土層。
Ⅱb：As-B 混入土層。
Ⅳa：Hr-FA 混入土層。
Ⅳb：Hr-FA 混入土層。
Ⅶ：As-C 混入土層。
Ⅷ：褐灰色シルト層。
Ⅸ：灰黄褐色シルト層。
１：褐灰色粘質土層。しまり強い。粘性あり。白色粒を多量、細砂を少量含む。鉄分沈着。
２：黒褐色粘質土層。しまりやや強い。粘性あり。細砂を非常に多く、白色粒を少量含む。鉄分沈着。
３：黒褐色砂質土層。しまりやや強い。粘性やや弱い。砂を非常に多く含む。

0　断面　1m　1:40
0　10m　1:200

第 31 図　古墳時代から平安時代の溝（３）

Ⅷ まとめ

今回の調査では、古墳時代から中近世に至る土地利用の変遷を把握することができた。本遺跡は後背湿地に立地することから、古墳時代から近現代に至るまで、主に水田域として利用され続けてきた。周辺では多くの発掘調査事例が蓄積されてきており、前橋南部地区における様相が広い範囲で明らかになりつつある。以下では、これらの事例を踏まえ、調査成果を概観していきたい。

Hr-FA 層下水田跡（第 32 図）

Hr-FA 層下の水田跡は２・４区で検出された。同様の水田跡は西田遺跡、下阿内壱町畑遺跡、南部拠点地区遺跡群№.1 でも確認されている。しかし、ほとんどが後世の耕作などにより水田面は残存せず、明瞭な区画も認められない。小区画を形成する畦畔を確認することができるのは、本遺跡２区、西田遺跡Ｅ区、下阿内壱町畑遺跡２区のみである。Hr-FA 層下水田跡には、いわゆる「極小区画水田」と呼ばれる、区画が極端に小さく（面積３～ 10 ㎡前後）、碁盤目状に整然と造られる水田が多く見られる。本遺跡２区では面積が最小で 14.2 ㎡、最大で 67.0 ㎡を測る。極小区画水田に比して大型で、面積の差が大きく規模の異なる区画が混在する状況であった。

本遺跡２区水田跡は北東側に展開する下阿内壱町畑遺跡２・３区および南部拠点地区遺跡群№.1- 2a区に、本遺跡４区水田跡は北西側に展開する南部拠点地区遺跡群№.1- 5b区に連続することが見込まれる。これらは自然地形に沿った造成が窺われ、当時の低位面に位置するものと推測される。これらの水田に伴う水路としては、Hr-FA 降下以前に埋没する本遺跡 14 号溝および南部拠点地区遺跡群№.1-５区 18 号溝、Hr-FA によって直接埋没する南部拠点地区遺跡群№.1-５区 19 号溝が挙げられる。

なお、水路と想定される溝が多数検出されているが、大半は本遺跡 13 号溝のように Hr-FA 降下後に開削されたものである。本遺跡 13 号溝は下阿内壱町畑遺跡７号溝、南部拠点地区遺跡群№.１－２・3区1a号溝、西田遺跡 260 ないし 268 号溝と同一の溝と予想され、西田遺跡 252・280 号溝が接続する。これらの溝は Hr-FA 層下水田跡の検出位置と重なっている。水田跡に残る後世の耕作痕の存在から、溝の周辺には水田が広がっていたと考えられ、Hr-FA 降下後も降下前の分布域を踏襲して水田が造成されていた様相が窺える。

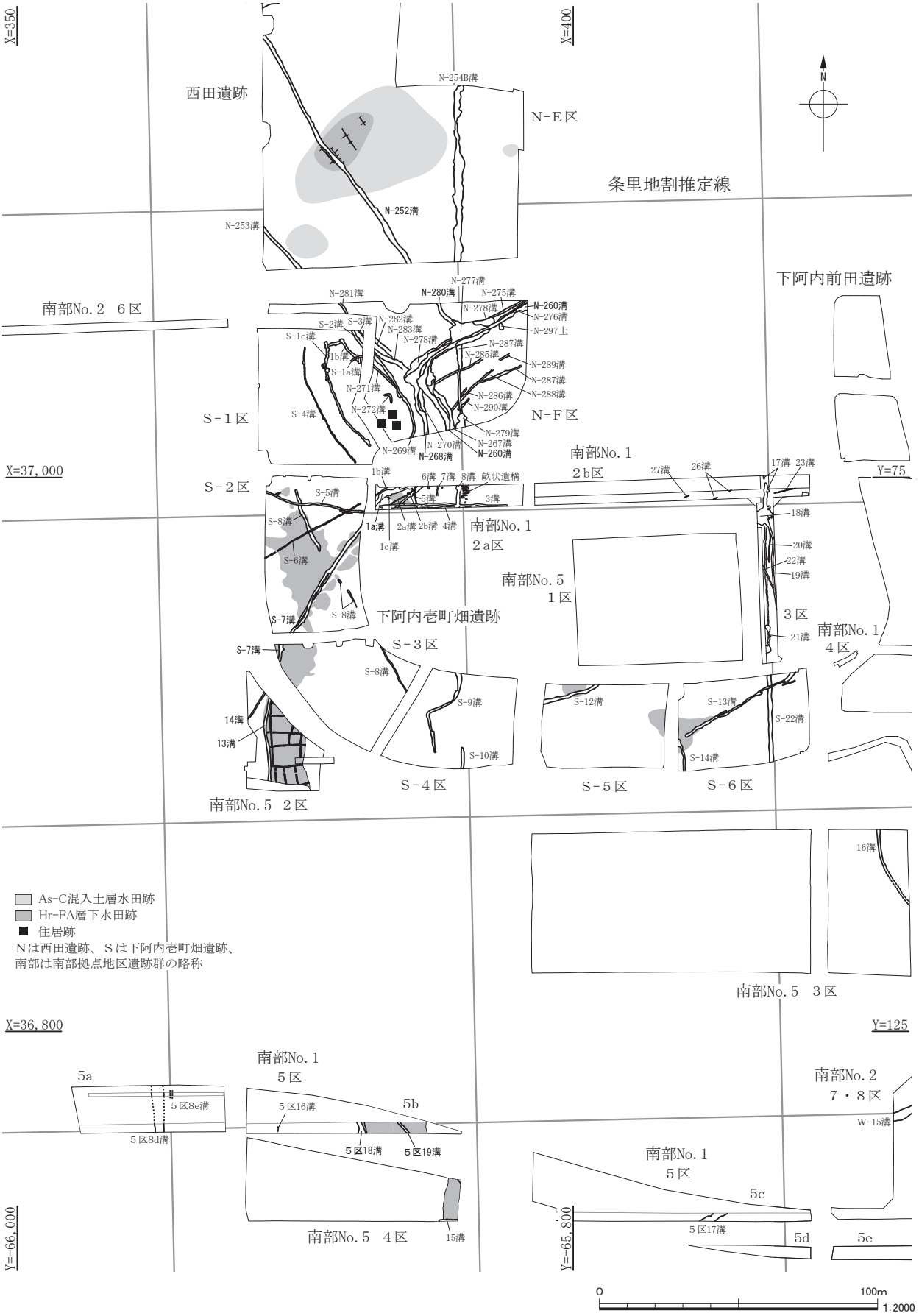
As-B 層下水田跡と条里地割（第 33 図）

As-B 層下の水田跡には、「条里地割」と呼ばれる一町（約 109 m）四方を単位とする方格地割が認められる。条里地割の最小単位である一町四方の区画を坪と呼び、これを縦横６個ずつ並べた六町方格の区画を里という。本遺跡を含む前橋南部地区の As-B 層下水田跡では、坪境の大畦畔や水路などの検出により、条里地割に基づいた水田造営を行っていることが判明した。第 33 図に図示した範囲について概観すると、各大畦畔間の距離は約 110 mを測る。南北大畦畔はＮ－０°ないしＮ－１°－Ｗを指し、わずかに西へ傾いて設定されている。東西大畦畔はＮ－ 89 ～ 91°－Ｅを指し、南北大畦畔にほぼ直交するようである。

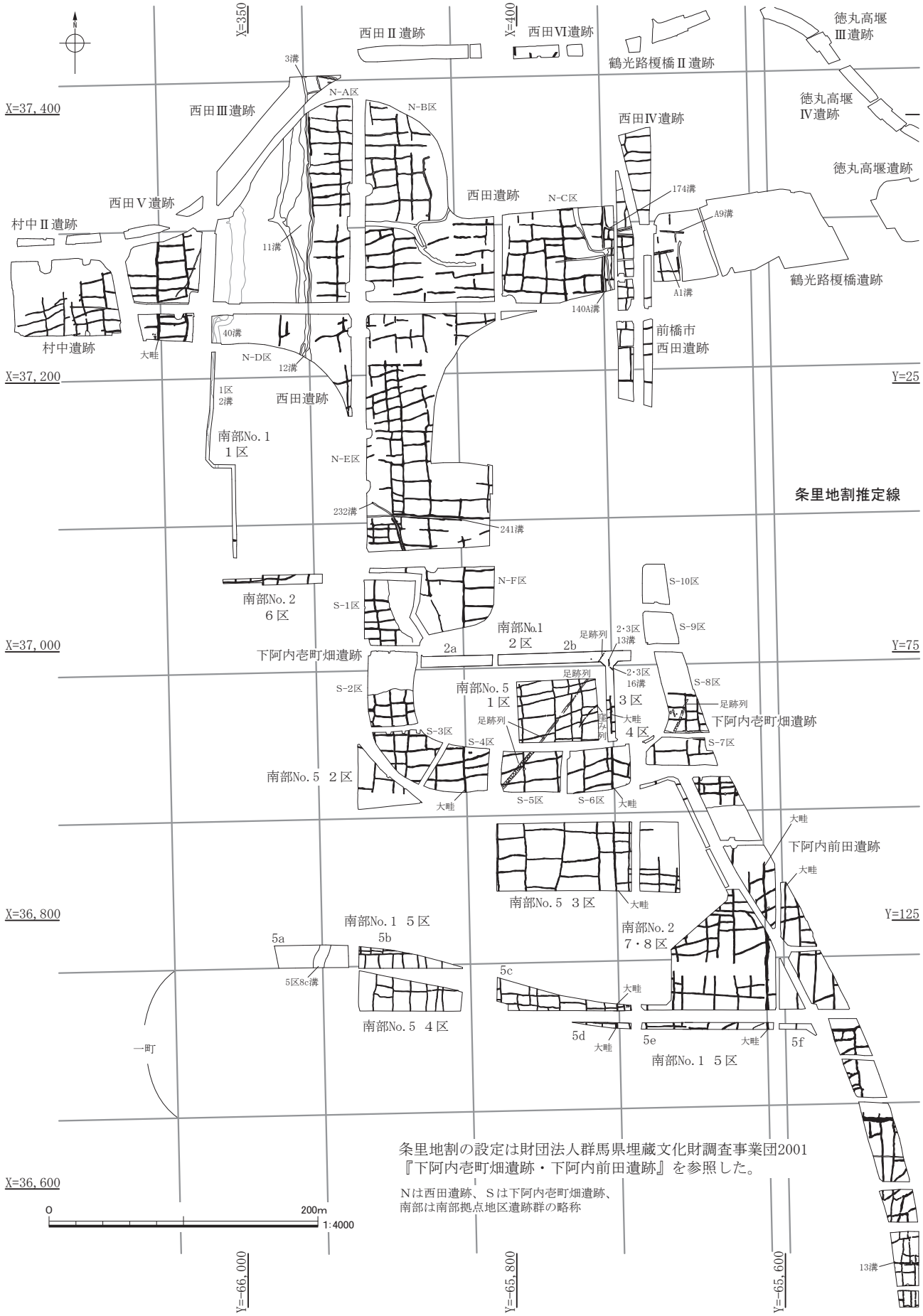
水田には水の給排水が不可欠であるが、本遺跡一帯の幹線水路と想定される溝が坪境ライン上に検出されている。西田Ⅲ遺跡３号溝、西田遺跡 11・12 号溝、南部拠点地区遺跡群№.1－5 区8c号溝がこれに当たる。北から南へ流下する幅広い溝で、走行方位は概ね南北大畦畔と同方位を指す。西田遺跡と南部拠点地区遺跡群№.1 の間に位置する南部拠点地区遺跡群№.2－６区では溝が検出されないため、これらの溝が一連のものかは検討を要するが、仮に連続すれば、走行距離 663 m（六町＝一里）以上の長大な灌漑施設が敷かれていたことになる。

１号足跡列（第 33 図）

足跡列は１・２・４区で計 15 列検出された。中でも１区で検出された１号足跡列は本遺跡を挟み、南部拠点地区遺跡群№.1- 2b区から下阿内壱町畑遺跡５区にかけて、約 130 m以上の距離を直線的に歩行しており特筆される。本遺跡での足跡の形態から、北東から南西へ向かって歩いていると判断した。走行方位はＮ－ 38°－Ｅを



第 32 図　古墳時代から平安時代における周辺の水田関連遺跡

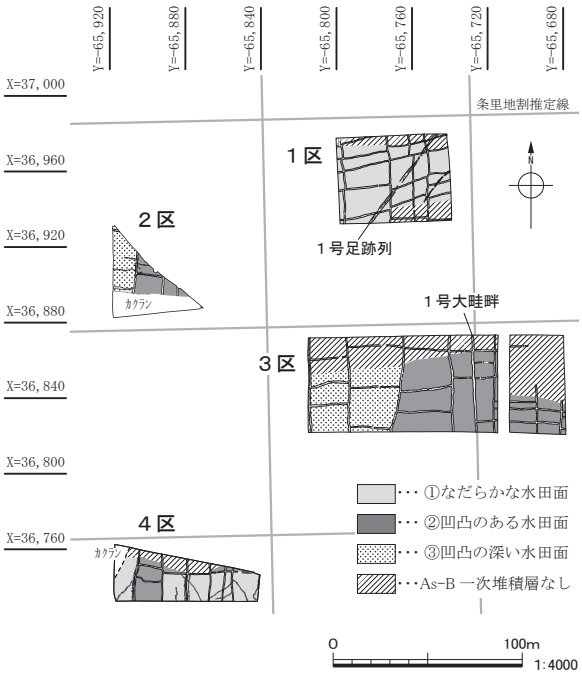


第 33 図　平安時代末期における周辺の水田関連遺跡

指す。畦畔の上を踏み潰し、水田区画を斜めに横切っている。この足跡列の南西延長線上には南部拠点地区遺跡群№.1- 5b区が位置するが、ここでは足跡列は検出されない。途中で方向を変えるか、歩き終わるものと思われる。足跡列は幅が広く、列幅は本遺跡で約 0.8 ～ 1.6 m、下阿内壱町畑遺跡で約 2.0 ～ 2.6 mを測り、その間には多数の足跡や円形・不整形の小窪みが確認される。本遺跡では個々の足跡がはっきりせず、幅広の窪みとなる箇所も多いが、下阿内壱町畑遺跡では明瞭に検出され、複数人の歩行が見込まれる。また、円形・不整形の小窪みについては、牛馬などの足跡である可能性も考慮される。

As-B 層下水田面の状態（第 34 図）

水田面には様々な痕跡が残されているが、大半は成因のはっきりしない凹凸である。この凹凸の深さを基準に概観すると、①なだらかで、凹凸があってもごく浅い面、②高低差２～３㎝ほどの凹凸がある面、③高低差３～６㎝ほどの深い凹凸がある面の３種類に大別できる。①は１・４区で確認された。両区ともに足跡列が検出され、畦畔に沿って歩行するものと、区画方向に対して斜めに歩行するものがある。後者が田の水を管理する重要な土壁である畦畔を踏み潰していることから、１・４区は水田として利用されていなかった可能性が高い。②は２～４区、③は２・３区で確認された。③は凹凸が足の裏に当たって歩き辛いほどで、特に２区の区画 32 は顕著であった。２・４区では足跡列が検出された。２区は状態の異なる②と③の区画間を歩行しており、①同様に畦畔を踏み越えている。しかし、２・４区ともに①の足跡列とは異なり、走行方位が畦畔に並行していることから、何らかの農耕作業に伴う可能性も考えられる。



第 34 図　As-B 層下水田面の状態

なお、４区では①と②が混在するが、どちらの区画も畦畔は高く明瞭に残り、違いは見られない。②・③が混在する２区も４区と同様で、畦畔の状態に違いはなく、概ね高く残っている。同じく②・③が混在する３区の畦畔は、２区とは異なり全体的に低く崩れているものの、やはり３区内での差はなかった。このように、畦畔に違いは認められるが、水田面の差異と畦畔の残存状態に関連性は見出せなかった。後世の削平を受ける As-B 層下水田跡において、埋没当時の水田状態を判断するには、畦畔の状態より水田面を観察する方が有効と言えよう。

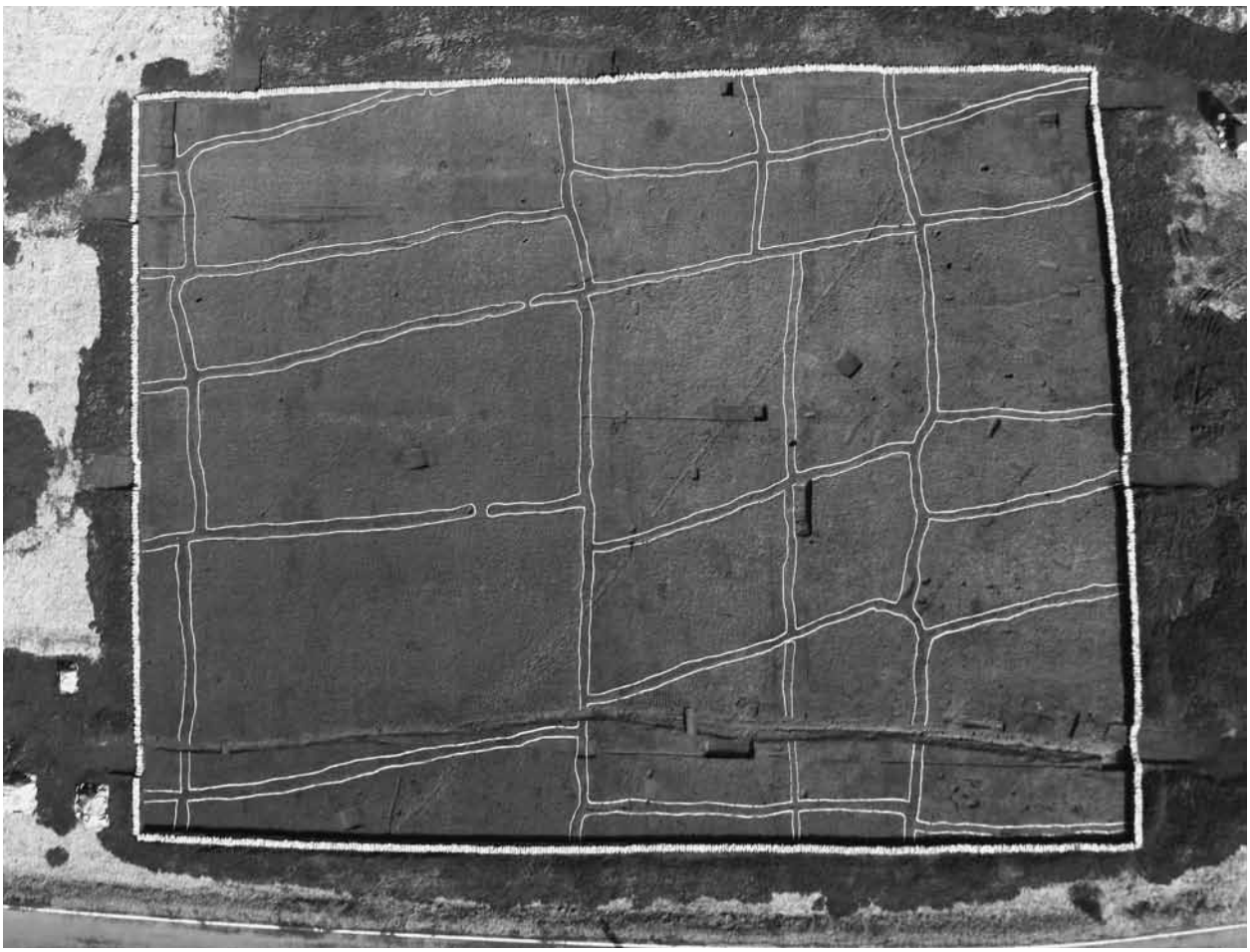
以上のように、区画によって水田面に違いがあり、それらの異なった区画が一坪内に混在している様子が看取できた。平安時代後期の水田耕地の中に、休耕田および耕作放棄されていた水田が広範に存在していたことは、既に文献史学の立場から明らかにされている（戸田 1969）。本遺跡の水田面の内、①の状態は休耕田あるいは放棄された田を表す可能性が高いと思われる。②・③の状態については、根拠に乏しく耕作田・休耕田を断定することは難しい。どちらにせよ、明らかに様相の違う区画が存在することから、本遺跡の水田面は、様々な状態の水田が混在していた当時の景観の在り方を表していると理解して良いのではないだろうか。

主要参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1996『西田遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999『西田Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999『西田Ⅳ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001『徳丸高堰Ⅳ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001『村中Ⅱ遺跡・西田Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009「南部拠点地区遺跡群№.1」
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群№.2』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001『下阿内壱町畑遺跡　下阿内前田遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001『宿横手三波川遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『鶴光路榎橋遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『西田遺跡・村中遺跡』
前橋市史編さん委員会 1971『前橋市史』第１巻
工楽善通 1991『水田の考古学』東京大学出版会
高井佳弘 2006「平安時代後期水田耕作の一様相」『生業の考古学』同成社
田村　孝 2003「発掘された水田」『新編高崎市史』通史編１
高崎市市史編さん委員会
戸田芳実 1969「中世初期農業の一特質」『日本領主制成立史の研究』岩波書店
町田　洋・新井房夫 1992『火山灰アトラス』東京大学出版会

写　真　図　版

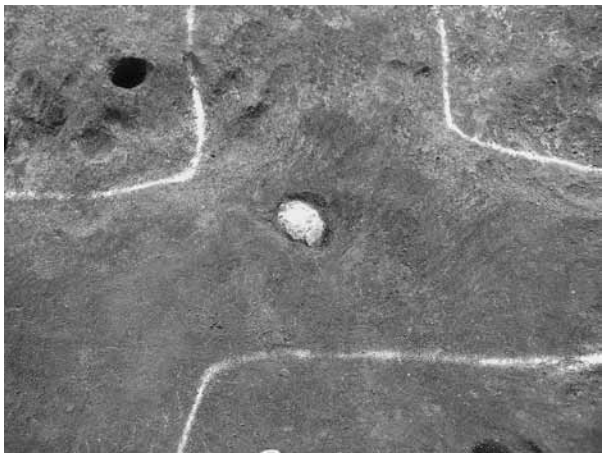
３区 As-B 層下水田跡の調査風景



1 区第 1 面全景（上が北）

1 区 As-B 層下水田跡（南西から）

1 区 As-B 層下水田跡　水口 6（西から）



1 区 As-B 層下水田跡　畦畔礫出土状況（北から）

1 区 As-B 層下水田跡　1 号足跡列（北東から）

図版２

２区第１面全景（上が北）

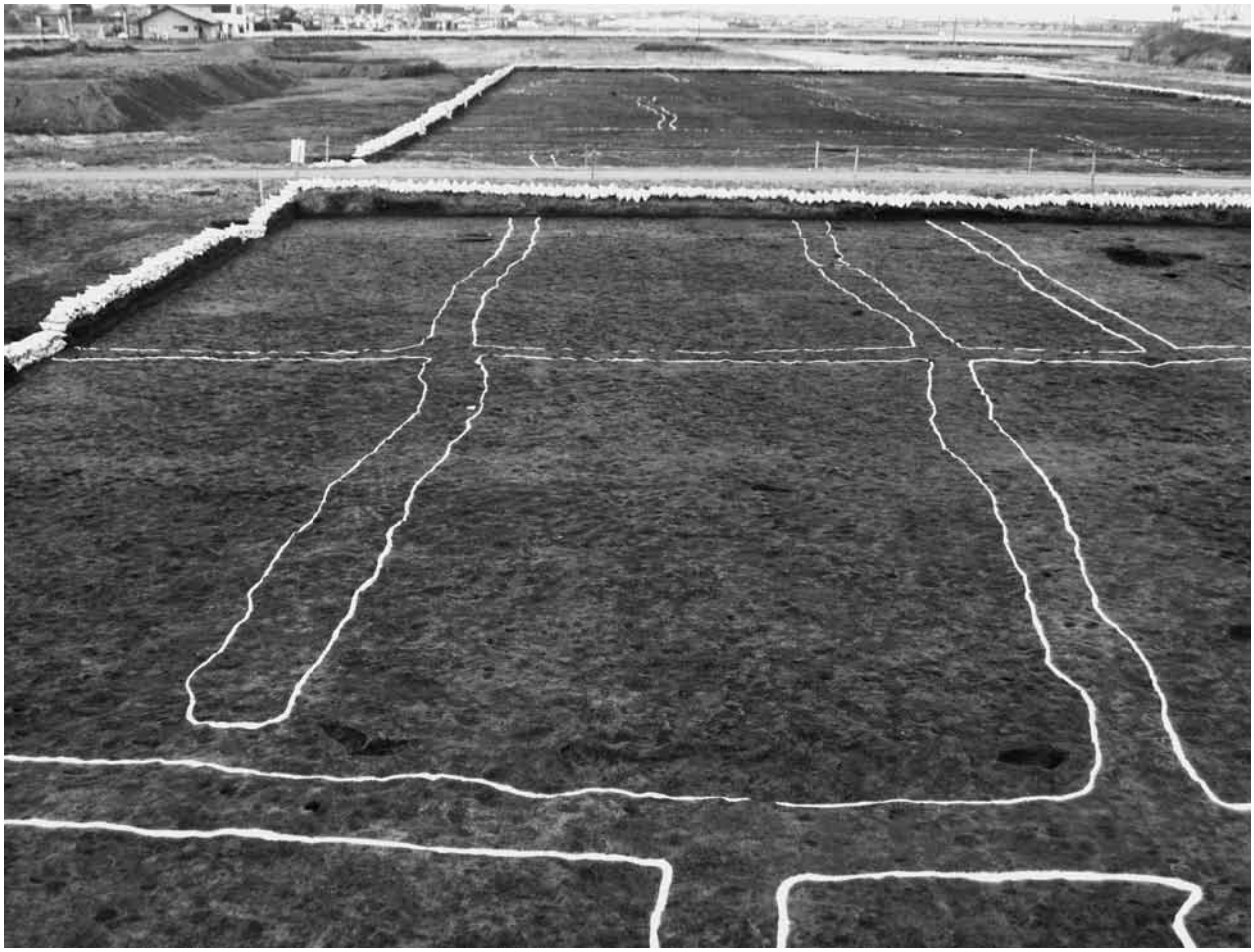
２区 As-B 層下水田跡（東から）

２区 As-B 層下水田跡　畦畔（北から）

２区 As-B 層下水田跡　２号足跡列（東から）

２区 As-B 層下水田跡　作業風景（西から）

３区第１面全景（上が北）



３区 As-B 層下水田跡（東から）

図版４

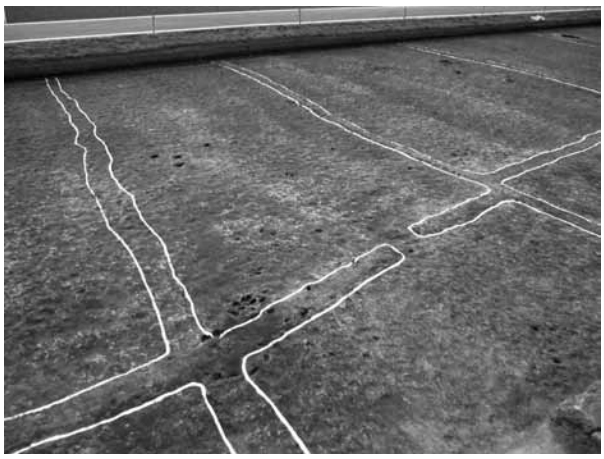
３区 As-B 層下水田跡　１号大畦畔（北から）

３区 As-B 層下水田跡　畦畔（北から）

３区 As-B 層下水田跡　畦畔礫出土状況（北から）

３区 As-B 層下水田跡　水口 11（北から）

４区第１面全景（上が北）



４区 As-B 層下水田跡（北東から）

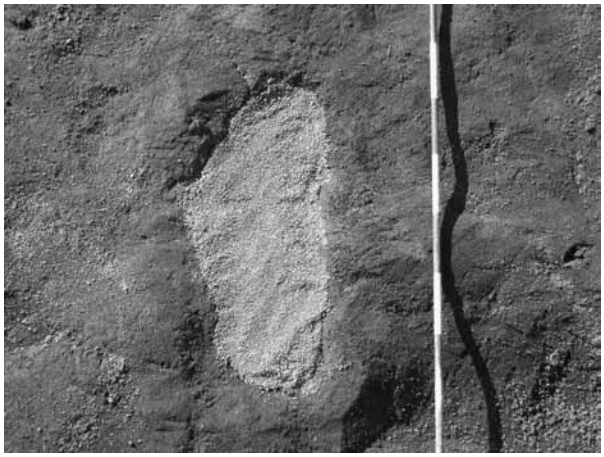
４区 As-B 層下水田跡　畦畔（東から）

４区 As-B 層下水田跡　畦畔（南東から）

４区 As-B 層下水田跡　畦畔断ち割り（北から）

４区 As-B 層下水田跡　水口 13（南東から）

４区 As-B 層下水田跡　14 号足跡列（南東から）

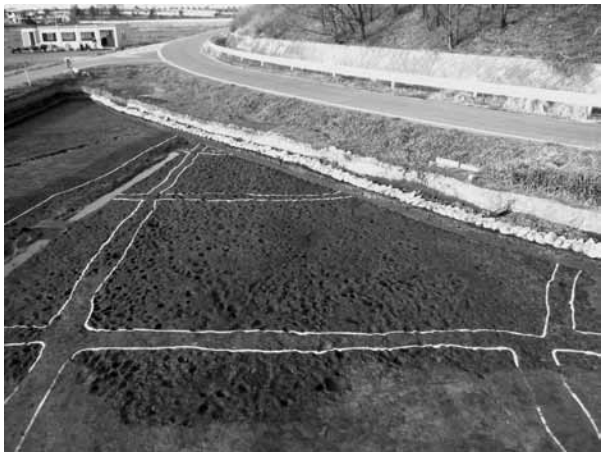


４区 As-B 層下水田跡　足跡近景（北西から）

４区 As-B 層下水田跡　作業風景（南西から）

図版６

２区 Hr-FA 層下水田跡（南から）



２区 Hr-FA 層下水田跡（南から）

２区 Hr-FA 層下水田跡　畦畔（北から）

２区 Hr-FA 層下水田跡　畦畔（南東から）

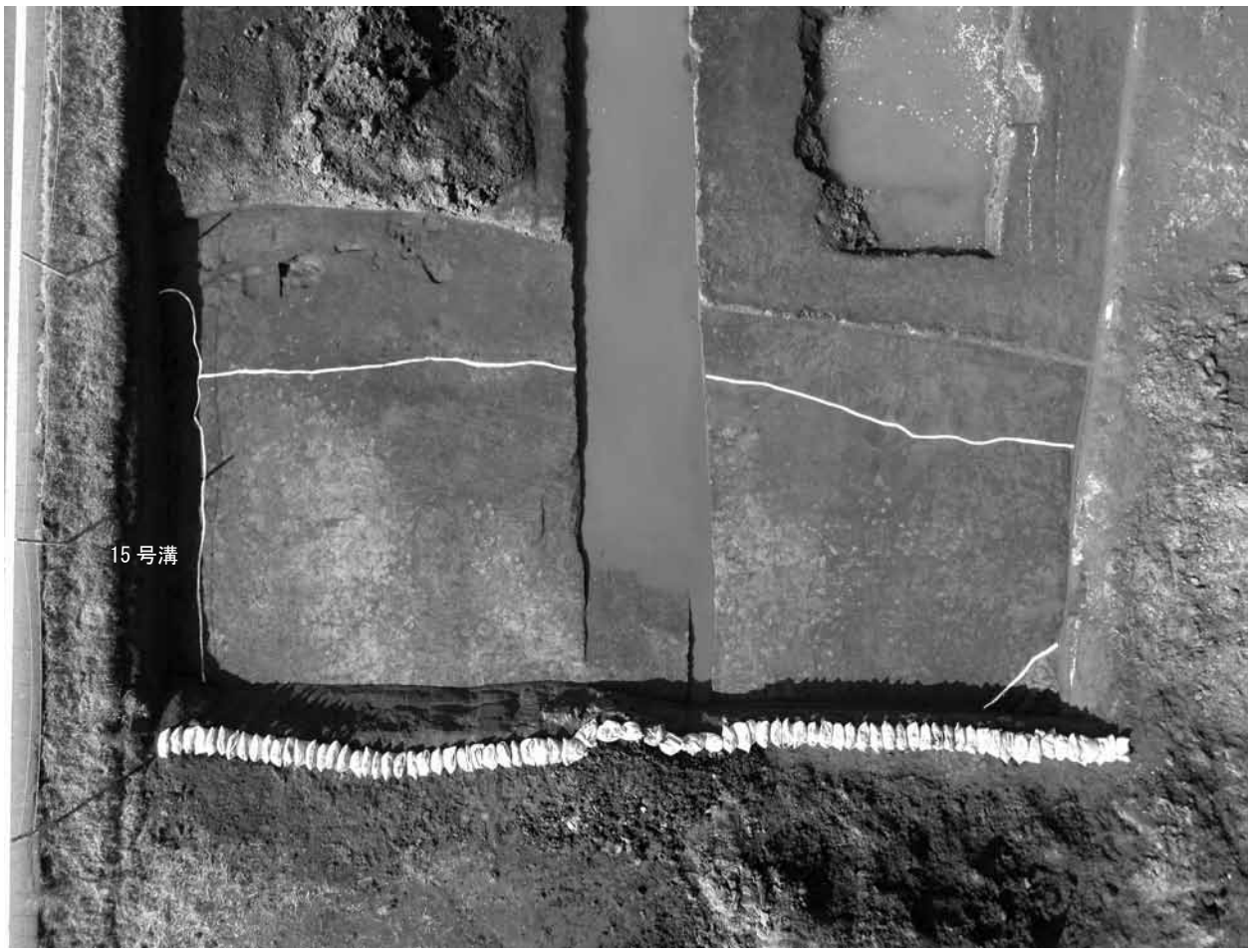
２区 Hr-FA 層下水田跡　遺物出土状況（南から）

13 号溝全景（南から）

13 号溝断面（南西から）

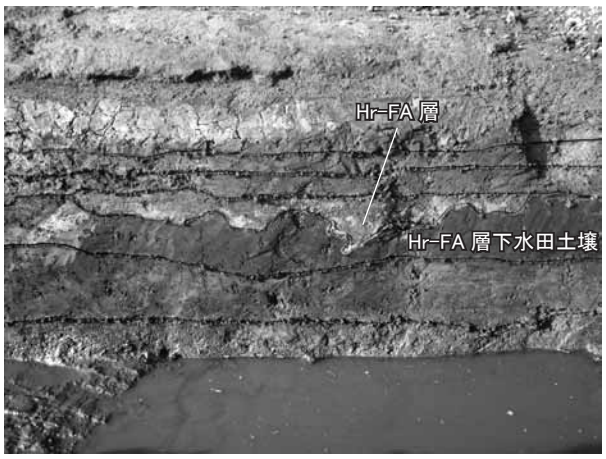
14 号溝全景（南から）

14 号溝断面（北東から）

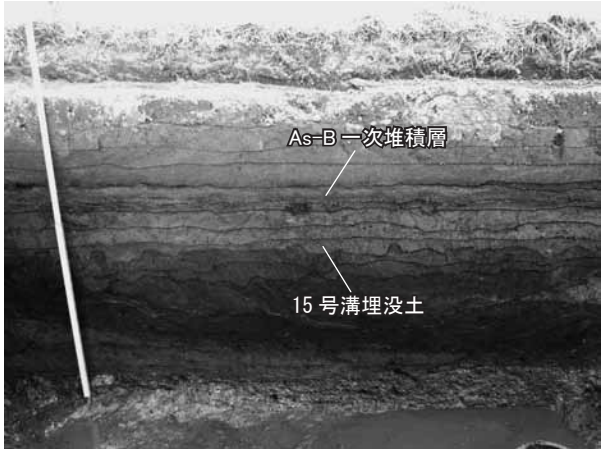


4 区 Hr-FA 層下水田跡（上が西）

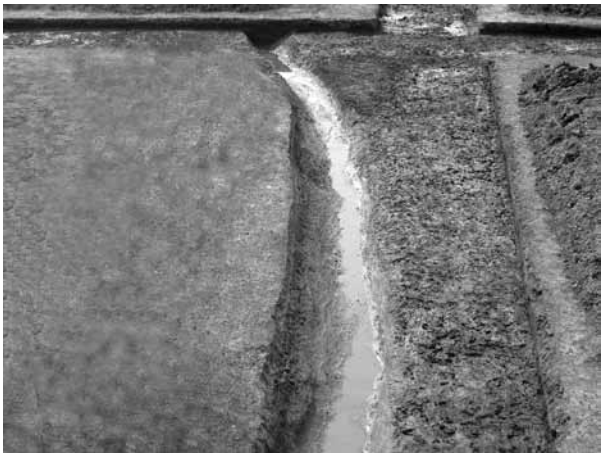
図版８



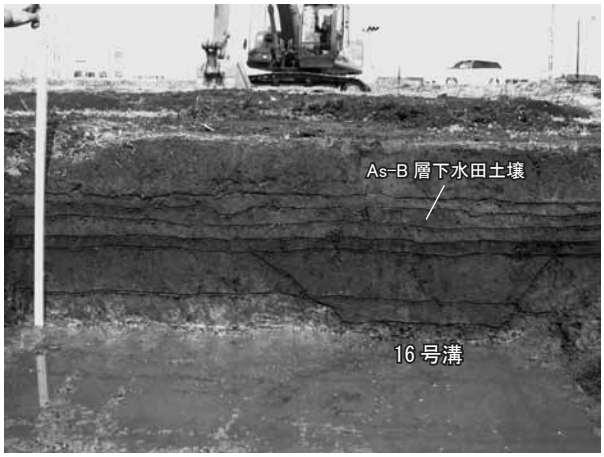
４区 Hr-FA 層下水田跡　断ち割り（南から）



15 号溝断面（北から）

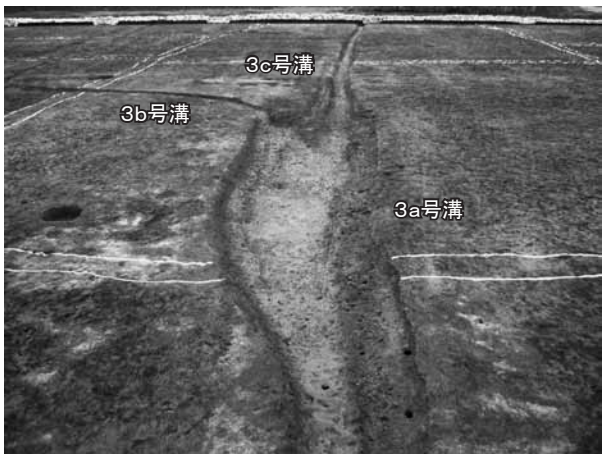


16 号溝全景（北から）

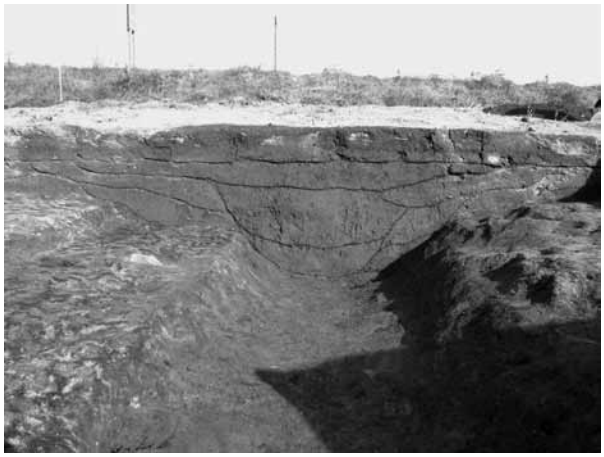


16 号溝断面（南から）

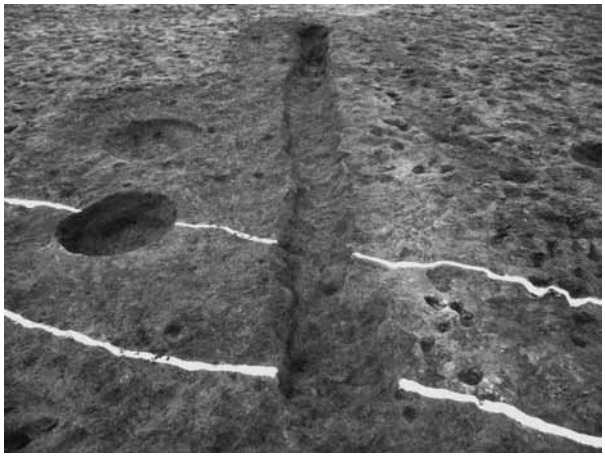
２号溝全景（北から）



３号溝全景（北から）



3号溝断面（南から）



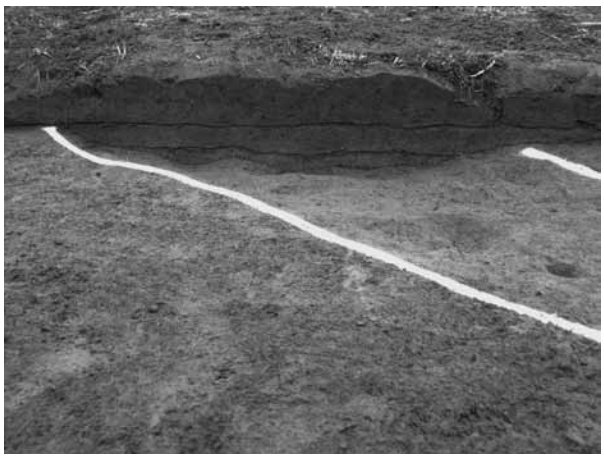
４号溝全景（東から）

５号溝全景（北から）

５号溝断面（北から）

６号溝全景（北から）

７・８号溝全景（北から）

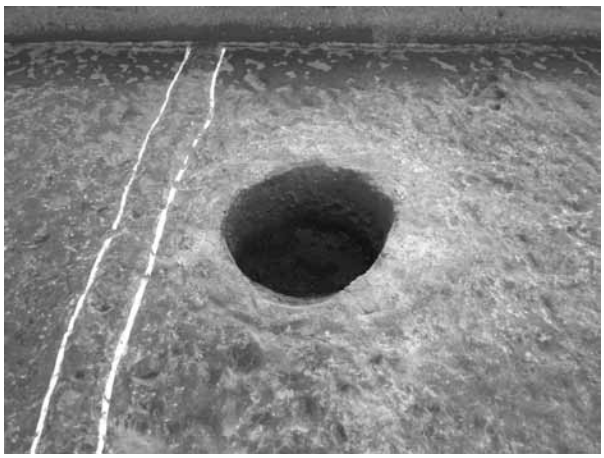

９号溝断面（南から）

10 号溝全景（西から）

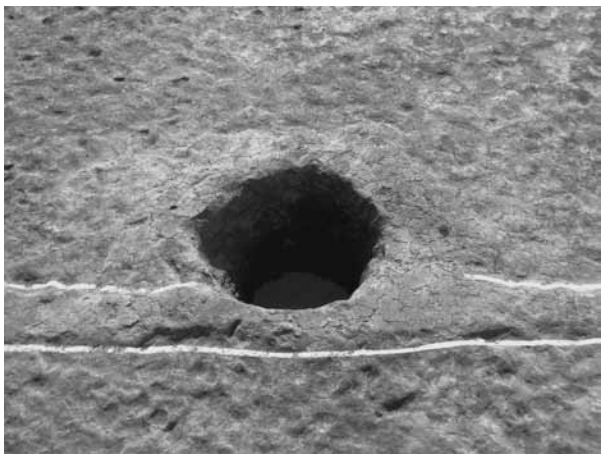
11 号溝全景（東から）

12 号溝全景（南から）

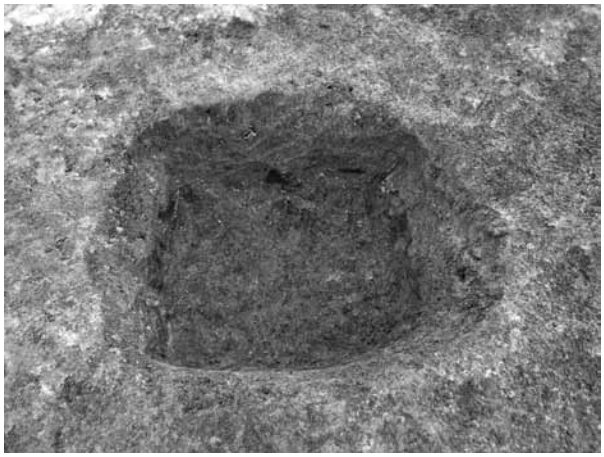
図版 10



１号土坑全景（北から）

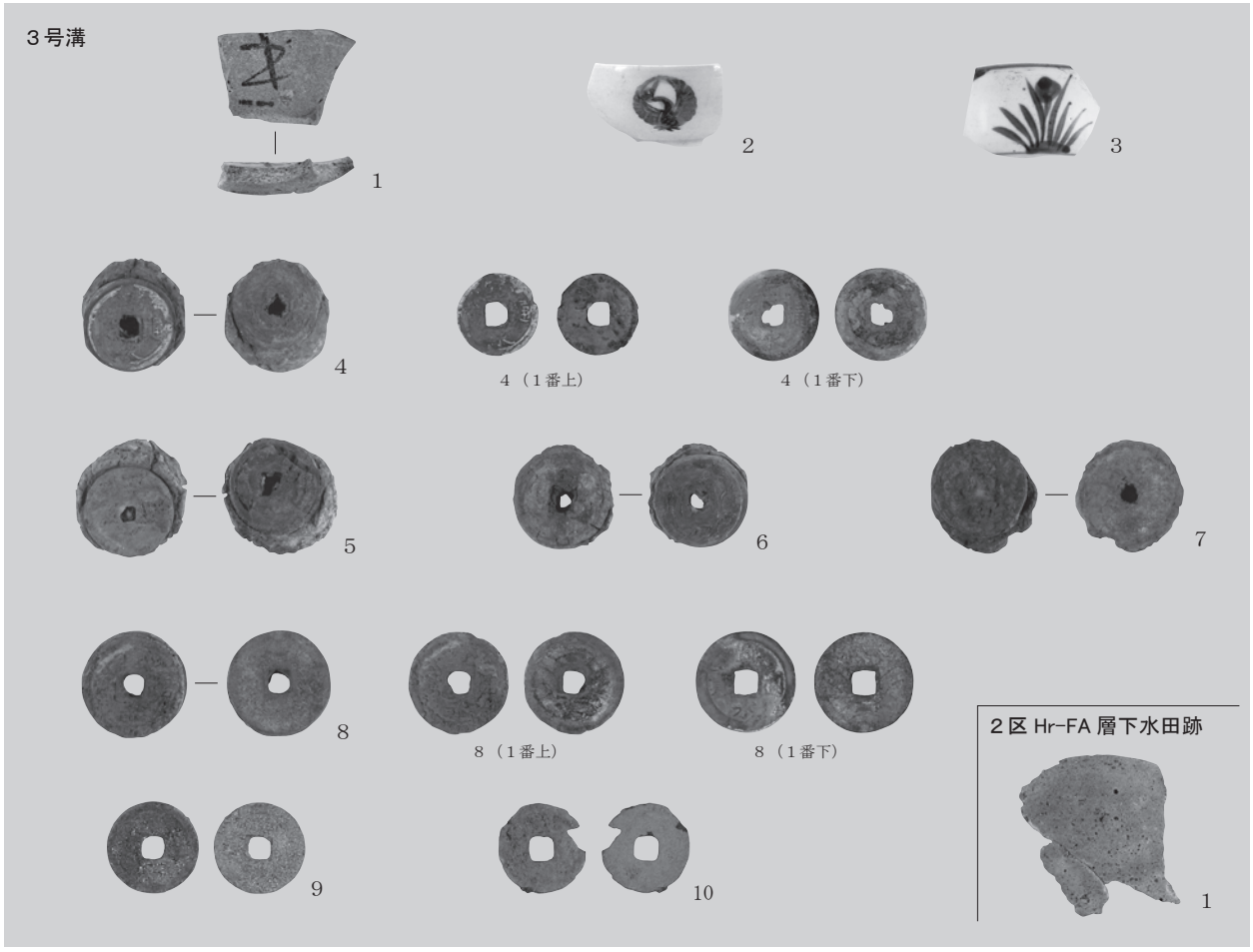


２号土坑全景（北から）



３号土坑全景（南から）

11 号土坑全景（南から）



出土遺物

抄　　録

ふりがな	なんぶきょてんちくいせきぐん
書名	南部拠点地区遺跡群№.5
副書名	前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書№.5
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	神宮　聡　　有山径世
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146　群馬県前橋市公田町1002番地1　TEL 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0018　群馬県前橋市三俣町2-10-2　TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦2010（平成22）年9月30日

所収遺跡名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		北緯	東経	調査期間	面積	調査原因
南部拠点地区遺跡群№.5（ナンブキョテンチク イセキグン）	群馬県前橋市下阿内町4番地ほか（グンマケンマエバシシ シモアウチマチ バンチ）	市町村	遺跡番号	36°19′50″	139°06′12″	20091214～20100327	15,135㎡	前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業
		10201	21G68					

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南部拠点地区遺跡群№.5	生産	古墳時代 平安時代 中近世以降	Hr-FA層下水田跡 溝4条 As-B層下水田跡 溝12条 土坑18基	土師器、須恵器 陶磁器、在地系土器、寛永通宝	広範囲に検出されたAs-B層下水田跡。 Hr-FA層下の水田跡。

南部拠点地区遺跡群№.5

前橋市南部拠点東地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書№.5

平成22年9月24日　印刷
平成22年9月30日　発行

編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／前橋市教育委員会
〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2-10-2
TEL 027-231-9531

印刷／朝日印刷工業株式会社